資料１別紙

第 10 期
せっつ高齢者かがやきプラン

摂津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

（素案）

令和８年（2026 年）10 月現在

摂津市

目次

第１章 計画策定にあたって……1

１　計画策定の趣旨……1
２　計画の概要……2
（１）計画の性格……2
（２）計画の位置づけ……2
３　計画の期間……3
４　計画策定の体制と方法……4
（１）計画策定の体制……4
（２）計画策定の方法……4

第２章 摂津市の現状……5

１　高齢者人口等の状況……5
（１）現在の人口……5
（２）人口の推移……6
（３）将来人口推計……9
（４）高齢者世帯数の推移……12
（５）第１号被保険者の計画対比……14
２　高齢者人口等の状況……15
（１）要支援・要介護認定者数の推移……15
（２）要支援・要介護認定者数の計画対比……18
（３）要支援・要介護者の状態……19
３　地域分析……22
（１）介護サービス自給率……22
（２）サービス提供体制……22
（３）医療介護連携の体制……23
（４）全国を１とした地域差指数……23
（５）地域の概況……24
３　実態調査からみた高齢者の現状や課題……25
（１）調査目的……25
（２）調査の実施について……25
（３）調査の実施について……25
（４）調査結果の概要……27

第３章 計画の基本目標と施策体系 76

1 基本理念 76
2 基本目標 76
（１）いつまでも健康で、生きがいを持って暮らせるまちづくり 76
（２）様々な人が連携し、支え合えるまちづくり 76
（３）高齢者が安心してサービスを受けられるまちづくり 76
3 施策体系 77

第1章　計画策定にあたって

1　計画策定の趣旨

○日本の総人口は 2008 年(平成 20 年)をピークに減少に転じ、長期の人口減少過程に突入し、少子高齢化は依然として進んでいる状況です。
○「日本の将来推計人口（令和 5 年推計)」では、2031 年(令和 13 年)に人口 1 億 2,000 万人を下回った後も減少を続け、2056 年(令和 38 年)には 1 億人を割って 9,965 万人になると推計されていますが、2017 年(平成 29 年)推計より、人口減少の速度は鈍化しています。
○2025 年に団塊の世代が後期高齢化を迎えました。今後も高齢化は進み、2040 年には介護と医療の複合ニーズを抱える 85 歳以上の高齢者が増加するとともに、認知症高齢者やひとり暮らしの高齢者の増加も見込まれています。
○また 2040 年に向けて高齢化や人口減少のスピードは地域によって異なり、各地域のサービス需要が変化していく中で、中長期的な視点を持って高齢者施策を考えていく必要があります。
○「第 10 期せっつ高齢者かがやきプラン（以下、「本計画」という)」は、これまでの本市の取組等の点検・評価を行い、次期高齢者計画に必要な新たな視点を取り入れながら、策定しました。

第 10 期介護保険事業（支援）計画の基本指針（大臣告示）のポイント（案）

○2040 年（令和 22 年）にかけて地域のサービス需要が変化していく中で、第 10 期介護保険事業計画から、都道府県が積極的に関与しながら、2040 年（令和 22 年）等の中長期の介護サービス見込量を見据えて策定していくことが重要とされています。

第 10 期介護保険事業（支援）計画の基本指針に盛り込むことが考えられる主な事項のイメージ

○介護サービス基盤の計画的な整備
① 介護保険事業（支援）計画の策定
- 中長期的な地域の人口動態や介護ニーズの見込み等を適切に捉えて、都道府県と市町村が 2040 年度（令和 22 年）を見据えた中長期的な推計を実施し、共通の課題認識を持った上で、地域の関係者を含めてサービス提供体制の在り方を検討。
- 計画策定における都道府県の関与や医療・介護連携の強化等のため、計画の策定過程における議論のプロセスを整理。
- 計画策定に当たって都道府県・市町村や関係者が確認すべき指標や状況の提示等により、地域の現状把握・分析や計画策定を支援。

② 地域の実情に応じたサービス提供体制の構築
- 地域の類型（中山間・人口減少地域、大都市部、一般市等）を念頭に置いた計画策定。中山間・人口減少地域においては、関係者の意見を聞きながら、必要な対応（人材確保や生産性向上等の施策、新たな類型を含む特例介護サービスの活用等）について議論。
- 医療との連携状況や有料老人ホーム等の高齢者向け住まいの入居の状況等を踏まえたサービス提供体制の構築。

○地域包括ケアシステムの深化
① 総合事業の多様なサービス・活動の充実に向け、多様な主体とのつながりづくり等の更なる支援や質の向上を図るための分析・評価等を推進。
② 頼れる身寄りがいない高齢者等の生活ニーズを地域課題として解決するため、関係者を含めて地域全体で対応を協議し、切れ目のない支援が提供される地域づくりを推進。
③ 認知症基本法及び認知症施策推進基本計画を踏まえた取組の推進。

○介護人材確保と職場環境改善に向けた生産性向上、経営改善支援等
① 都道府県が主体となって介護人材確保に関するプラットフォームを構築するとともに、生産性向上等の取組の促進を図るための協議会を設置し、地域の関係者が協働して課題解決に向けた実践的な取組を推進。
② テクノロジーの更なる活用等による生産性向上や、協働化・大規模化の推進等による経営基盤の強化等を推進。

資料：2026 年(令和８年) 6 月 29 日厚生労働省「社会保障審議会介護保険部会（第 135 回）」より作成

２　計画の概要

（１）計画の性格

本計画は、老人福祉法第20条の８の規定に基づく「高齢者福祉計画」（法律上は、「老人福祉計画」）及び介護保険法第117条の規定に基づく「介護保険事業計画」を一体的に策定するものです。

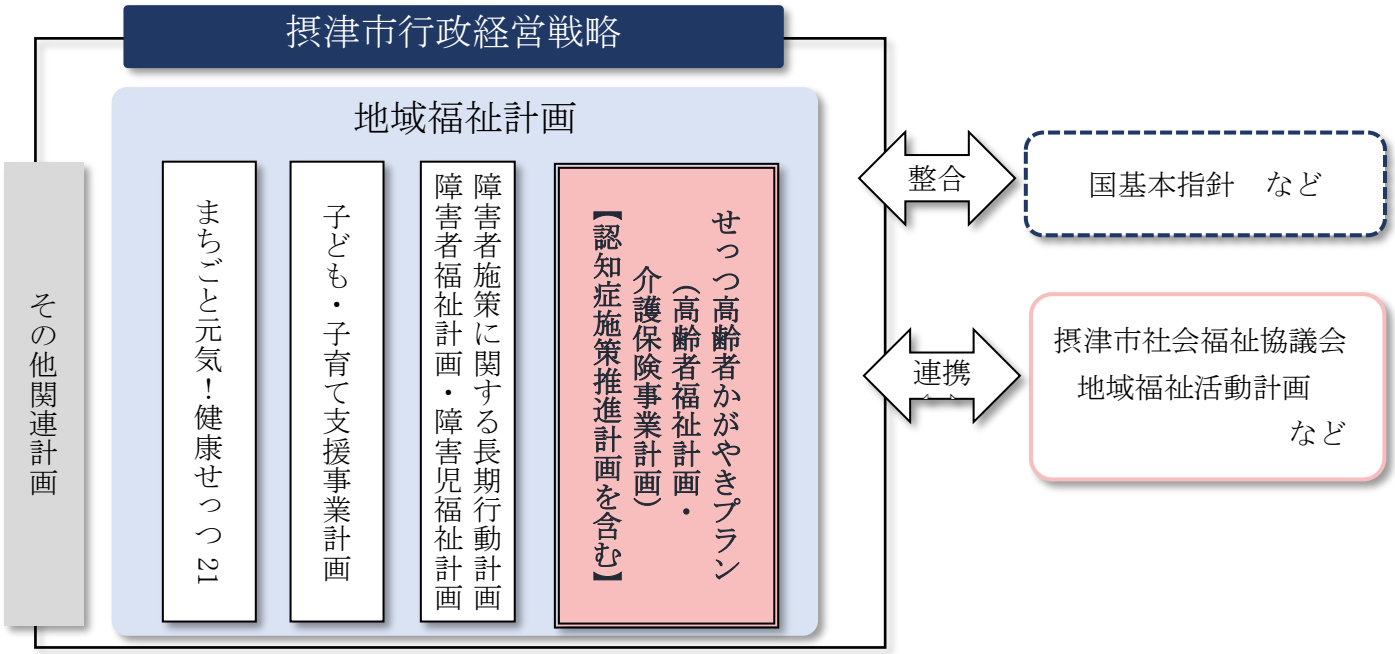
「高齢者福祉計画」は、全ての高齢者を対象とした福祉サービスの提供や、健康づくり、生きがいづくり、介護予防、福祉のまちづくり等、福祉事業全般に関する施策を計画の対象とし、「介護保険事業計画」は、厚生労働大臣が定める「介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施を確保するための基本的な指針」に則しながら、本市の実情に応じて、介護保険事業に関わる保険給付の円滑な実施を図るための方策等を定めます。

また、本計画は、地域包括ケア計画として地域包括ケア実現のための方向性を承継しつつ、団塊ジュニア世代（昭和46年（1971年）から昭和49年（1974年）までの４年間に出生した世代）が65歳以上となる令和22年（2040年）を見越し地域包括ケアシステムを一層、深化・推進するものであり、「第９期せっつ高齢者かがやきプラン（摂津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）」の理念や考え方を継承するものとします。

さらに、本計画においては、本市における認知症施策を総合的かつ計画的に推進するため、認知症基本法の理念に基づき、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望をもって、自分らしく暮らすことができるよう、「高齢者保健福祉計画」に「認知症施策推進計画」を包含する形で策定します。

（２）計画の位置づけ

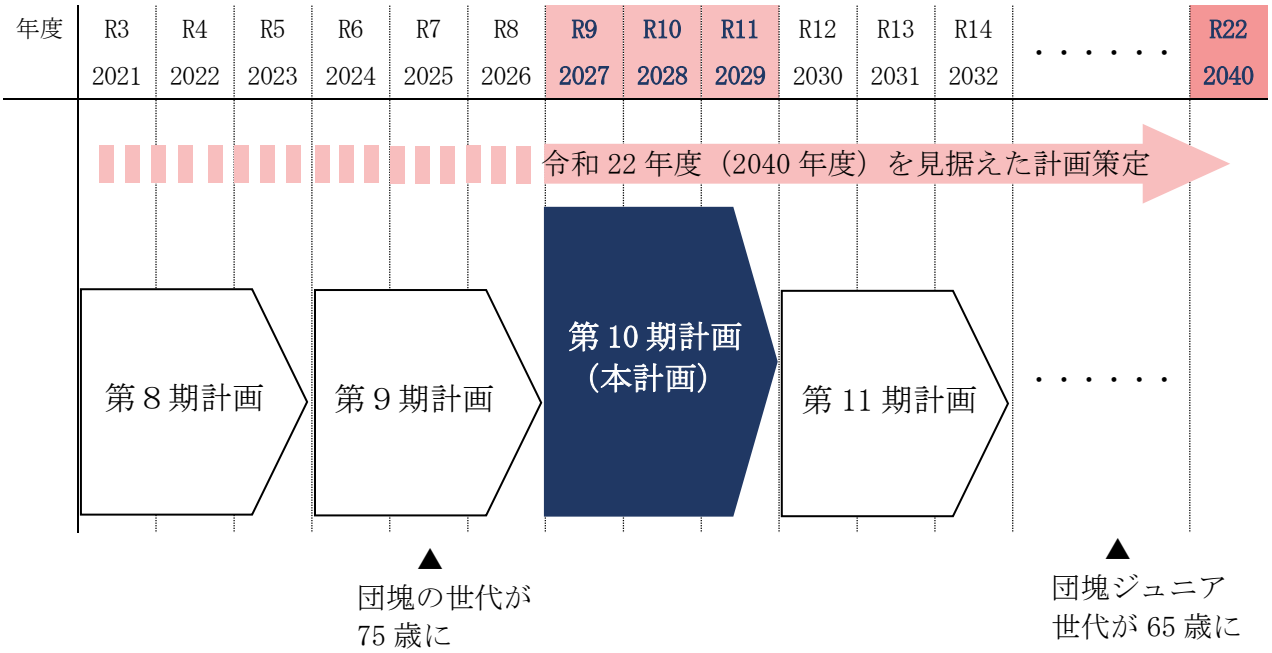
本計画は、「摂津市行政経営戦略基本計画」を上位計画とし、「地域福祉計画」や「健康増進計画（まちごと元気！健康せっつ21）」などの関連計画・関連法令との整合を図りつつ、関連施策・事業と連携して策定します。



3　計画の期間

介護保険事業計画は３年ごとに見直しを行うこととなっているため、本計画は令和９年度（2027年度）から令和11年度（2029年度）となります。高齢者保健福祉計画も介護保険事業計画と一体的に策定することから、高齢者保健福祉計画の計画期間も令和９年度（2027年度）から令和11年度（2029年度）となります。

いわゆる団塊の世代が75歳となる令和７年（2025年）を経て、団塊ジュニア世代が65歳以上となる令和22年（2040年）を見据えてサービス・給付・保険料の水準を推計し、中長期的な視野に立った施策の展開を図ります。



4　計画策定の体制と方法

高齢者などの現状をふまえ、その意向を幅広く反映した計画としていくことを基本的な考えとして、以下の体制と方法で策定します。

（１）計画策定の体制

幅広い知見を集め、総合的な検討を進めるため、本市の高齢者福祉事業・介護保険事業を総合的に審議する機関であり、学識経験者、市内の保健・医療・福祉関係機関、市民団体などから構成される「摂津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進審議会」で、審議しながら策定しました。また、庁内において、関係部局と連携し、次項の方法で市民の意見や意向を把握し、大阪府とも調整を図りながら、策定しました。

（２）計画策定の方法

①　アンケート調査の実施

計画策定の基礎資料とするため、要介護認定者を除く50歳以上の市民を対象とした「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を実施するとともに、要支援・要介護認定者を対象とした「在宅介護実態調査」を実施しました。

②　パブリックコメントの実施

計画の策定にあたっては、広く市民の意見が反映されたものにしていくことが重要です。そのため、市ホームページをはじめ、市役所や公民館、図書館、高齢者施設などを通じて、パブリックコメントを実施し、計画への反映に努めます。

③　国・大阪府との調整及び連携

本計画の策定過程においては、国の動向を捉えつつ、厚生労働省が示す方向や地域包括ケア「見える化」システムを参照しました。また、大阪府から技術的事項における助言を受け、協議を行い計画に反映しました。さらに、大阪府高齢者計画及び大阪府医療計画との整合を図りました。

地域包括ケア「見える化」システムとは

地域包括ケア「見える化」システムは、都道府県・市町村における介護保険事業（支援）計画等の策定・実行を総合的に支援するための情報システムです。介護保険に関連する情報をはじめ、地域包括ケアシステムの構築に関する様々な情報が本システムに一元化され、かつグラフ等を用いた見やすい形で提供されます。

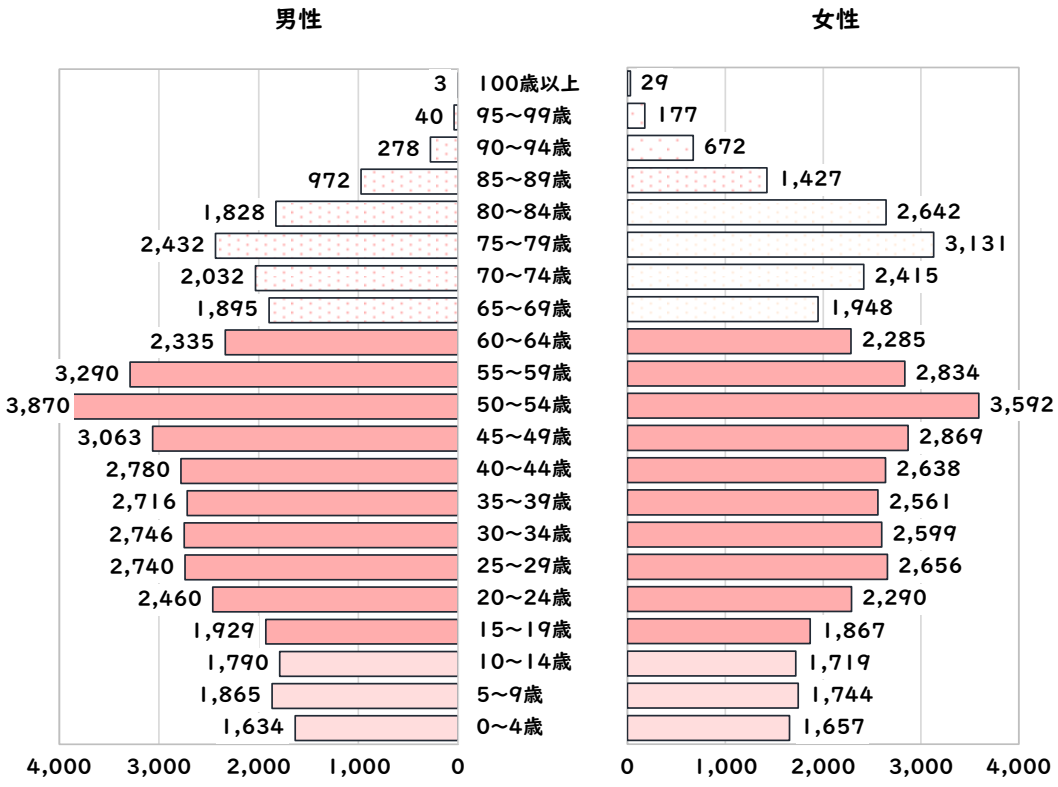
第2章　摂津市の現状

1　高齢者人口等の状況

（１）現在の人口

2025年における年齢階層別の人口構成をみると、人口が最も多い年齢層は50～54歳（男性3,870人、女性3,592人）となっています。次いで男性は55～59歳（3,290人）、女性は70～74歳（3,131人）となっています。一方で、20代以下の若年層や10代以下の子供の世代になるほど人口が減少していく、いわゆる「つぼ型」の人口ピラミッドとなっています。

【人口ピラミッド　(2025 年)】



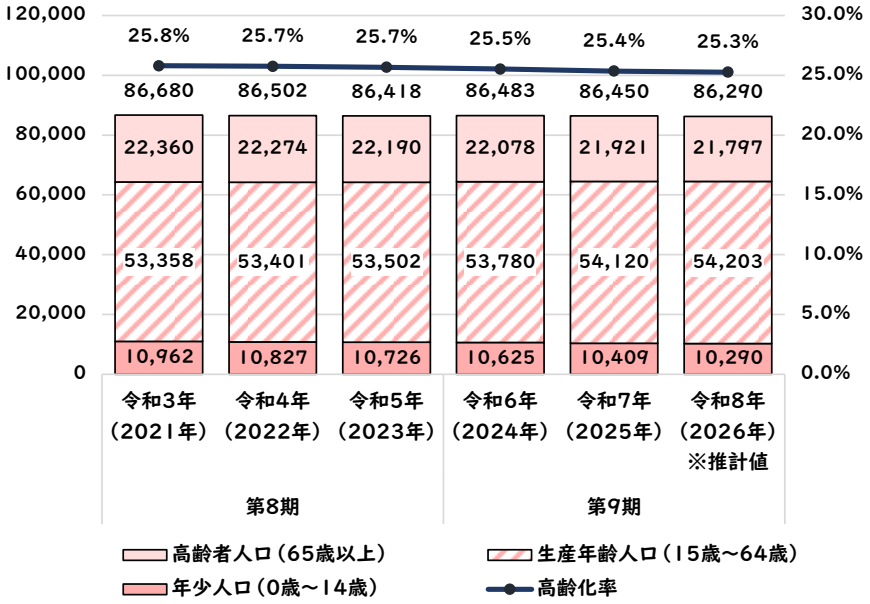
※資料：住民基本台帳　令和７年９月末現在

（２）人口の推移

①人口構成の推移

人口の推移をみると、総人口は横ばい傾向にあります。生産年齢人口は緩やかに増加する一方、高齢者人口は緩やかに減少しており、高齢化率は令和７年に25.4%となっています。また、令和7年の総人口に占める75歳以上の割合は、15.8%となっています。

【人口・高齢化率の推移】



単位：人

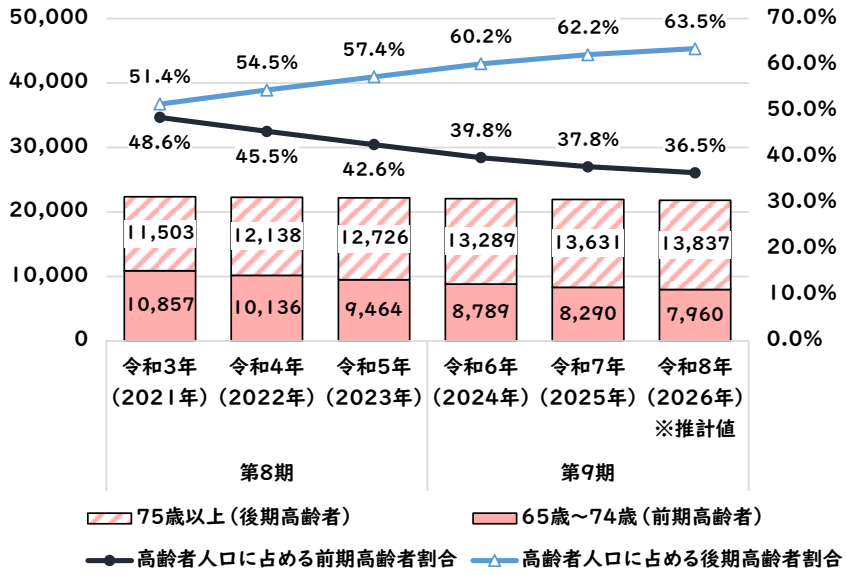
	第8期			第9期		
	令和3年（2021年）	令和4年（2022年）	令和5年（2023年）	令和6年（2024年）	令和7年（2025年）	令和8年（2026年）※推計値
総人口	86,680	86,502	86,418	86,483	86,450	86,290
年少人口（0歳～14歳）	10,962	10,827	10,726	10,625	10,409	10,290
生産年齢人口（15歳～64歳）	53,358	53,401	53,502	53,780	54,120	54,203
40歳～64歳	28,861	29,075	29,228	29,379	29,556	29,645
高齢者人口（65歳以上）	22,360	22,274	22,190	22,078	21,921	21,797
65歳～74歳（前期高齢者）	10,857	10,136	9,464	8,789	8,290	7,960
75歳以上（後期高齢者）	11,503	12,138	12,726	13,289	13,631	13,837
高齢化率	25.8%	25.7%	25.7%	25.5%	25.4%	25.3%
総人口に占める75歳以上の割合	13.3%	14.0%	14.7%	15.4%	15.8%	16.0%

※資料：住民基本台帳　各年９月末現在

②高齢者人口の推移

高齢者人口の推移をみると、前期高齢者は減少傾向、後期高齢者は増加傾向にあり、令和７年では前期高齢者が8,290人、後期高齢者が13,631人と、令和３年から前期高齢者2,567人の減少、後期高齢者2,128人の増加となっています。高齢者人口に占める後期高齢者の割合は増加を続けており、令和７年では62.2%となっています。

【高齢者人口の推移】



単位：人

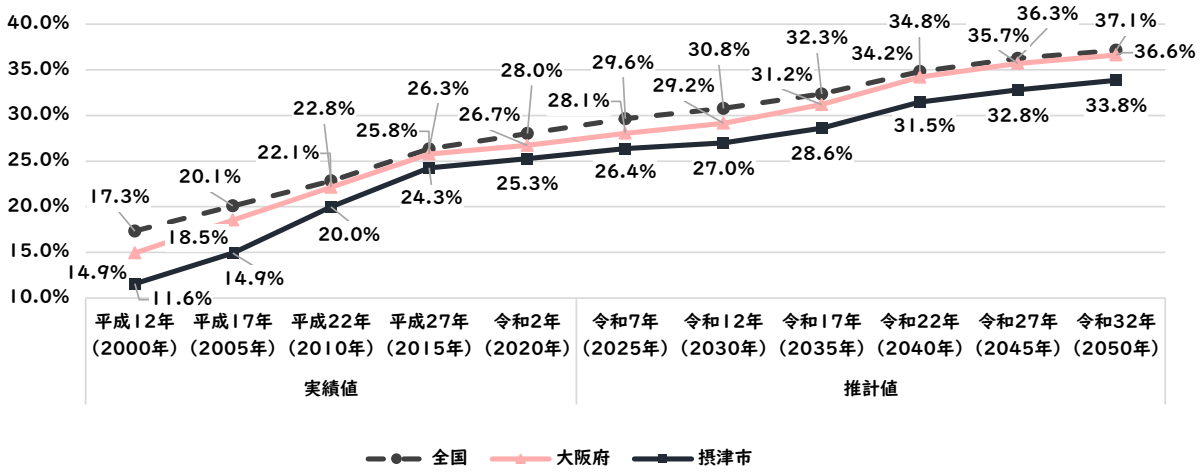
	第8期			第9期		
	令和3年（2021年）	令和4年（2022年）	令和5年（2023年）	令和6年（2024年）	令和7年（2025年）	令和8年（2026年）※推計値
高齢者人口（65歳以上）	22,360	22,274	22,190	22,078	21,921	21,797
65歳～74歳（前期高齢者）	10,857	10,136	9,464	8,789	8,290	7,960
75歳以上（後期高齢者）	11,503	12,138	12,726	13,289	13,631	13,837
高齢者人口に占める前期高齢者割合	48.6%	45.5%	42.6%	39.8%	37.8%	36.5%
高齢者人口に占める後期高齢者割合	51.4%	54.5%	57.4%	60.2%	62.2%	63.5%

※資料：住民基本台帳　各年９月末現在

③高齢化率の比較

本市の高齢化率は、全国と比べて低くなっていますが、全国と同様に高くなっていくことが予想されます。

【高齢化率の比較】



	実績値					推計値
	平成12年（2000年）	平成17年（2005年）	平成22年（2010年）	平成27年（2015年）	令和2年（2020年）	令和7年（2025年）
全国	17.3%	20.1%	22.8%	26.3%	28.0%	29.6%
大阪府	14.9%	18.5%	22.1%	25.8%	26.7%	28.1%
摂津市	11.6%	14.9%	20.0%	24.3%	25.3%	26.4%

	推計値				
	令和12年（2030年）	令和17年（2035年）	令和22年（2040年）	令和27年（2045年）	令和32年（2050年）
全国	30.8%	32.3%	34.8%	36.3%	37.1%
大阪府	29.2%	31.2%	34.2%	35.7%	36.6%
摂津市	27.0%	28.6%	31.5%	32.8%	33.8%

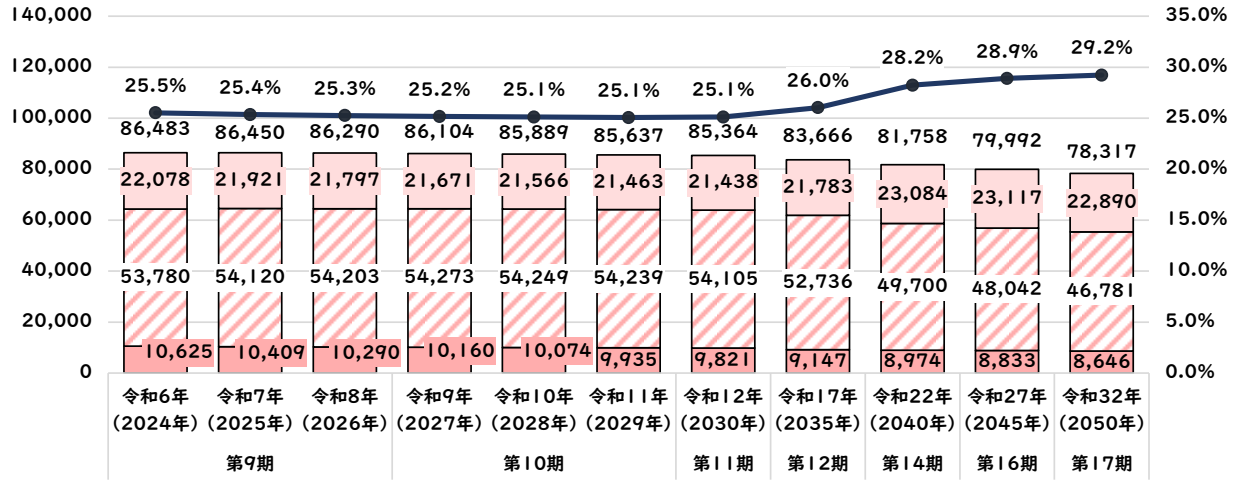
※資料：国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口（令和５年推計）」
各年 10 月１日現在

（３）将来人口推計

①人口の将来推計

令和６年（2024年）から令和32年（2050年）にかけての将来推計をみると、総人口は86,483人から78,317人へと減少が続く見込みです。生産年齢人口も53,780人から46,781人へと減少します。高齢者人口（65歳以上）は、令和12年（21,438人）にかけて一度減少したのち、令和27年（23,117人）に増加傾向が見られますが、その後は再び減少に転じる推計となっています。高齢化率については、高齢者人口と同様、令和12年までは減少傾向がみられますがその後、令和32年には29.2%まで上昇する見込みとなっています。

【人口・高齢化率の推計】



単位：人

	第9期			第10期		
	令和6年（2024年）	令和7年（2025年）	令和8年（2026年）	令和9年（2027年）	令和10年（2028年）	令和11年（2029年）
総人口	86,483	86,450	86,290	86,104	85,889	85,637
年少人口（0歳～14歳）	10,625	10,409	10,290	10,160	10,074	9,935
生産年齢人口（15歳～64歳）	53,780	54,120	54,203	54,273	54,249	54,239
40歳～64歳	29,379	29,556	29,645	29,694	29,774	29,717
高齢者人口（65歳以上）	22,078	21,921	21,797	21,671	21,566	21,463
65歳～74歳（前期高齢者）	8,789	8,290	7,960	7,786	7,720	7,777
75歳以上（後期高齢者）	13,289	13,631	13,837	13,885	13,846	13,686
高齢化率	25.5%	25.4%	25.3%	25.2%	25.1%	25.1%
総人口に占める75歳以上の割合	15.4%	15.8%	16.0%	16.1%	16.1%	16.0%

	第11期	第12期	第14期	第16期	第17期
	令和12年（2030年）	令和17年（2035年）	令和22年（2040年）	令和27年（2045年）	令和32年（2050年）
総人口	85,364	83,666	81,758	79,992	78,317
年少人口（0歳～14歳）	9,821	9,147	8,974	8,833	8,646
生産年齢人口（15歳～64歳）	54,105	52,736	49,700	48,042	46,781
40歳～64歳	29,606	28,292	26,294	25,901	25,690
高齢者人口（65歳以上）	21,438	21,783	23,084	23,117	22,890
65歳～74歳（前期高齢者）	7,947	9,690	11,937	11,459	9,580
75歳以上（後期高齢者）	13,491	12,093	11,147	11,658	13,310
高齢化率	25.1%	26.0%	28.2%	28.9%	29.2%
総人口に占める75歳以上の割合	15.8%	14.5%	13.6%	14.6%	17.0%

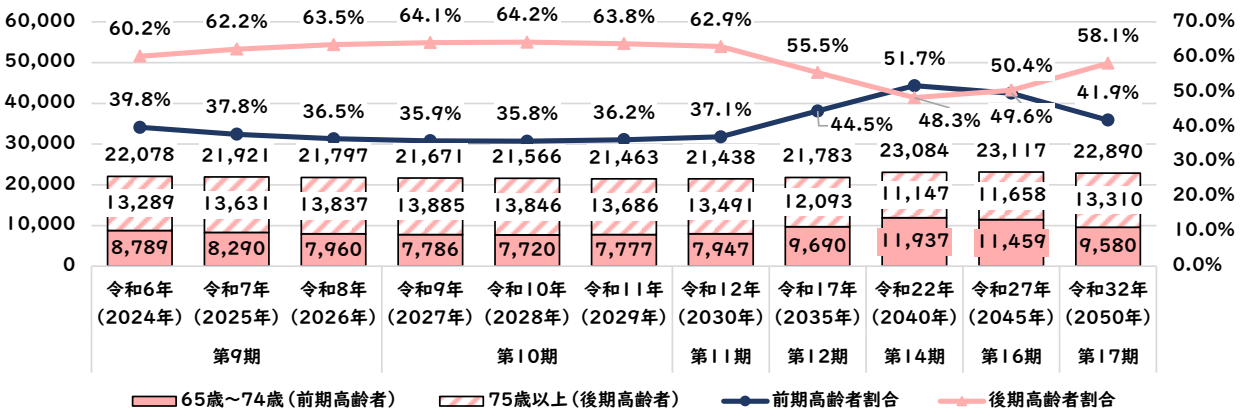
※資料：住民基本台帳人口をもとにコーホート変化率法で推計

※「コーホート変化率法」は、同年に出生した集団（コーホート）の過去における実績人口の変化率に基づき将来人口を推計する方法

②高齢者人口の推計

高齢者人口の将来推計の内訳をみると、前期高齢者（65～74歳）は令和10年（7,720人）まで減少したのち増加に転じ、令和22年（11,937人）にピークを迎えた後、再び減少します 。一方で、後期高齢者（75歳以上）は令和9年（13,885人）まで微増したのち減少傾向となり、令和22年（11,147人）に底を迎えた後、再び増加へと転じる推計となっています 。高齢者人口に占める後期高齢者の割合は、令和10年の64.2%をピークに一度低下し、令和27年（50.4%）を境に再び上昇に転じます。

【高齢者人口の推計】



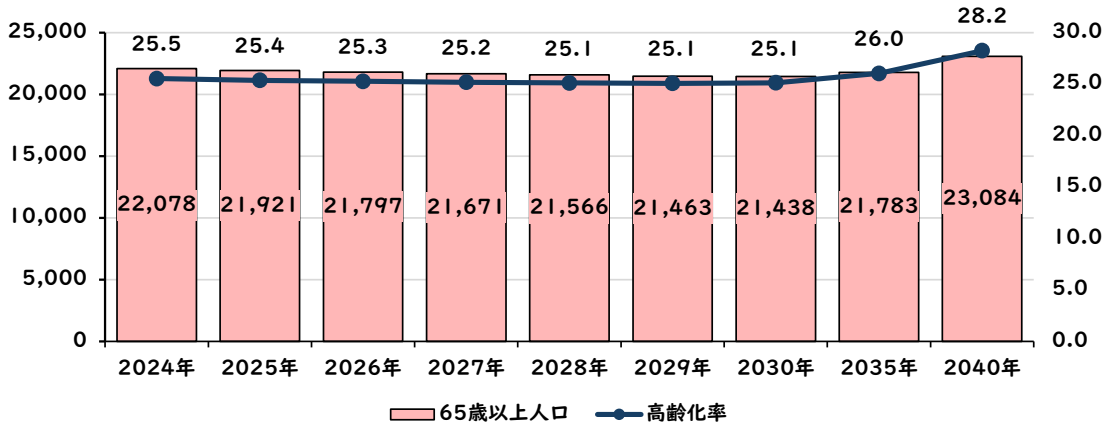
単位：人

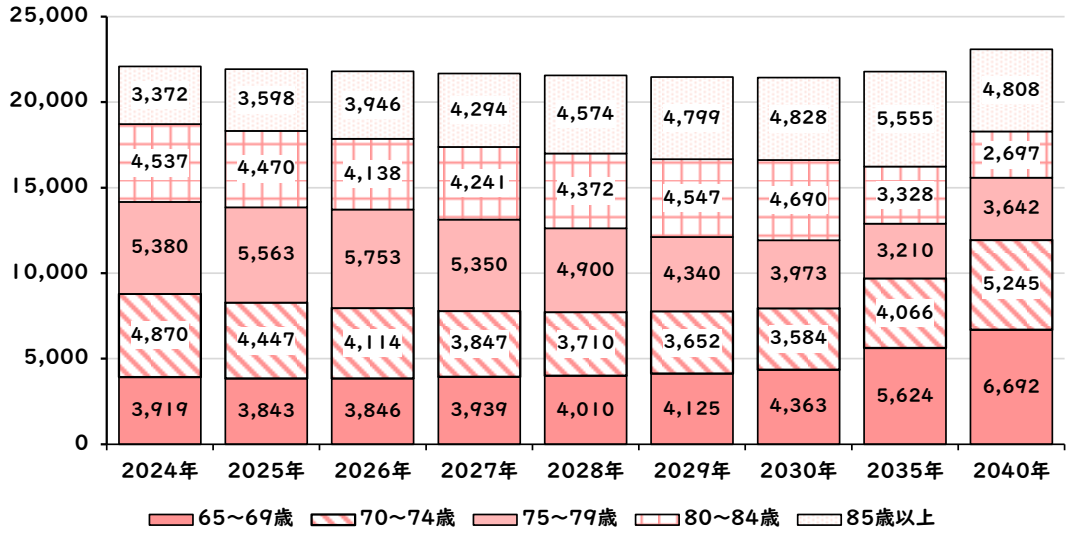
	第9期			第10期		
	令和6年（2024年）	令和7年（2025年）	令和8年（2026年）	令和9年（2027年）	令和10年（2028年）	令和11年（2029年）
高齢者人口（65歳以上）	22,078	21,921	21,797	21,671	21,566	21,463
65歳～74歳（前期高齢者）	8,789	8,290	7,960	7,786	7,720	7,777
75歳以上（後期高齢者）	13,289	13,631	13,837	13,885	13,846	13,686
高齢者人口に占める前期高齢者割合	39.8%	37.8%	36.5%	35.9%	35.8%	36.2%
高齢者人口に占める後期高齢者割合	60.2%	62.2%	63.5%	64.1%	64.2%	63.8%

	第11期	第12期	第14期	第16期	第17期
	令和12年（2030年）	令和17年（2035年）	令和22年（2040年）	令和27年（2045年）	令和32年（2050年）
高齢者人口（65歳以上）	21,438	21,783	23,084	23,117	22,890
65歳～74歳（前期高齢者）	7,947	9,690	11,937	11,459	9,580
75歳以上（後期高齢者）	13,491	12,093	11,147	11,658	13,310
高齢者人口に占める前期高齢者割合	37.1%	44.5%	51.7%	49.6%	41.9%
高齢者人口に占める後期高齢者割合	62.9%	55.5%	48.3%	50.4%	58.1%

※資料：住民基本台帳人口をもとにコーホート変化率法で推計

【高齢者人口の推計】





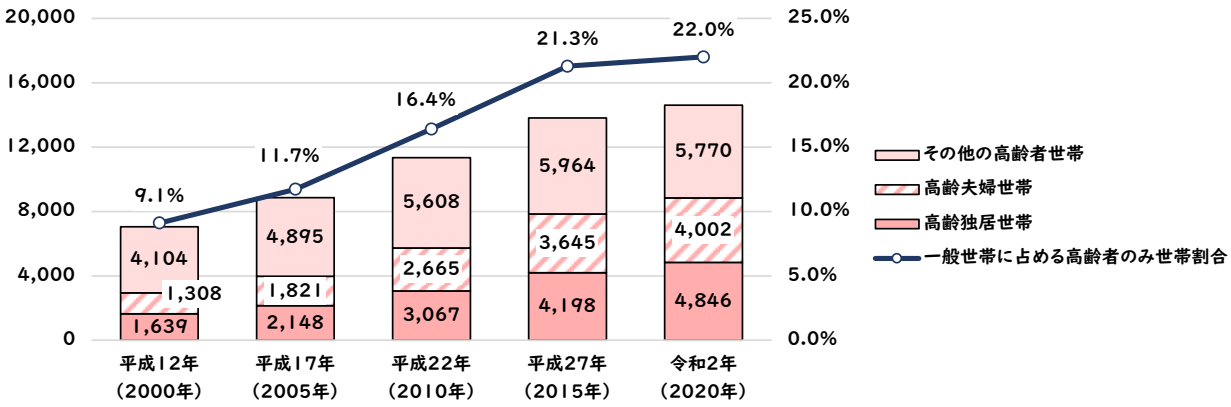
※資料：住民基本台帳人口をもとにコーホート変化率法で推計

（４）高齢者世帯数の推移

①高齢者世帯数の推移

平成12年（2000年）から令和２年（2020年）にかけて、65歳以上の高齢者が１人以上いる「高齢者を含む世帯」は7,051世帯から14,618世帯へと増加しています。世帯構造別の内訳をみると、「高齢独居世帯」は1,639世帯から4,846世帯へ、「高齢夫婦世帯」は、1,308世帯から4,002世帯へとそれぞれ約3倍に増加しています。

【高齢者世帯数の推移】



単位：世帯

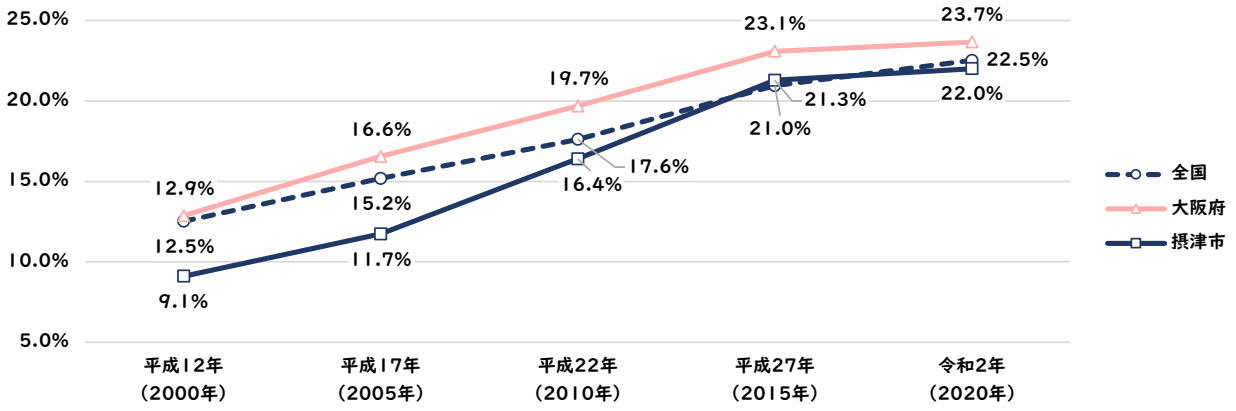
	平成12年（2000年）	平成17年（2005年）	平成22年（2010年）	平成27年（2015年）	令和2年（2020年）
一般世帯数	32,355	33,831	34,942	36,840	40,206
高齢者を含む世帯	7,051	8,864	11,340	13,807	14,618
その他の高齢者世帯	4,104	4,895	5,608	5,964	5,770
高齢独居世帯	1,639	2,148	3,067	4,198	4,846
高齢夫婦世帯	1,308	1,821	2,665	3,645	4,002
一般世帯に占める高齢のみ世帯の割合	9.1%	11.7%	16.4%	21.3%	22.0%
一般世帯に占める高齢独居世帯の割合	5.1%	6.3%	8.8%	11.4%	12.1%

※資料：総務省「国勢調査」
※高齢者を含む世帯数は、一般世帯のうち、65 歳以上の世帯員が１人以上いる世帯数
※高齢者単身世帯数は、高齢者を含む世帯のうち、世帯員が 65 歳以上の高齢者１名のみの世帯数
※高齢夫婦世帯数は、世帯員が夫婦のみの世帯のうち、夫及び妻の年齢が 65 歳以上の世帯数

②一般世帯に占める高齢者のみ世帯割合の比較

平成12年から令和２年にかけて、本市における一般世帯に占める高齢者のみ世帯（単身・夫婦）の割合は、9.1%から22.0%へと上昇を続けています。全国（12.5%→22.5%）および大阪府（12.9%→23.7%）の推移と比較すると、本市はすべての調査年において、全国および大阪府の平均値を下回る割合で推移していますが、平成17年以降に割合が大きく増加しています。

【一般世帯に占める高齢者のみ世帯割合】

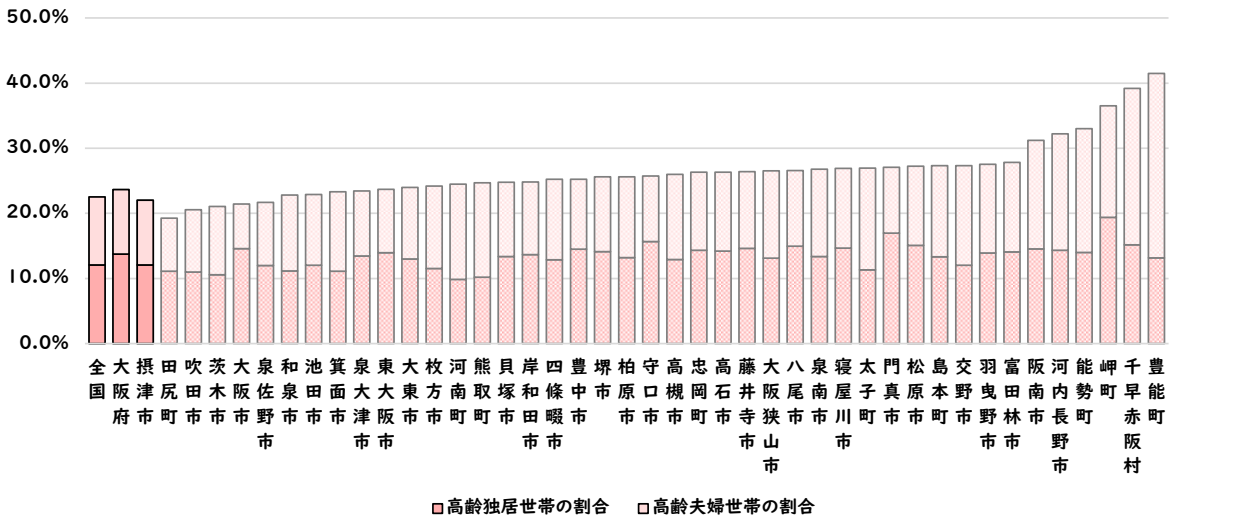


※資料：総務省「国勢調査」

③高齢者のみ世帯割合の比較

本市の「高齢者のみ世帯割合」の合計は、全国および大阪府の平均値より低くなっています。

【高齢者のみ世帯割合の比較（2020 年）】

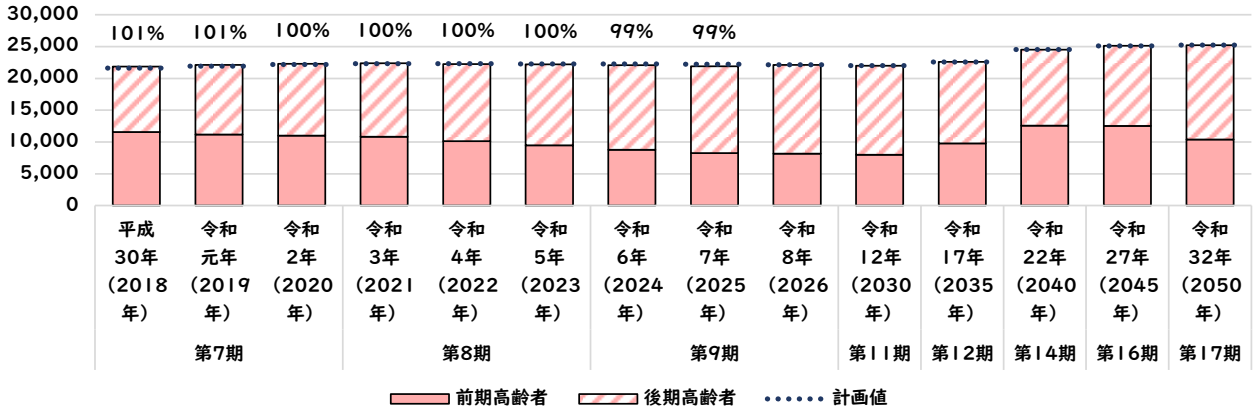


※資料：総務省「国勢調査」

（５）第１号被保険者の計画対比

第１号被保険者数の計画値と実績値は以下の通りです。おおむね計画値通りの推移となっています。

【第１号被保険者数の計画と実績】



※資料：見える化システム

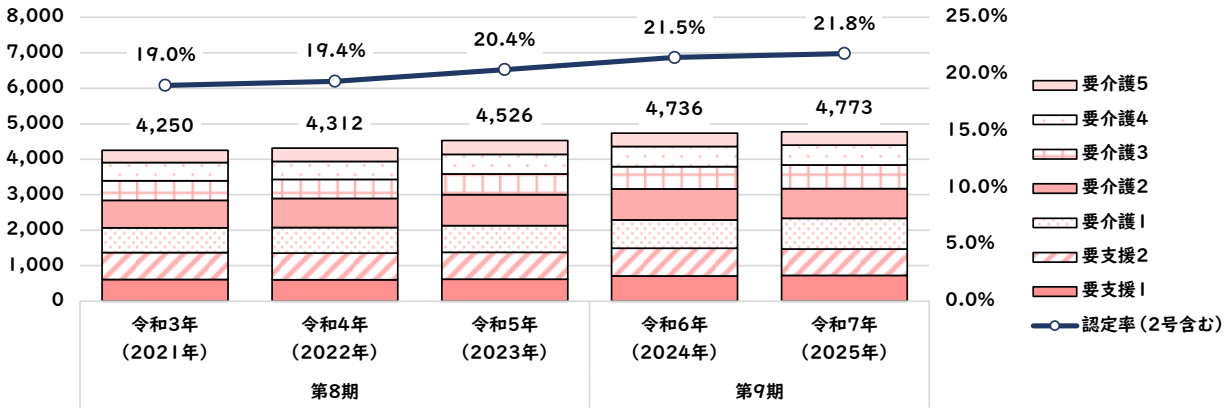
2　高齢者人口等の状況

（１）要支援・要介護認定者数の推移

①要支援・要介護認定者数の推移

令和３年（2021年）から令和７年（2025年）にかけての推移をみると、要支援・要介護の認定者総数は4,250人から4,773人へと増加傾向にあります。これに伴い、第１号被保険者数に対する認定率（２号含む）も19.0%から21.8%へと上昇傾向にあります。

【要支援・要介護認定者数（２号含む）の推移】



単位：人

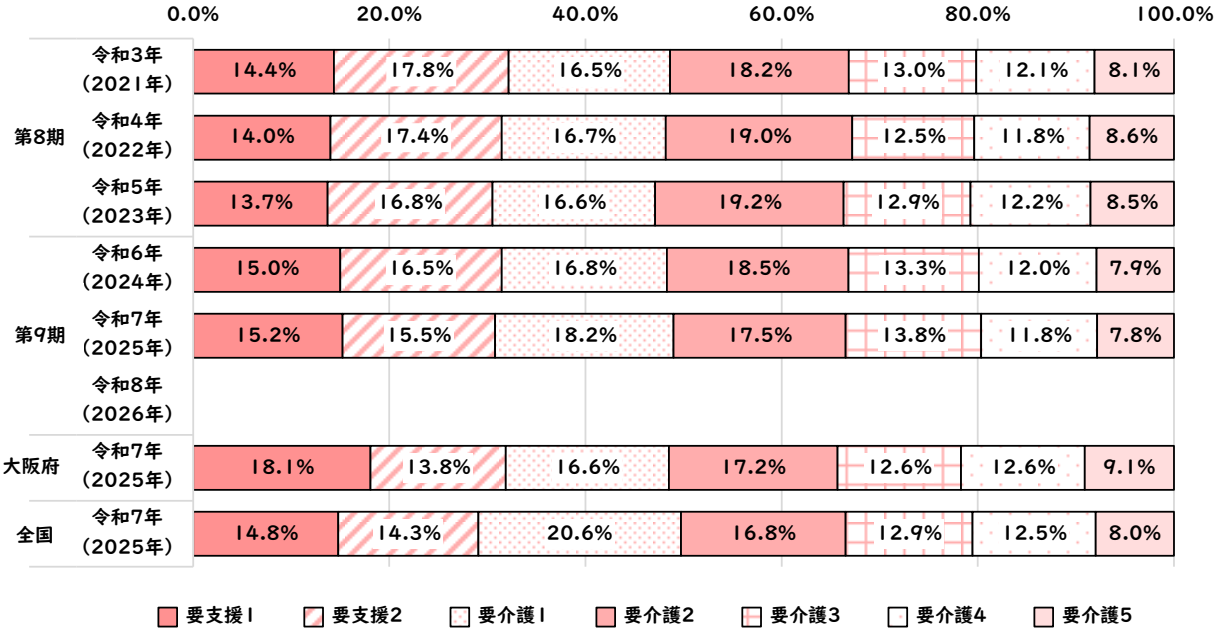
	第8期			第9期	
	令和3年（2021年）	令和4年（2022年）	令和5年（2023年）	令和6年（2024年）	令和7年（2025年）
認定者数（2号含む）	4,250	4,312	4,526	4,736	4,773
要支援1	610	604	620	710	727
要支援2	757	752	761	780	742
要介護1	700	722	750	797	869
要介護2	774	819	870	878	837
要介護3	552	537	586	629	660
要介護4	513	507	554	568	564
要介護5	344	371	385	374	374
認定率（2号含む）	19.0%	19.4%	20.4%	21.5%	21.8%
第1号被保険者数	22,360	22,258	22,182	22,069	21,885

※資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告　月報」　各年９月末日現在

②要支援・要介護認定者の内訳の推移

令和7年（2025年）時点における摂津市の認定者の内訳は、要介護１（18.2%）が最も高く、次いで要介護２（17.5%）、要支援２（15.5%）となっており、軽度者（要支援１～要介護１）の合計が全体の５割程度となっています。この軽度者の割合は、全国平均より低く、大阪府平均よりやや高くなっています。

【要支援・要介護認定者（２号含む）の内訳の推移】



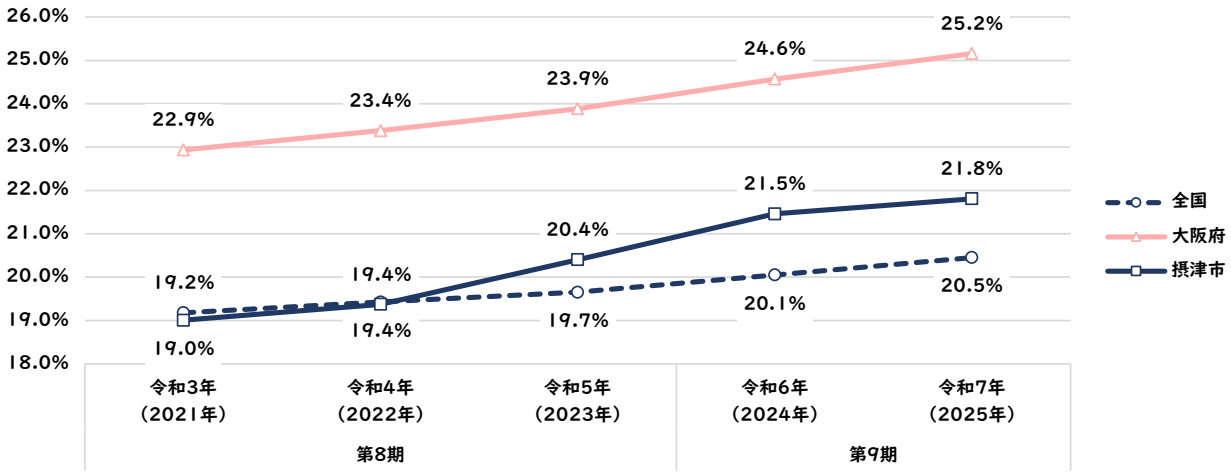
		要支援		要介護				
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
第8期	令和3年（2021年）	14.4%	17.8%	16.5%	18.2%	13.0%	12.1%	8.1%
	令和4年（2022年）	14.0%	17.4%	16.7%	19.0%	12.5%	11.8%	8.6%
	令和5年（2023年）	13.7%	16.8%	16.6%	19.2%	12.9%	12.2%	8.5%
第9期	令和6年（2024年）	15.0%	16.5%	16.8%	18.5%	13.3%	12.0%	7.9%
	令和7年（2025年）	15.2%	15.5%	18.2%	17.5%	13.8%	11.8%	7.8%
府	令和7年（2025年）	18.1%	13.8%	16.6%	17.2%	12.6%	12.6%	9.1%
全国	令和7年（2025年）	14.8%	14.3%	20.6%	16.8%	12.9%	12.5%	8.0%

※資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告　月報」　各年９月末日現在

③認定率の比較

令和３年から令和７年にかけて、本市の認定率は19.0%から21.8%へと上昇しています。しかし、同期間の全国平均（19.2%→20.5%）および大阪府平均（22.9%→25.2%）と比較すると、本市の認定率は大阪府平均を下回る一方、全国平均を上回って推移しています。

【認定率（２号含む）の比較】



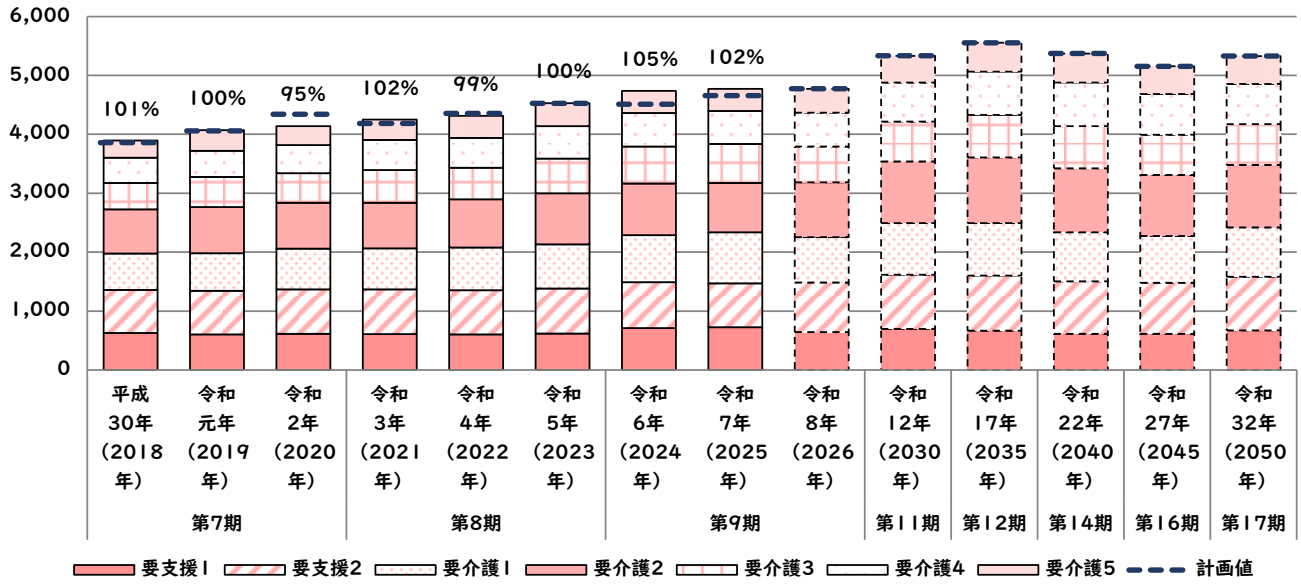
	第8期			第9期	
	令和3年（2021年）	令和4年（2022年）	令和5年（2023年）	令和6年（2024年）	令和7年（2025年）
全国	19.2%	19.4%	19.7%	20.1%	20.5%
大阪府	22.9%	23.4%	23.9%	24.6%	25.2%
摂津市	19.0%	19.4%	20.4%	21.5%	21.8%

※資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告　月報」　各年９月末日現在

（２）要支援・要介護認定者数の計画対比

要支援・要介護認定者数の計画値と実績値は以下の通りです。おおむね計画値通りの推移となっています。

【認定者数（2 号含む）の計画と実績】



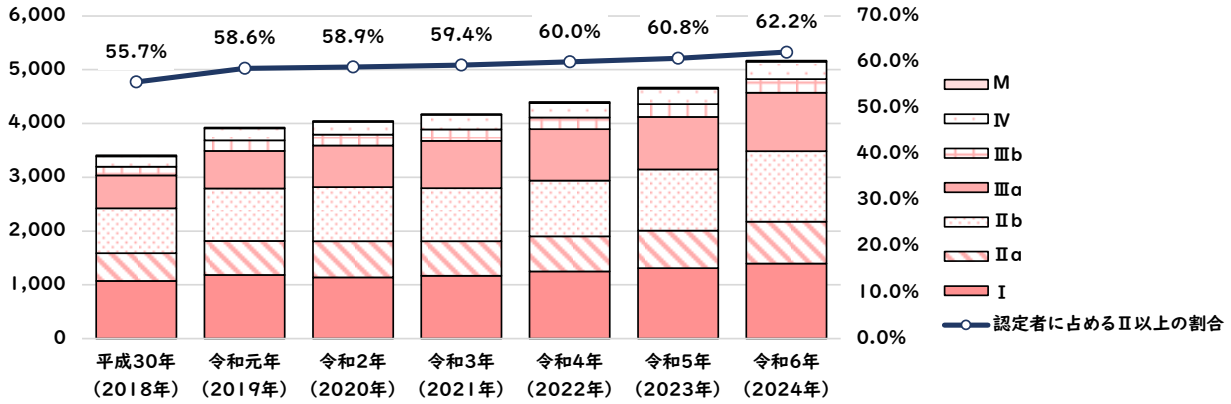
※資料：見える化システム　各年 10 月末日現在

（３）要支援・要介護者の状態

①認知症高齢者数の推移

平成30年（2018年）から令和６年（2024年）にかけて、介護保険の認定者数は4,194人から6,069人へと増加しています。認知症高齢者の日常生活自立度における「Ⅱａ」以上の認知症高齢者の実数は増加傾向（令和６年時点でⅡａ～Mの合計は3,772人）にあります。一方で、認定者に占めるⅡａ以上の割合は、平成30年の55.7%から令和６年には62.2%へと上昇傾向にあります。

【認知症高齢者数の推移】



単位：人

	平成30年（2018年）	令和元年（2019年）	令和2年（2020年）	令和3年（2021年）	令和4年（2022年）	令和5年（2023年）	令和6年（2024年）
認定者数	4,194	4,677	4,929	5,056	5,242	5,522	6,069
自立	787	751	884	886	844	854	902
Ⅰ	1,072	1,184	1,141	1,169	1,251	1,310	1,395
Ⅱａ	519	634	671	642	652	700	780
Ⅱｂ	833	974	1,007	987	1,037	1,137	1,308
Ⅲａ	611	698	770	878	952	976	1,091
Ⅲｂ	162	195	204	212	218	236	249
Ⅳ	192	227	240	273	272	288	326
M	18	14	12	9	16	21	18
認定者に占めるⅡ以上の割合	55.7%	58.6%	58.9%	59.4%	60.0%	60.8%	62.2%

※資料：見える化システム　各年10月末日現在

②認定者に占める認知症高齢者の日常生活自立度（Ⅱa）以上の割合の比較

2024年10月末時点における、要介護・要支援認定者に占める認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱa以上の割合を比較すると、全国平均は61.5%、大阪府平均は54.0%となっています。これに対し、本市は62.2%であり、全国平均および大阪府平均を上回っています。また、大阪府内の他の市町村と比較しても、本市は高い割合となっています。

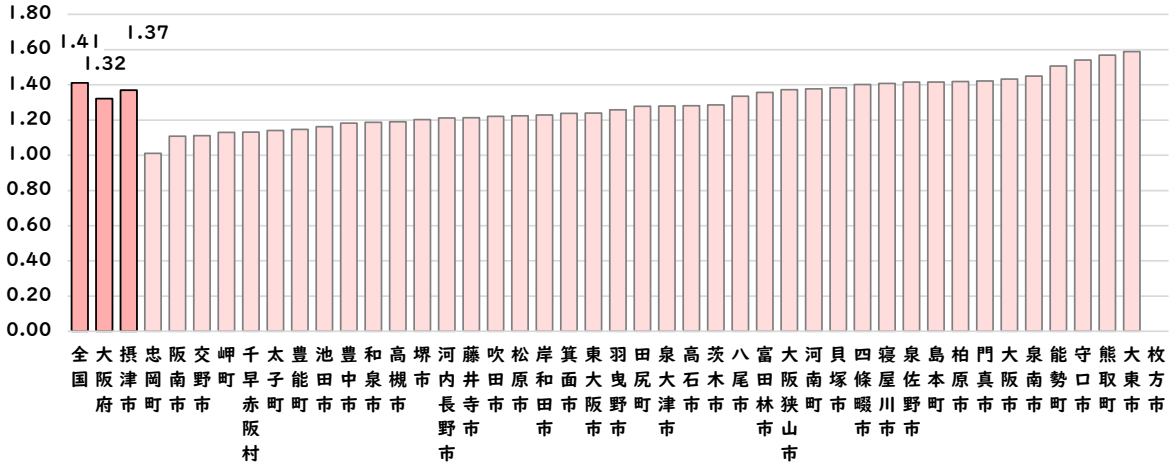
③認知症高齢者数の推計

推計中

③新規要支援・要介護認定者の平均要介護度の比較

2024年における新規に要支援・要介護認定を受けた人の平均要介護度を比較すると、全国平均は1.41、大阪府平均は1.32となっています。これに対し、本市は1.37であり全国よりは低く、大阪府よりは高い水準にあります。府内他自治体との比較では、新規認定者の平均要介護度が高い水準に位置しています。

【新規要支援・要介護認定者の平均要介護度（2024 年)】

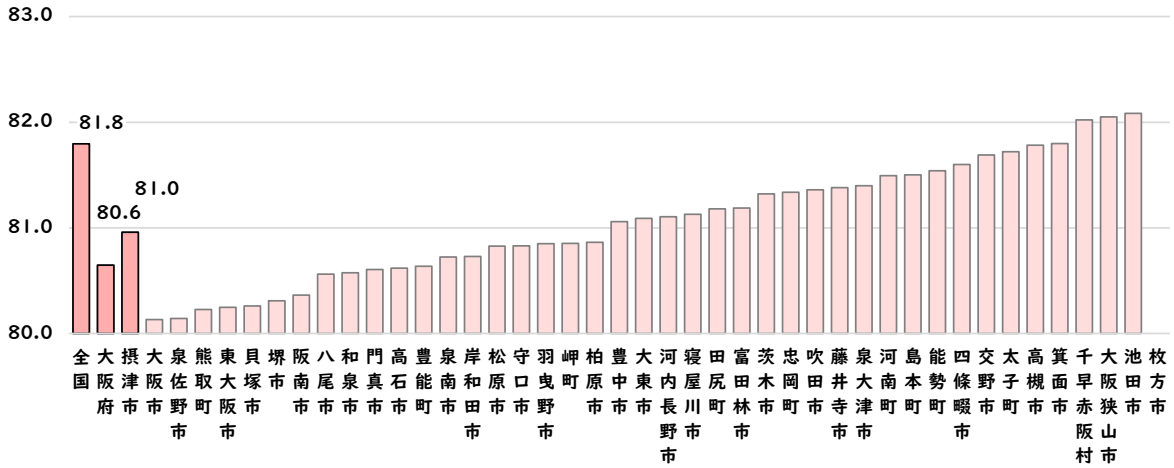


※資料：見える化システム

④新規要支援・要介護認定者の平均年齢の比較

2024年における新規認定者の平均年齢を比較すると、本市（81.0歳）は、全国（81.8歳）および大阪府（80.6歳）と概ね同水準で推移しています。

【新規要支援・要介護認定者の平均年齢（2024 年)】



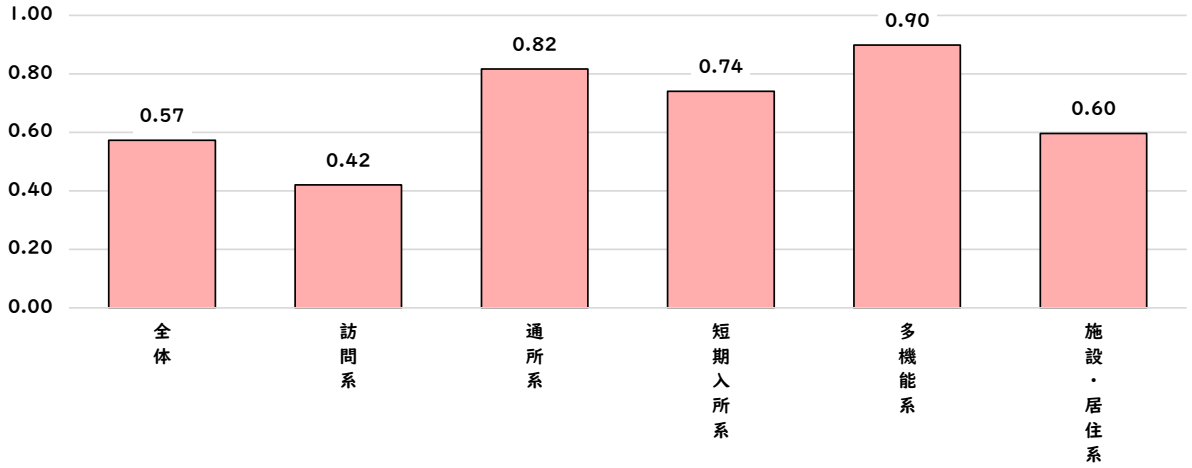
※資料：見える化システム

3　地域分析

（１）介護サービス自給率

2025年における摂津市の介護サービス自給率をみると、全体の自給率は0.57となっています。

【介護サービス自給率　(2025 年)】

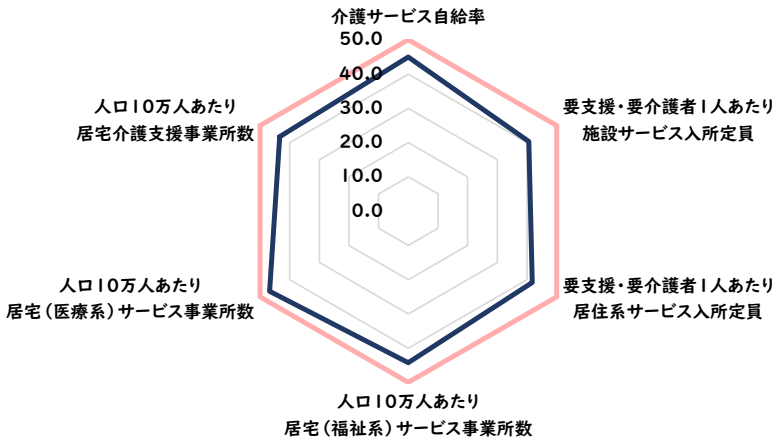


※資料：見える化システム

（２）サービス提供体制

本市のサービス提供体制を偏差値（全国平均を50とする）でみると、介護サービス自給率は全国平均をやや下回る水準、人口10万人あたり居宅介護支援事業所数および居宅（福祉系）サービス事業所数はともに偏差値50を下回る水準となっています。全体的に偏差値50を下回る項目が多い中で、居宅系サービス事業所数は比較的平均に近い一方、施設・居住系の入所定員の偏差値は低い構造となっています。

【サービス提供体制 2025 年（偏差値）】

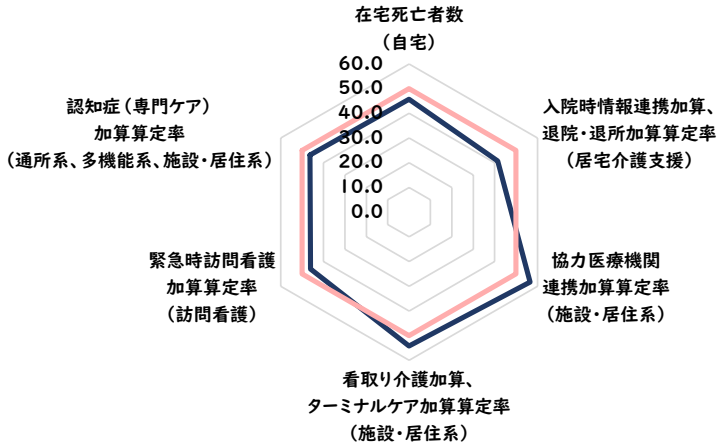


※資料：見える化システム

（３）医療介護連携の体制

医療と介護の連携体制に関する指標の偏差値をみると、項目によって偏りがあることが確認できます。「協力医療機関連携加算算定率（施設・居住系）」や「緊急時訪問看護加算算定率（訪問看護）」は偏差値50以上と高い水準にある一方で、「在宅死亡者数（自宅）」や「認知症（専門ケア）加算算定率」などは偏差値50を下回っています

【医療介護連携の体制 2025 年 （偏差値）】

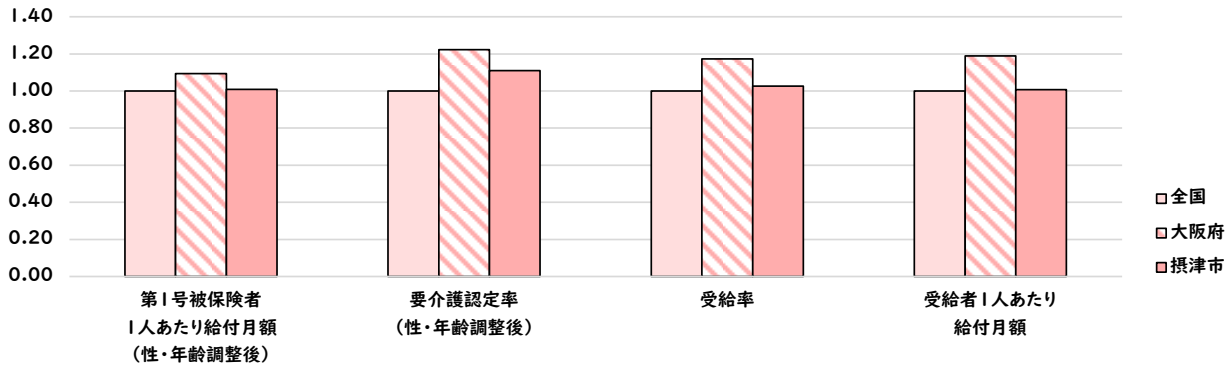


※資料：見える化システム

（４）全国を１とした地域差指数

2023年における全国平均を「1.00」とした場合の地域差指数をみると、本市はすべての指標において全国平均を上回る一方、大阪府平均と比較すると下回っています。

【全国を 1 とした地域差指数 （2023 年）】

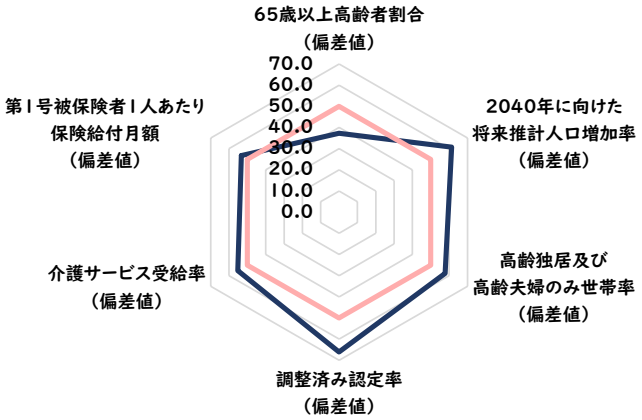


※資料：見える化システム

（５）地域の概況

摂津市の地域概況にまつわる各種指標の偏差値をみると、2040年に向けた将来推計人口増加率では偏差値50を上回る水準（人口減少のペースが全国平均より緩やか）となっています。介護サービス受給率および調整済み認定者数が偏差値50を上回る水準にある一方、65歳以上高齢者割合や第1号被保険者1人あたり保険給付月額は偏差値50を下回る水準となっています。

【地域の概況 2025 年（偏差値）】



※資料：見える化システム

3　実態調査からみた高齢者の現状や課題

（１）調査目的

本調査は、本計画の策定を行うにあたり、高齢者等の生活実態をはじめ、介護保険サービスや高齢者保健福祉サービスの利用状況、これらに対する今後のニーズなどを把握するとともに、計画に反映させる基礎資料として活用することを目的としています。

（２）調査の実施について

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査
調査対象	50 歳以上 65 歳未満の方から 500 人、65 歳以上の方から 1,500 人を無作為抽出（要介護１～５の方を除く）	要支援・要介護認定を受けられている方から 1,200 人を無作為抽出
	※抽出時点：令和 7（2025）年 11 月 1 日	
調査期間	令和 7（2025）年 12 月 23 日（火）～令和 8（2026）年 1 月 23 日（金）	
調査方法	調査票の送付は郵送、回収は郵送又は WEB	
配布数	2,000 件	1,200 件
有効回収数	1,328 件 （前回：1,309 件）	778 件 （前回：734 件）
有効回収率	66.4% （前回：65.5%）	64.8% （前回：61.2%）
その他	回収率向上のため、お礼兼督促を実施	

（３）調査の実施について

1．図表中の「n（number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

2．回答結果の割合「%」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点第２位以下で四捨五入し、小数点第１位までを表記しています。このため、単数回答（回答選択肢の中からあてはまるものを１つだけ選択する）の場合でも、百分率の合計が 100.0%とならない場合があります。

3．複数回答の場合、図中に「MA (Multiple Answer)」「3LA (3 Limited Answer)」「5LA (5 Limited Answer)」と記載しています。

・MA（Multiple Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合

・3LA（3 Limited Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものを 3 つ以内で選択する場合

・5LA（5 Limited Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものを 5 つ以内で選択する場合

また、不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合があります。特に断りがない限り、単数回答形式の設問となっています。

4．介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、一部の調査項目により、運動器の低下などの各種リスクの判定を行います。リスク該当者の割合の算出にあたり、該当する設問の無回答により判定・評価が困難な場合は、母数から除いています。

5．一部の設問について、前回調査（令和４年度）の結果を掲載し、比較を行っています。「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」については、前回調査の配布数は 2,000 件（65 歳以上 1,500 人、50～64 歳 500 人）です。

6．クロス集計に対する本文中の説明の中で、「区分」は同じ列での比較に対する説明、「項目」は同じ行での比較に対する説明となっています。

7．「項目」内で最も割合が多いものを濃い網掛けで着色し、２番目に割合が多いものを薄い網掛けで着色しています。また、「項目」内で「△」の印のあるものは「全体」の数値より+10 ポイント以上高い項目、「▼」は「全体」の数値より−10 ポイント以上低い項目となっています。

〈クロス集計表の見方〉

【例文】
○ 75歳以上では、「近隣」を除くほとんどの項目で74歳以下に比べて少なくなっています。
…75歳以上では、「近隣」以外の「配偶者」「友人」等のほとんどの項目で75歳未満と比べて少なくなっていることを示しています。

「項目」

単位：%

			母数(n)	心配事や愚痴を聞いてくれる人(MA) 配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・孫・親	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
	全体		1,309	55.1	18.6	33.6	29.0	7.9	46.5	2.7	4.5	1.7
↑「区分」↓	性・年齢	男性　50～64歳	116	70.7	15.5	17.2	26.7	0.9	41.4	5.2	4.3	0.9
		65～74歳	245	67.3	11.0	20.0	17.1	4.1	36.3	1.6	9.0	2.4
		75歳以上	230	71.3	10.9	31.3	19.6	5.2	29.1	2.6	4.3	0.9
		女性　50～64歳	127	50.4	37.0	29.1	42.5	5.5	67.7	4.7	6.3	0.8
		65～74歳	286	52.8	25.9	49.3	41.3	11.5	61.9	1.0	1.4	0.3
		75歳以上	305	31.1	17.4	39.7	29.5	13.1	46.6	3.3	3.3	3.6
↑「区分」↓	家族構成	１人暮らし	260	2.3	0.8	37.7	30.0	12.3	55.8	3.1	13.5	2.7
		夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	476	81.9	2.1	40.3	26.7	8.4	42.4	1.5	1.3	2.1
		夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	115	91.3	5.2	28.7	23.5	3.5	37.4	2.6	2.6	0.9
		息子・娘との２世帯	172	50.6	61.6	28.5	27.3	7.0	45.9	3.5	4.1	−
		その他	258	46.1	43.4	23.6	34.5	5.0	51.6	4.3	2.3	1.6

【例文】
○ １人暮らしでは、「そのような人はいない」が13.5%と他の区分に比べて多くなっています。
…1人暮らしは、他の家族構成と比べて「そのような人はいない」が多くなっていることを示しています。

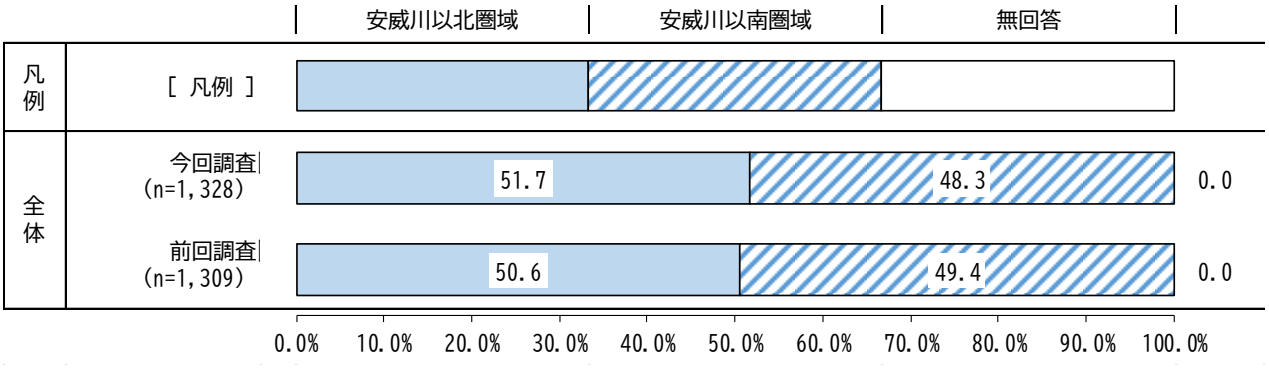
調査結果報告書の詳細（本編）については
右記二次元コードよりご確認いただけます。

二次元コード

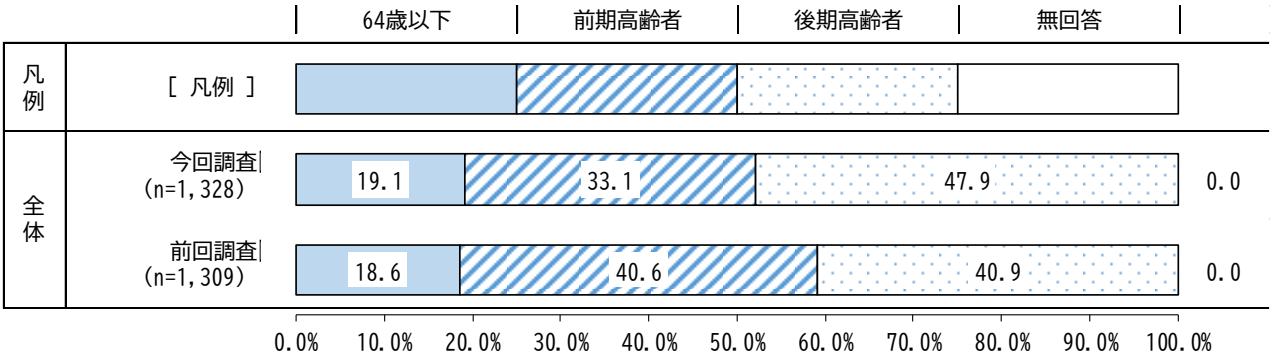
（４）調査結果の概要

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

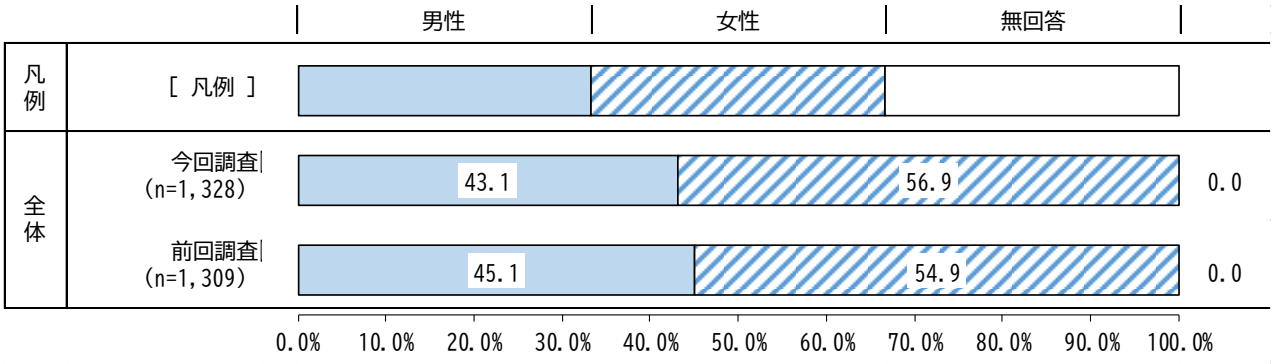
◆ 日常生活圏域



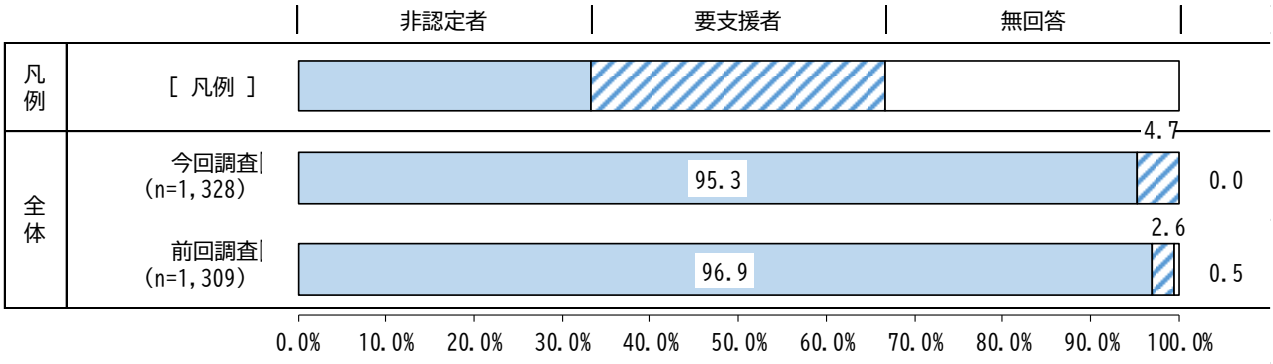
◆ 年齢



◆ 性別

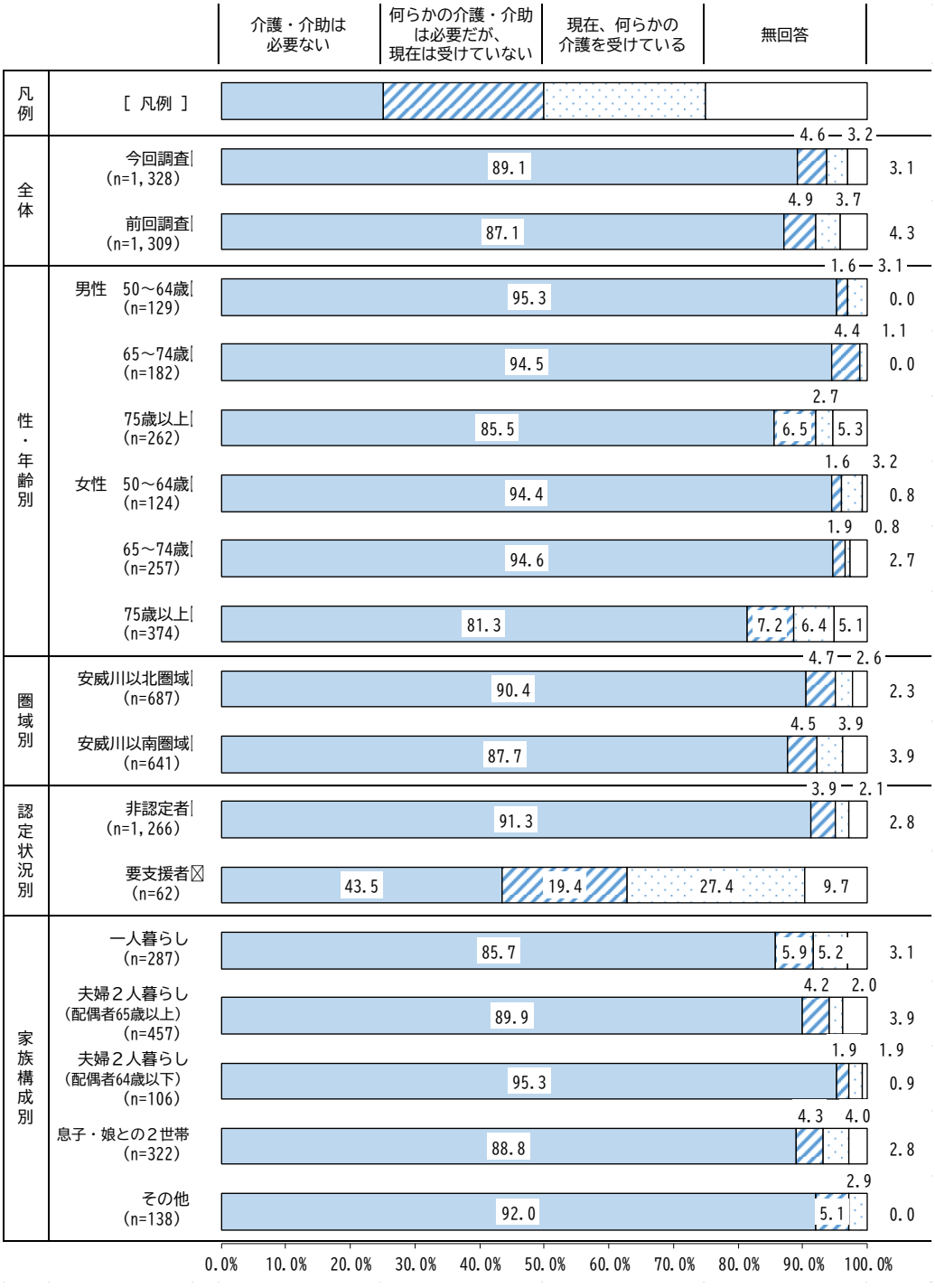


◆ 認定状況



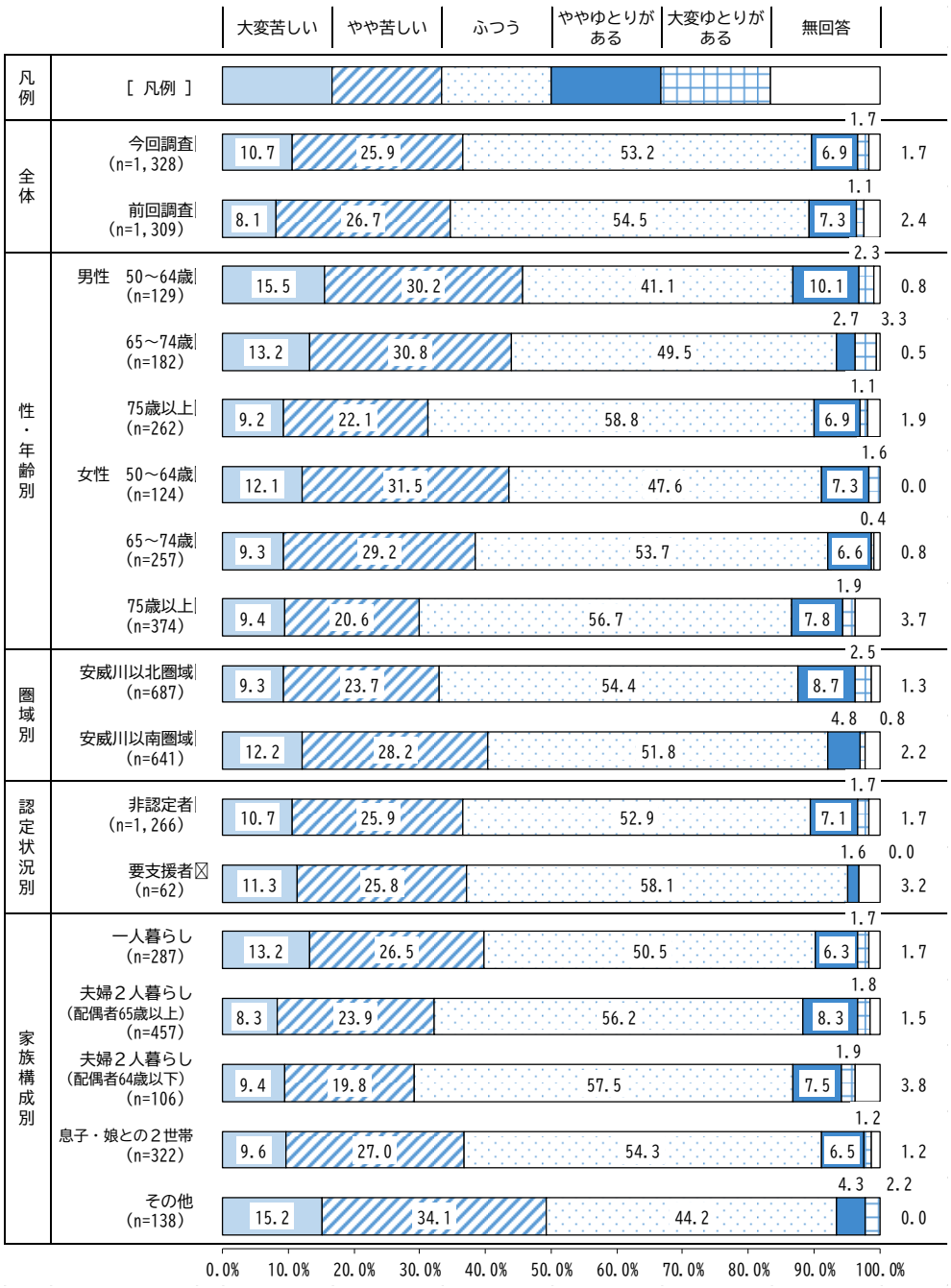
◆ 介護・介助の必要性

「介護・介助は必要ない」が 89.1%で最も多く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 4.6%、「現在、何らかの介護を受けている」が 3.2%となっています。



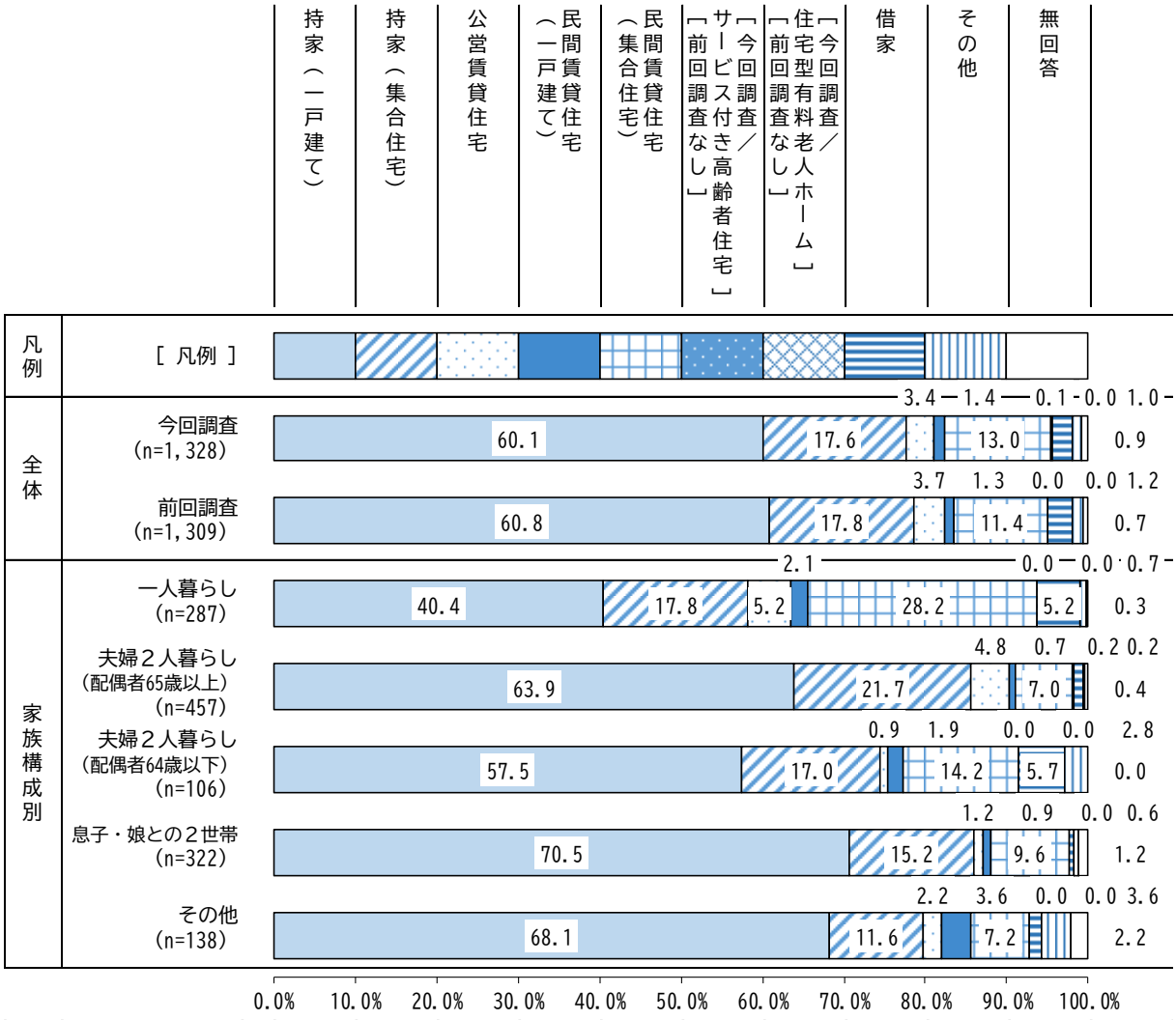
◆ 経済状況

「ふつう」が 53.2%で最も多く、次いで「やや苦しい」が 25.9%、「大変苦しい」が 10.7%となっています。



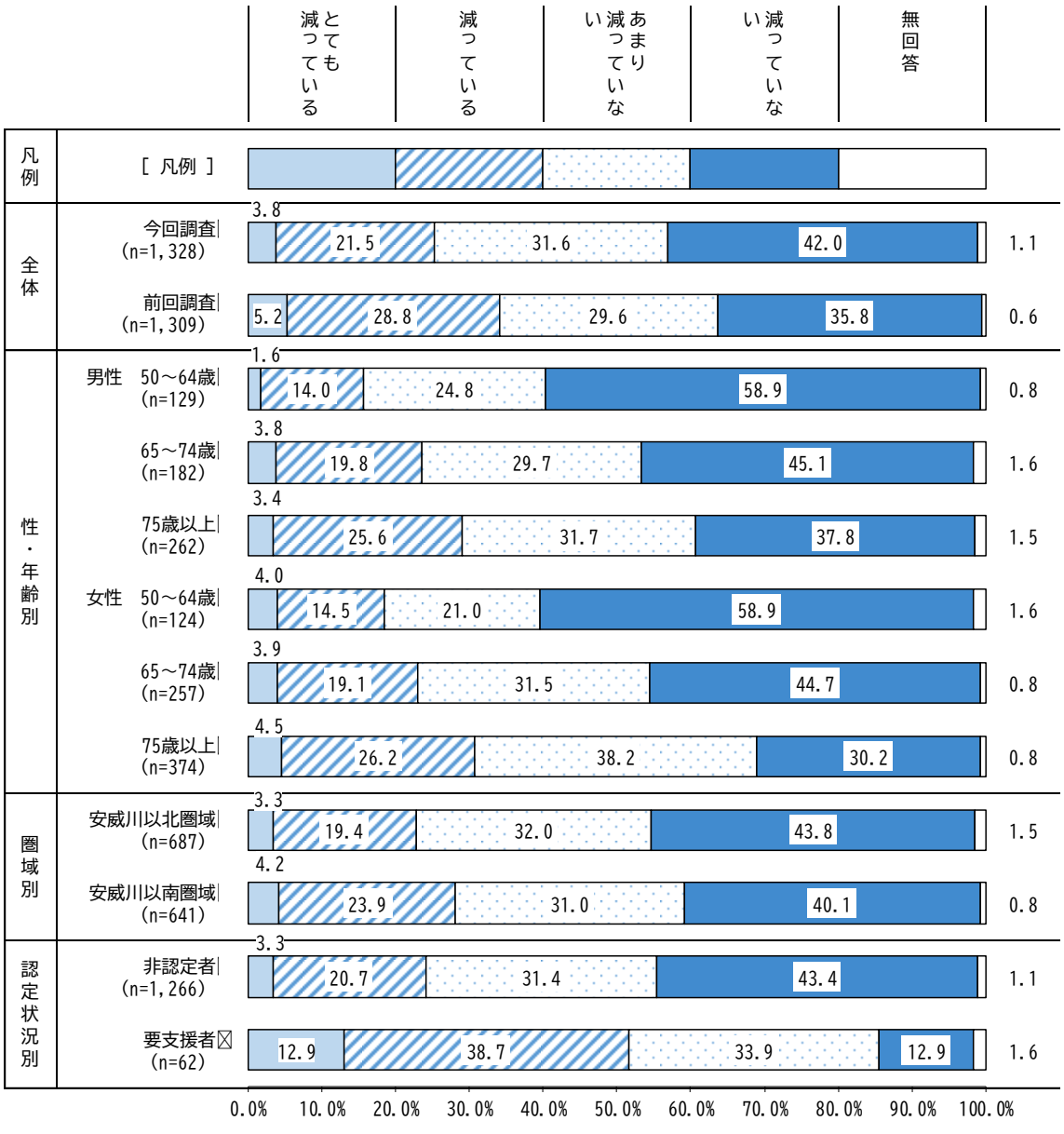
◆ 住居形態

「持家（一戸建て）」が 60.1％で最も多く、次いで「持家（集合住宅）」が 17.6％、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が 13.0％となっています。



◆ 外出頻度

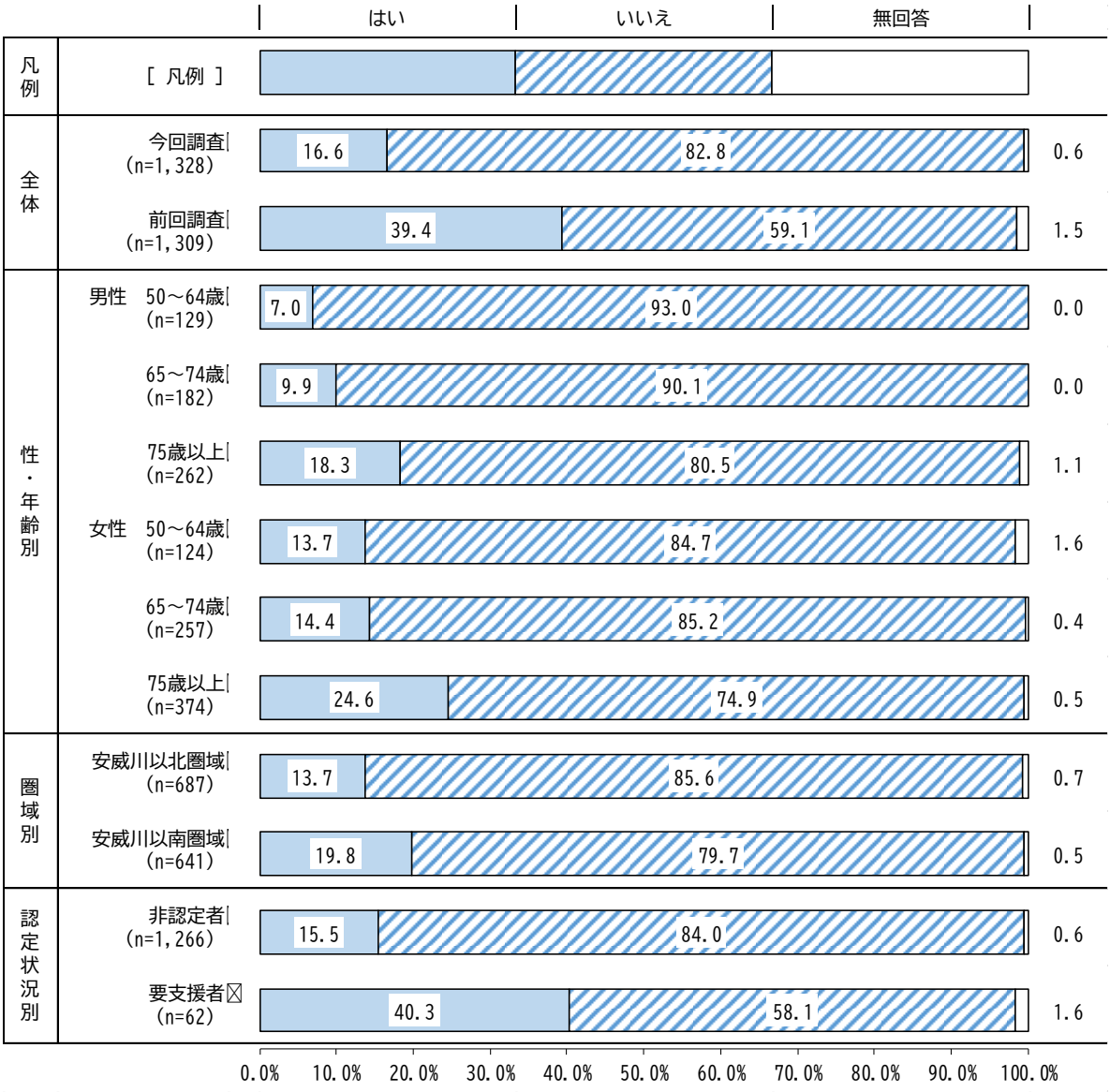
「減っていない」が 42.0％で最も多く、次いで「あまり減っていない」が 31.6％、「減っている」が 21.5％となっています。



◆ 外出を控えているか

「はい」が 16.6%、「いいえ」が 82.8%となっています。

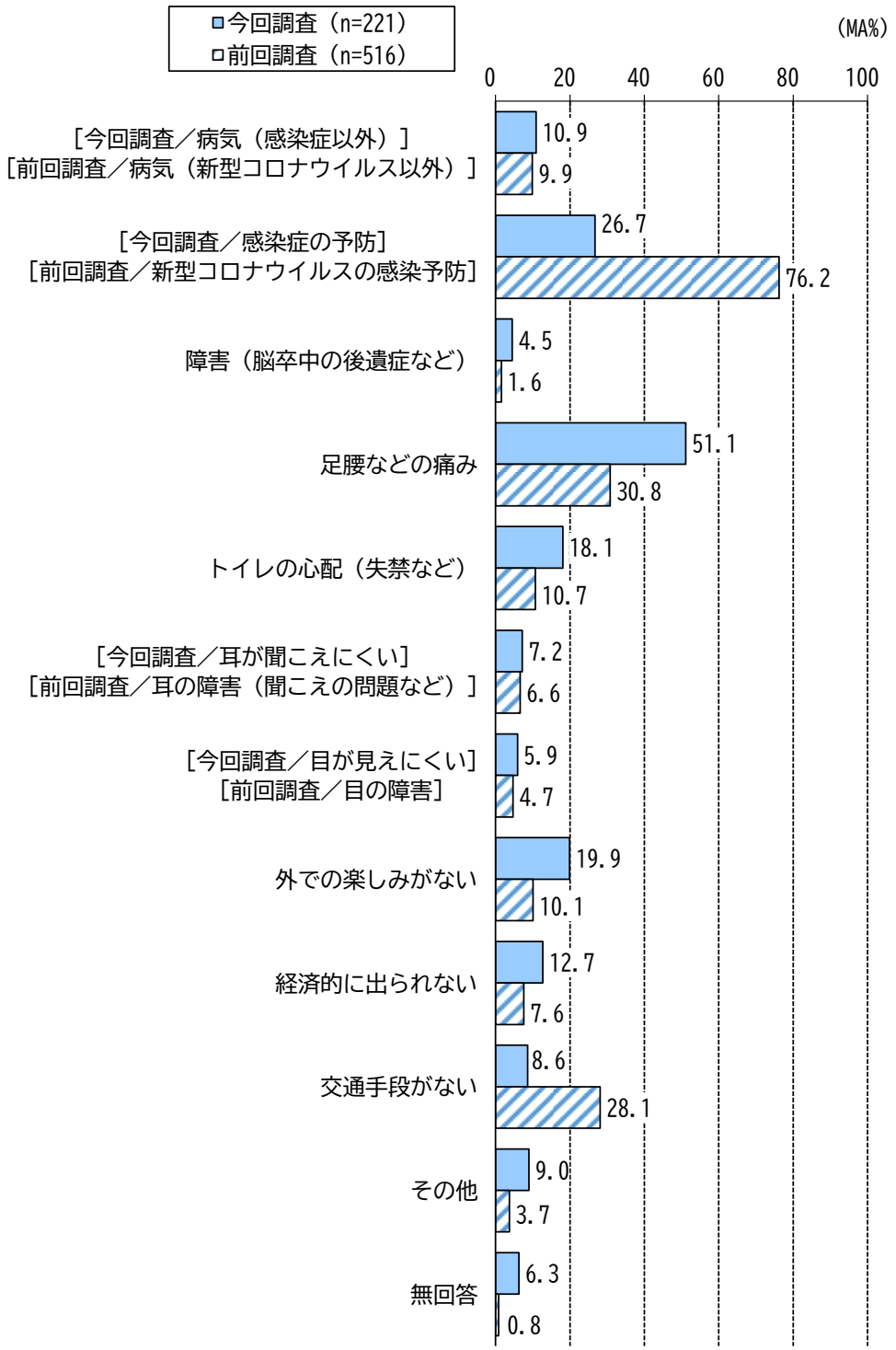
前回調査と比較すると、「はい」は 16.6%と、前回（39.4%）から 22.8 ポイント少なくなっています。



◆ 外出を控えている理由

「足腰などの痛み」が 51.1%で最も多く、次いで「感染症の予防」が 26.7%、「外での楽しみがない」が 19.9%となっています。

前回調査と比較すると、「感染症の予防（前回：新型コロナウイルスの感染予防）」は 26.7%と、前回（76.2%）から 49.5 ポイント少なくなっています。一方で、「足腰などの痛み」は 51.1%と、前回（30.8%）から 20.3 ポイント多くなっています。



◆ 外出の際の移動手段

「徒歩」が 67.8%で最も多く、次いで「自転車」が 49.5%、「電車」が 41.7%となっています。

単位：%

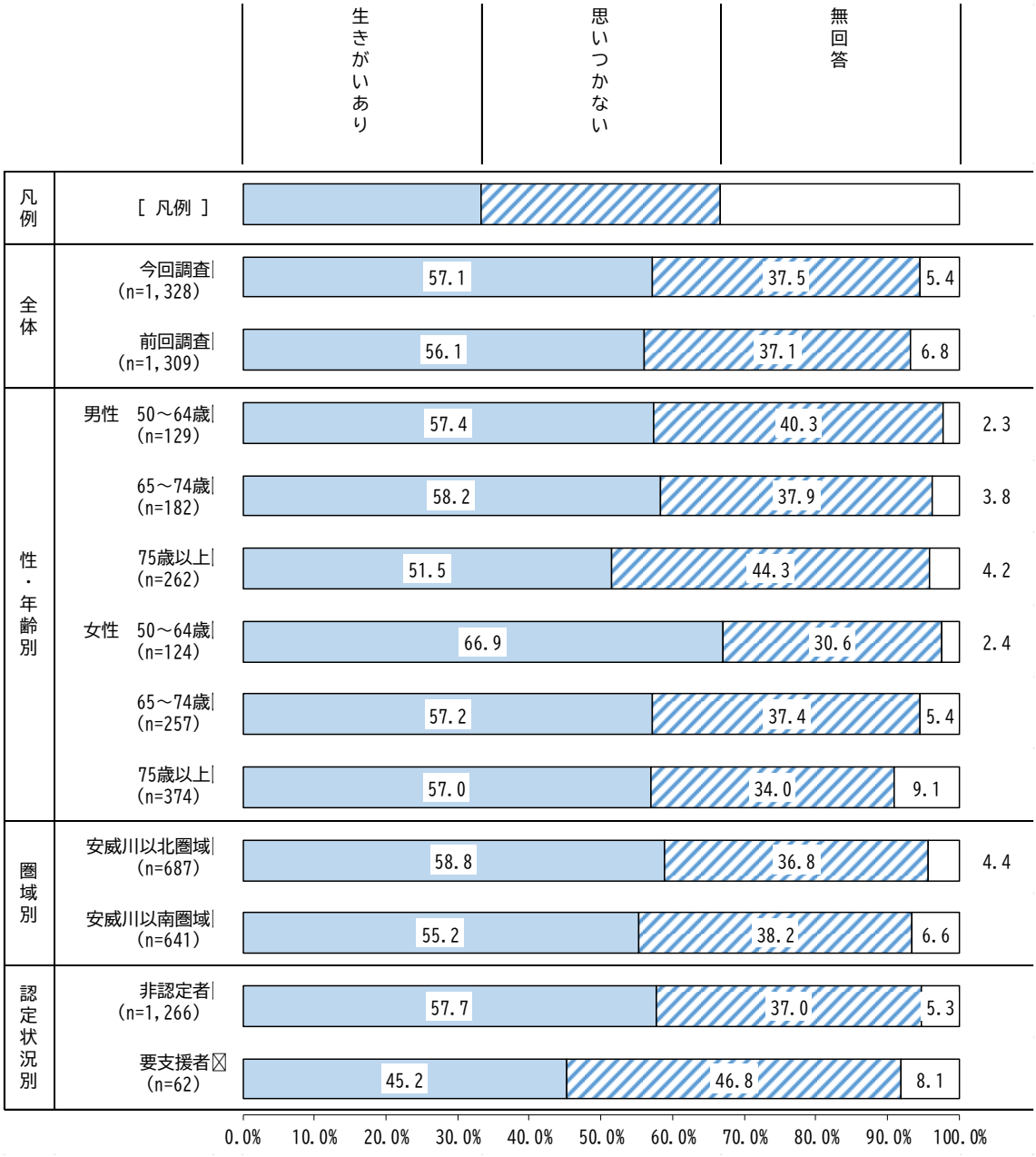
		母数(n)	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車	路線バス
全体		1,328	67.8	49.5	6.3	35.5	22.9	41.7	20.9
性・年齢別	男性　50～64歳	129	69.8	40.3	12.4	△ 76.0	▼ 7.8	46.5	14.0
	65～74歳	182	62.1	40.7	11.5	△ 64.8	▼ 8.8	40.7	13.7
	75歳以上	262	63.4	52.7	3.1	42.0	▼ 9.5	▼ 30.2	18.3
	女性　50～64歳	124	71.8	△ 66.1	6.5	42.7	25.0	△ 59.7	19.4
	65～74歳	257	68.5	58.4	7.8	26.8	△ 36.6	45.5	23.3
	75歳以上	374	71.1	43.3	2.7	▼ 6.1	△ 34.2	40.1	27.5
圏域別	安威川以北圏域	687	75.5	50.4	6.4	33.0	19.7	△ 54.0	12.2
	安威川以南圏域	641	59.4	48.7	6.1	38.1	26.4	▼ 28.5	30.3
認定状況別	非認定者	1,266	68.1	51.3	6.3	36.9	22.5	42.4	20.4
	要支援者	62	61.3	▼ 14.5	4.8	▼ 6.5	30.6	▼ 27.4	△ 32.3

単位：%

		母数(n)	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全体		1,328	4.1	0.3	0.3	1.7	7.2	1.0	1.4
性・年齢別	男性　50～64歳	129	0.8	－	1.6	－	1.6	－	0.8
	65～74歳	182	1.6	－	－	0.5	0.5	－	0.5
	75歳以上	262	4.2	0.4	0.8	1.1	7.3	0.8	1.9
	女性　50～64歳	124	1.6	0.8	－	－	3.2	－	0.8
	65～74歳	257	3.9	－	－	0.8	6.6	2.3	1.6
	75歳以上	374	7.5	0.5	－	4.5	13.9	1.3	1.6
圏域別	安威川以北圏域	687	4.7	0.3	0.1	1.6	7.0	0.9	1.6
	安威川以南圏域	641	3.6	0.3	0.5	1.9	7.3	1.1	1.1
認定状況別	非認定者	1,266	3.7	0.2	0.2	0.6	6.4	0.9	1.3
	要支援者	62	12.9	1.6	1.6	△ 24.2	△ 22.6	1.6	1.6

◆ 生きがいの有無

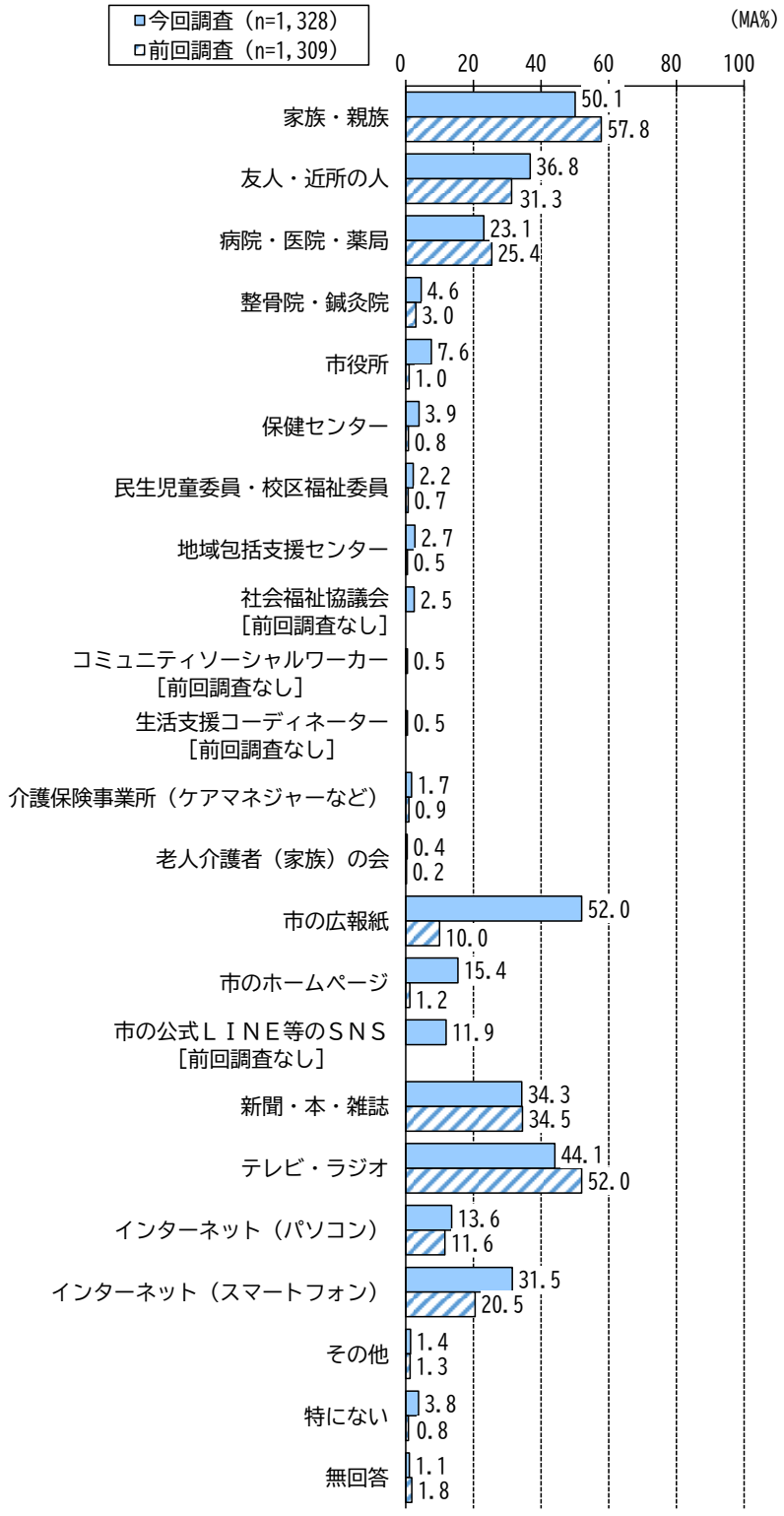
「生きがいあり」が 57.1%、「思いつかない」が 37.5%となっています。



◆ 健康や日常生活の情報の入手先

「市の広報紙」が 52.0%で最も多く、次いで「家族・親族」が 50.1%、「テレビ・ラジオ」が 44.1%となっています。

前回調査と比較すると、「市の広報紙」「インターネット（スマートフォン）」は前回から 11 ポイント以上多くなっています。

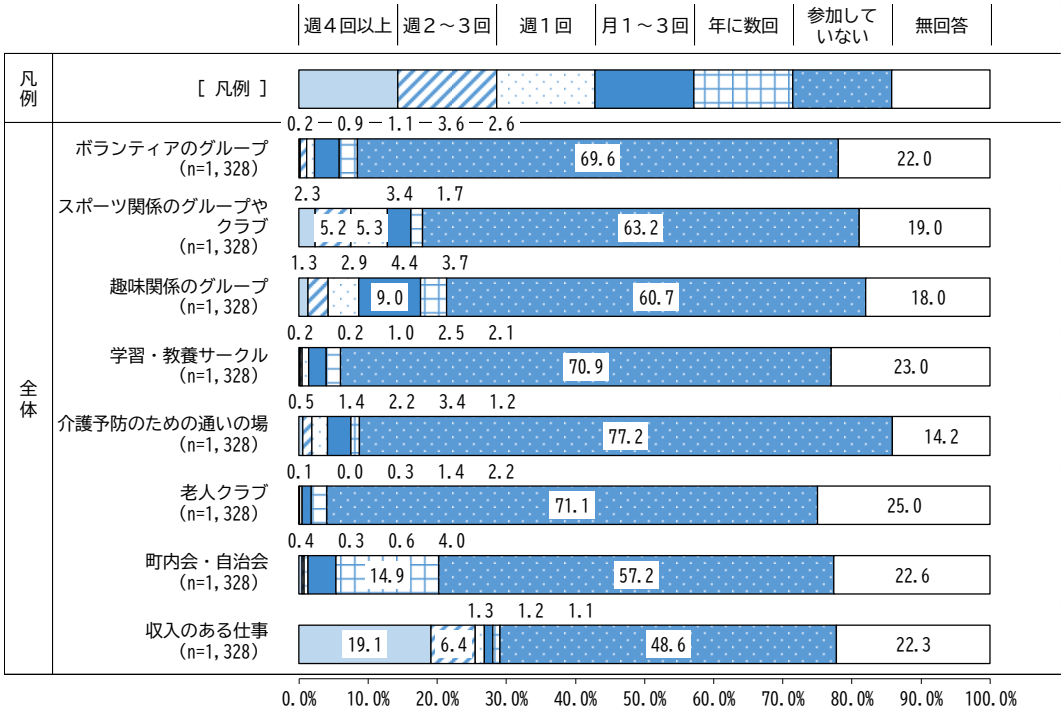


◆ 地域活動の参加頻度

地域活動への参加頻度について、『参加している（「週４回以上」「週２～３回」「週１回」「月１～３回」「年に数回」の合計）』は、「収入のある仕事」に次いで、「趣味関係のグループ」「町内会・自治会」「スポーツ関係のグループやクラブ」となっています。

『週１回以上（「週４回以上」「週２～３回」「週１回」の合計）』は、「収入のある仕事」が 26.8%で最も多く、次いで「趣味関係のグループ」が 8.6%となっています。

「ボランティアのグループ」「学習・教養サークル」「介護予防のための通いの場」「老人クラブ」では、「参加していない」が約７割と他の活動に比較して多くなっています。



◆ 通いの場に参加していない理由

「特に理由はない」が 31.5%で最も多く、次いで「そもそも通う必要がない」が 23.1%、「他人と活動するのが好きでない」が 14.0%となっています。

単位：%

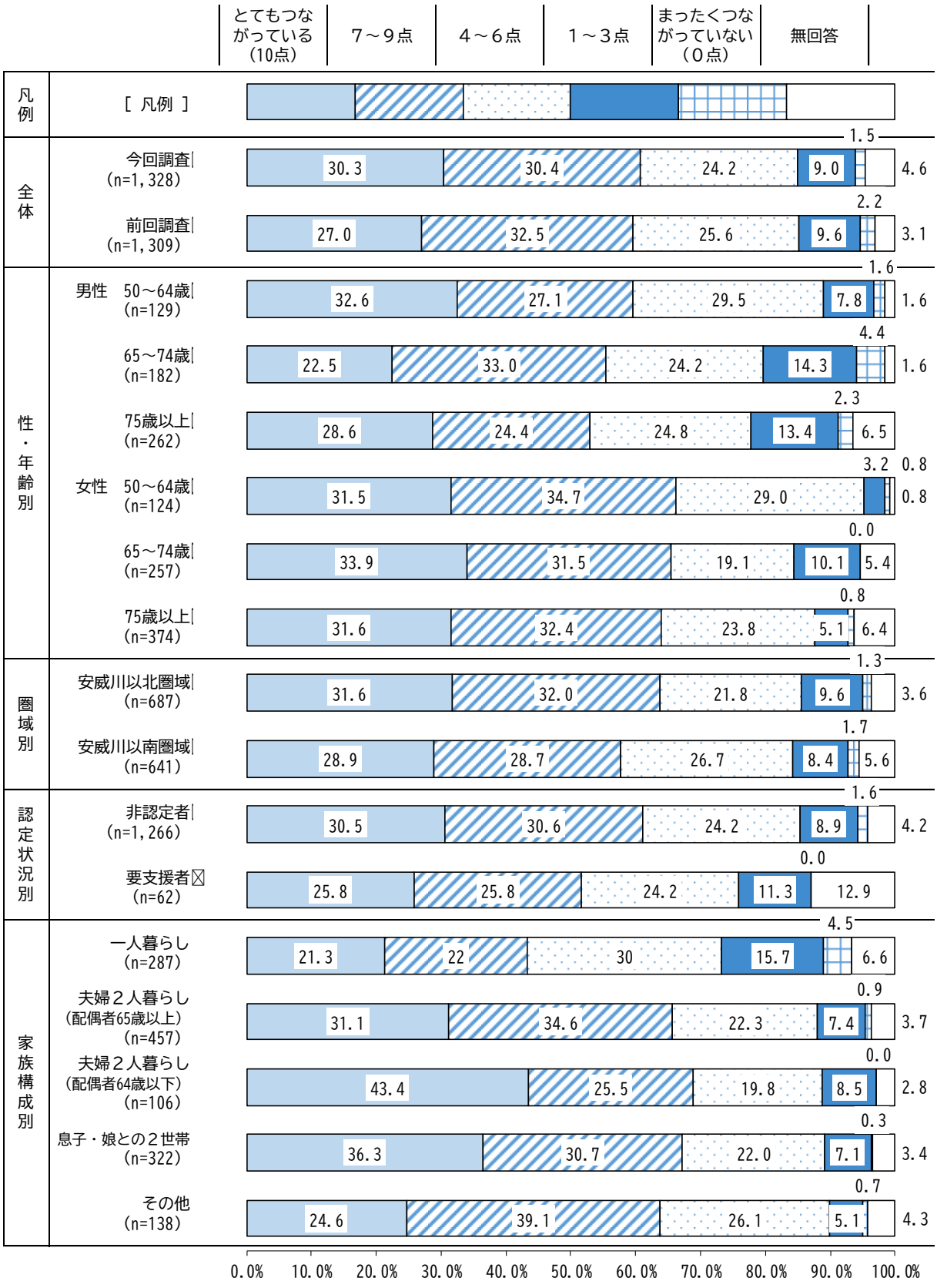
		母数(n)	そのような場があることが知らなかった	実施場所がわからない	自宅に近い場所で行われていない	料金がかかる	一緒に参加する仲間や友人がいない	参加しても効果があると思えない	他人と活動するのが好きでない	日時が合わない	参加したことがあるが合わなかった
全体		1,025	11.2	7.6	6.4	3.7	13.2	3.8	14.0	11.3	2.4
性・年齢別	男性　50～64歳	119	13.4	0.8	0.8	0.8	7.6	1.7	9.2	5.9	1.7
	65～74歳	165	15.8	12.1	5.5	3.0	12.1	4.8	16.4	9.1	－
	75歳以上	208	11.1	5.8	8.2	2.9	18.3	4.3	18.8	11.1	2.9
	女性　50～64歳	114	11.4	7.9	0.9	1.8	11.4	1.8	7.0	13.2	－
	65～74歳	205	8.3	7.3	7.8	5.9	14.6	3.9	17.6	16.1	2.0
	75歳以上	214	9.3	9.8	10.3	5.6	11.7	4.7	10.7	10.7	6.1
圏域別	安威川以北圏域	544	10.5	6.8	4.6	3.3	13.4	4.4	11.8	12.9	2.0
	安威川以南圏域	481	12.1	8.5	8.5	4.2	12.9	3.1	16.6	9.6	2.9
認定状況別	非認定者	998	11.0	7.5	6.2	3.7	13.3	3.6	14.0	11.4	2.5
	要支援者	27	18.5	11.1	14.8	3.7	7.4	11.1	14.8	7.4	－
家族構成別	一人暮らし	211	13.3	10.9	8.5	4.7	14.7	4.7	15.2	11.8	4.3
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	347	8.6	6.6	6.6	3.2	13.5	4.9	14.1	11.8	2.9
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	93	10.8	2.2	3.2	4.3	10.8	3.2	14.0	6.5	1.1
	息子・娘との２世帯	241	10.8	8.3	6.2	2.9	13.3	1.7	11.6	13.3	1.2
	その他	120	15.8	7.5	5.8	5.0	12.5	4.2	15.8	10.0	1.7

単位：%

		母数(n)	そもそも通う必要がない	その他	特に理由はない	無回答
全体		1,025	23.1	8.0	31.5	3.6
性・年齢別	男性　50～64歳	119	△ 42.0	5.0	29.4	5.0
	65～74歳	165	24.2	4.2	38.8	3.0
	75歳以上	208	18.8	6.7	31.3	2.9
	女性　50～64歳	114	△ 37.7	7.0	24.6	5.3
	65～74歳	205	20.0	9.8	29.8	2.0
	75歳以上	214	▼ 11.2	12.6	32.7	4.7
圏域別	安威川以北圏域	544	26.8	7.4	30.1	4.0
	安威川以南圏域	481	18.9	8.7	33.1	3.1
認定状況別	非認定者	998	23.3	7.7	31.9	3.6
	要支援者	27	14.8	△ 18.5	▼ 18.5	3.7
家族構成別	一人暮らし	211	19.9	9.5	30.8	2.4
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	347	19.6	7.5	33.7	4.0
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	93	△ 38.7	4.3	22.6	6.5
	息子・娘との２世帯	241	22.0	7.5	33.2	4.6
	その他	120	31.7	10.8	29.2	－

◆ まわりの人とのつながり

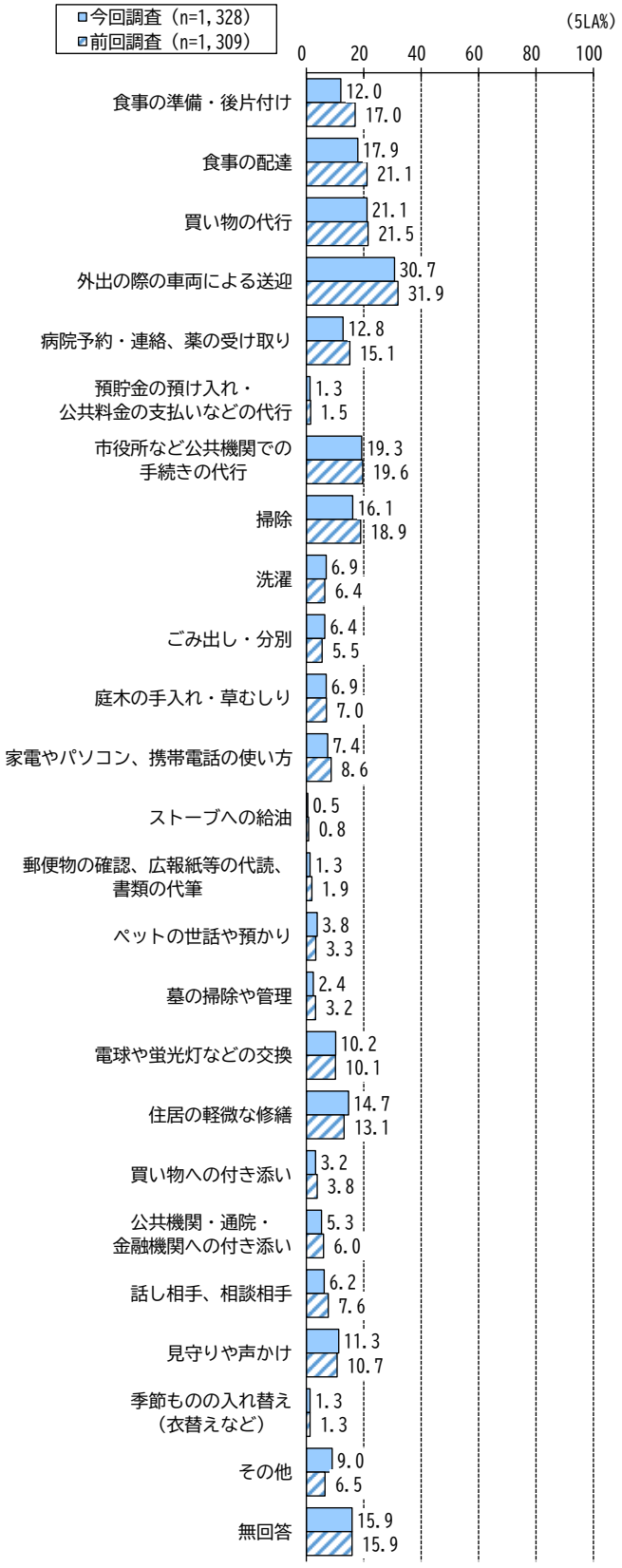
「７～９点」が 30.4％で最も多く、次いで「とてもつながっている（10点）」が 30.3％、「４～６点」が 24.2％となっています。



◆ 介護保険サービスで利用したいサービスや支援（５LA）

「外出の際の車両による送迎」が 30.7％で最も多く、次いで「買い物の代行」が 21.1％、「市役所など公共機関での手続きの代行」が 19.3％となっています。

前回調査と比較すると、「食事の準備・後片付け」は 12.0％と、前回（17.0％）から 5.0 ポイント低下しています。



単位：%

		母数☒(n)	食事の準備・後片付け	食事の配達	買い物の代行	外出の際の車両による送迎	病院予約・連絡、薬の受け取り	預貯金の預け入れ・公共料金の支払いなどの代行	市役所など公共機関での手続きの代行	掃除	洗濯	ごみ出し・分別
全体		1,328	12.0	17.9	21.1	30.7	12.8	1.3	19.3	16.1	6.9	6.4
性・年齢別	男性　50～64歳	129	18.6	22.5	26.4	24.0	18.6	1.6	20.9	23.3	14.7	9.3
	65～74歳	182	15.4	25.3	19.8	21.4	14.3	2.2	18.7	19.8	13.2	6.6
	75歳以上	262	15.6	15.6	16.4	27.5	13.4	1.5	19.5	15.3	9.2	6.5
	女性　50～64歳	124	6.5	21.8	29.0	△ 44.4	17.7	0.8	21.0	13.7	1.6	8.1
	65～74歳	257	9.7	18.3	25.7	35.4	9.7	0.8	17.1	14.4	2.3	5.4
	75歳以上	374	8.8	12.8	17.4	32.1	10.2	1.1	19.8	14.4	4.3	5.3
圏域別	安威川以北圏域	687	10.3	19.1	21.5	27.5	12.1	1.2	19.4	16.3	7.3	6.6
	安威川以南圏域	641	13.7	16.7	20.6	34.2	13.6	1.4	19.2	15.9	6.4	6.2
認定状況別	非認定者	1,266	12.2	18.2	21.6	30.9	13.0	1.3	19.2	16.3	6.9	6.5
	要支援者	62	8.1	12.9	11.3	27.4	8.1	-	21.0	12.9	6.5	4.8

単位：%

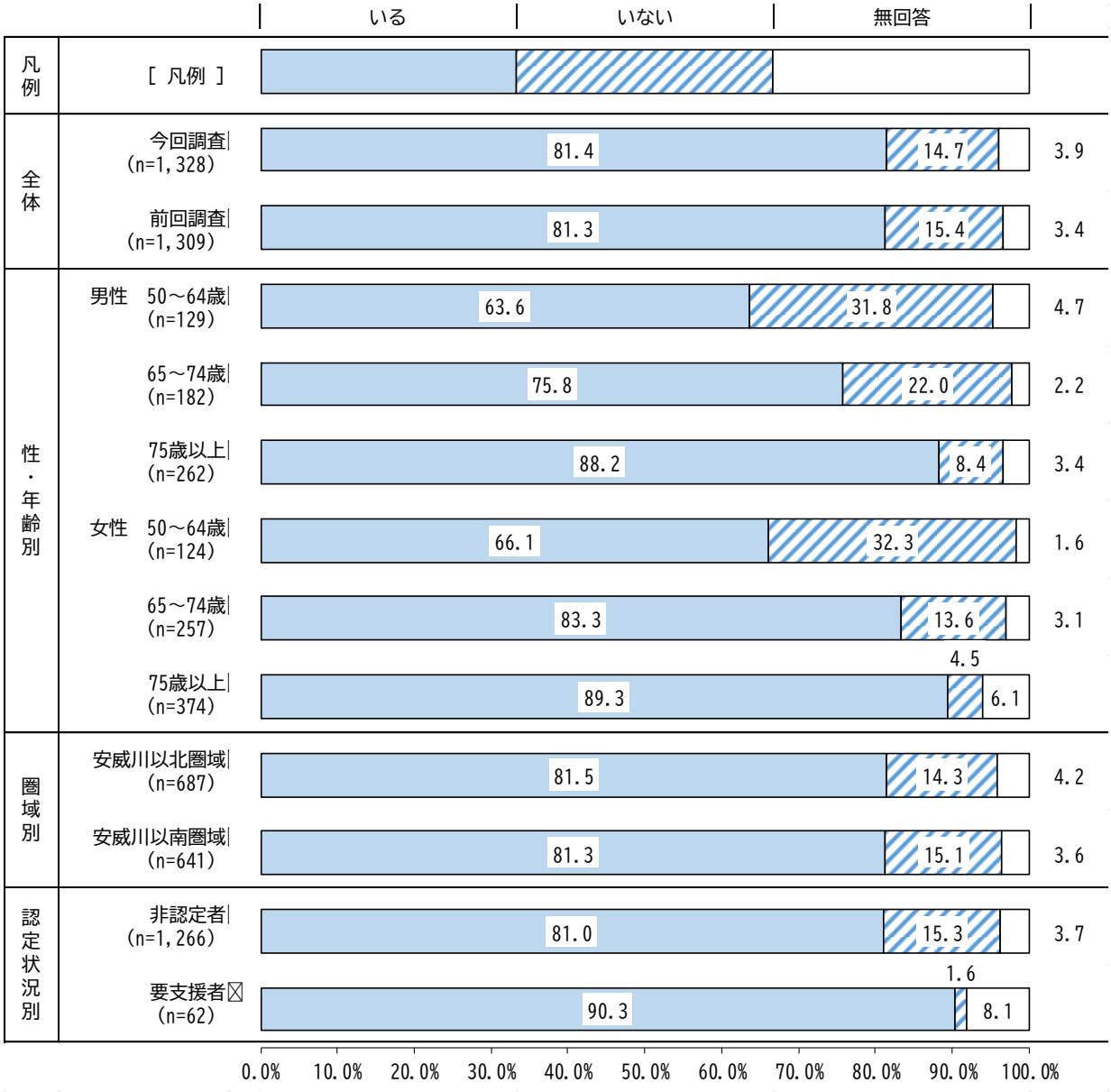
		母数☒(n)	庭木の手入れ・草むしり	家電やパソコン、携帯電話の使い方	ストーブへの給油	郵便物の確認、広報紙等の代読、書類の代筆	ペットの世話や預かり	墓の掃除や管理	電球や蛍光灯などの交換	住居の軽微な修繕	買い物への付き添い	公共機関・通院・金融機関への付き添い
全体		1,328	6.9	7.4	0.5	1.3	3.8	2.4	10.2	14.7	3.2	5.3
性・年齢別	男性　50～64歳	129	3.9	3.1	-	0.8	4.7	3.9	3.1	10.1	0.8	3.9
	65～74歳	182	6.6	3.8	0.5	1.6	4.4	2.2	6.6	12.1	3.3	4.4
	75歳以上	262	5.0	12.2	1.1	3.1	2.3	1.9	7.3	14.1	2.3	5.7
	女性　50～64歳	124	7.3	4.8	-	1.6	4.8	2.4	6.5	15.3	2.4	8.9
	65～74歳	257	7.0	8.9	0.4	0.4	6.6	2.3	11.3	14.4	3.1	7.8
	75歳以上	374	9.4	7.0	0.3	0.5	1.9	2.4	16.8	17.9	5.1	3.2
圏域別	安威川以北圏域	687	6.7	7.4	0.4	1.3	4.4	2.5	10.9	14.6	2.9	4.9
	安威川以南圏域	641	7.2	7.3	0.5	1.2	3.1	2.3	9.4	14.8	3.6	5.8
認定状況別	非認定者	1,266	7.0	6.9	0.5	1.3	3.8	2.4	9.6	14.5	3.1	5.3
	要支援者	62	6.5	△ 17.7	-	1.6	3.2	1.6	△ 22.6	19.4	6.5	6.5

単位：%

		母数☒(n)	話し相手、相談相手	見守りや声かけ	季節ものの入れ替え（衣替えなど）	その他	無回答
全体		1,328	6.2	11.3	1.3	9.0	15.9
性・年齢別	男性　50～64歳	129	5.4	10.9	2.3	10.1	7.8
	65～74歳	182	9.3	11.0	0.5	11.0	11.0
	75歳以上	262	6.5	13.0	0.8	9.2	18.3
	女性　50～64歳	124	9.7	11.3	0.8	7.3	11.3
	65～74歳	257	5.4	9.7	1.2	8.6	18.3
	75歳以上	374	4.0	11.5	1.9	8.3	19.3
圏域別	安威川以北圏域	687	6.4	10.8	1.5	9.5	15.9
	安威川以南圏域	641	5.9	11.9	1.1	8.4	15.9
認定状況別	非認定者	1,266	5.9	11.2	1.3	9.3	15.7
	要支援者	62	11.3	12.9	1.6	1.6	19.4

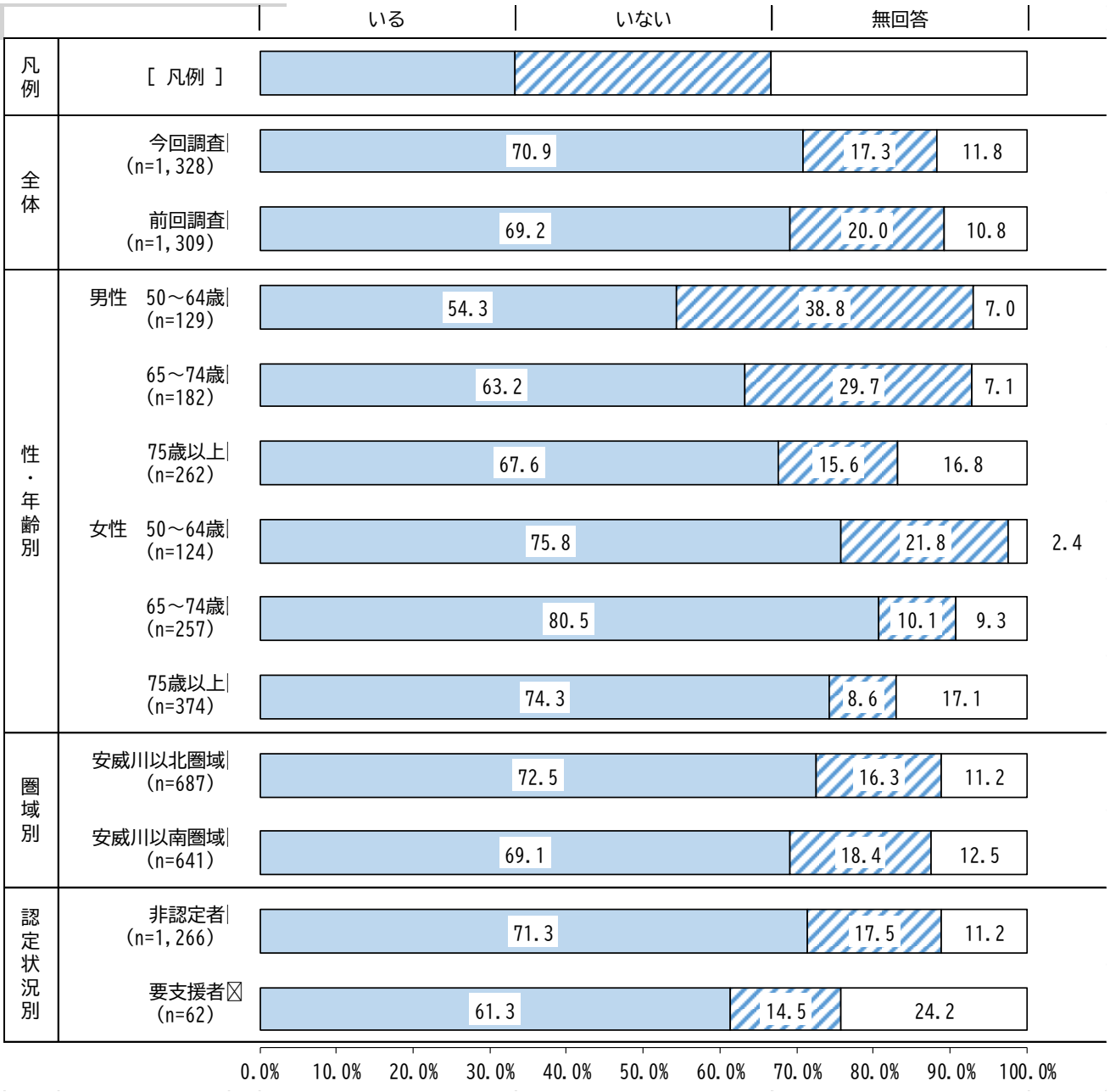
◆ かかりつけ医の有無

「いる」が 81.4%、「いない」が 14.7%となっています



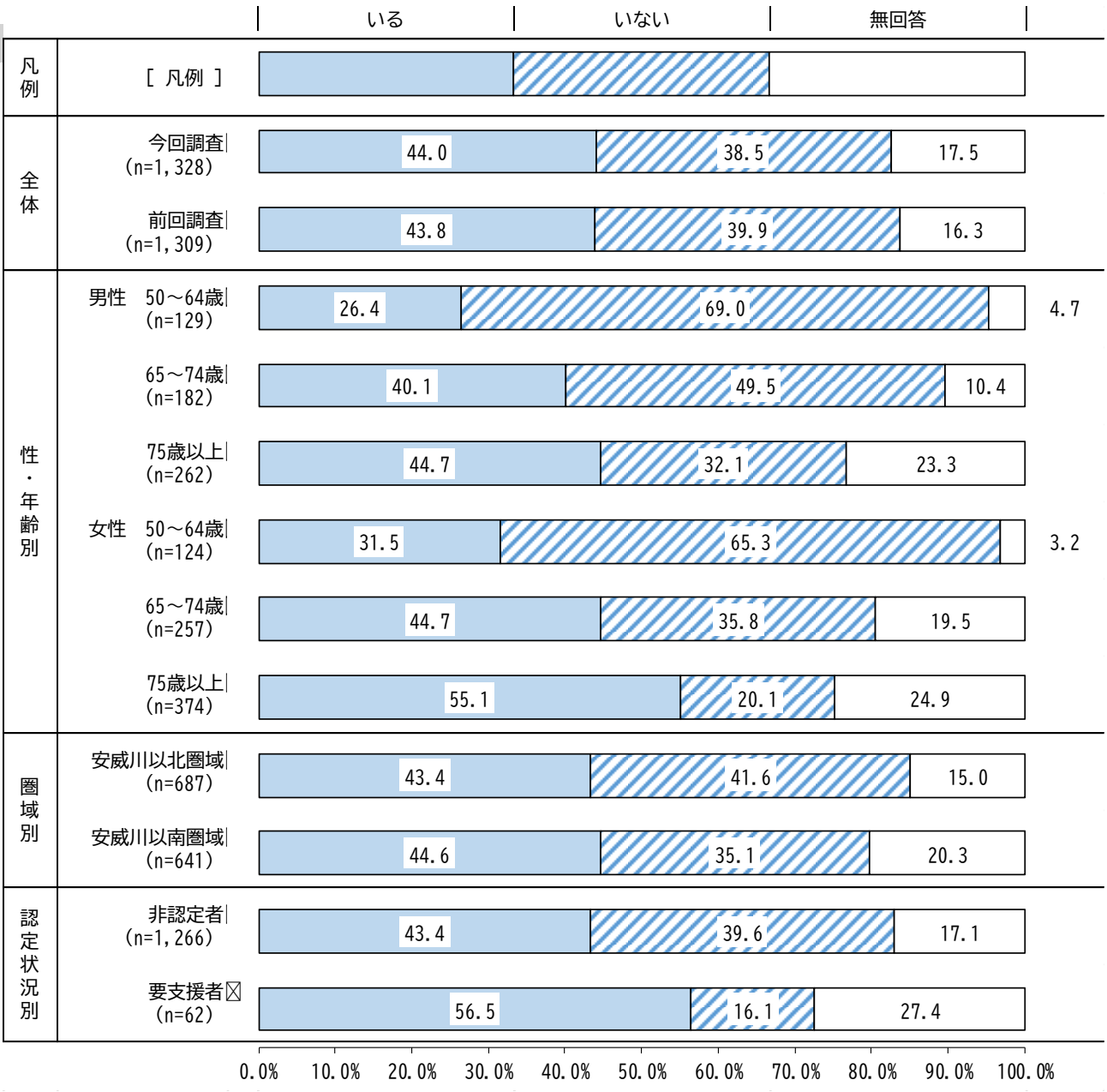
◆ かかりつけ歯科医の有無

「いる」が 70.9%、「いない」が 17.3%となっています。



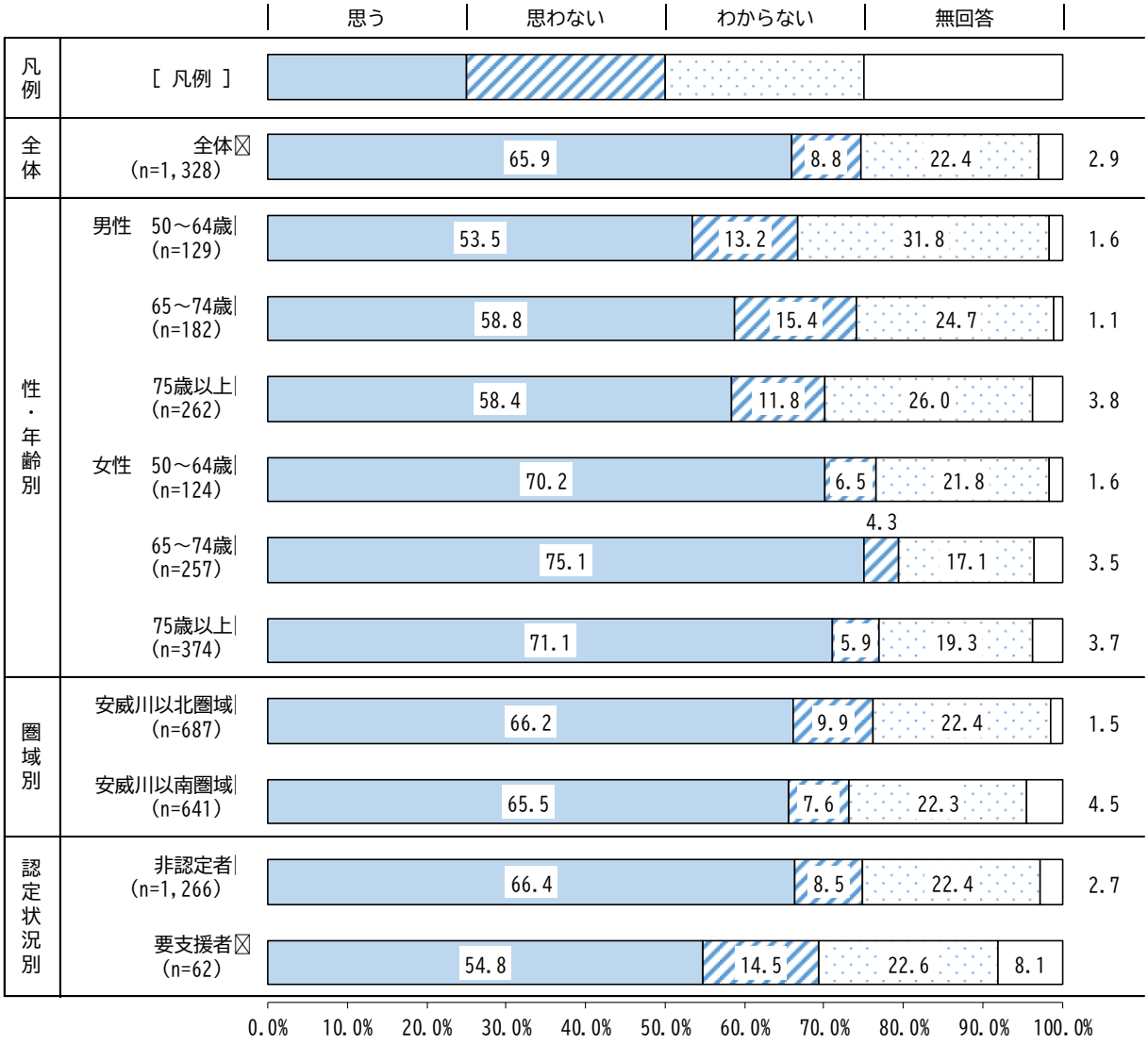
◆ かかりつけ薬剤師の有無

「いる」が 44.0%、「いない」が 38.5%となっています。



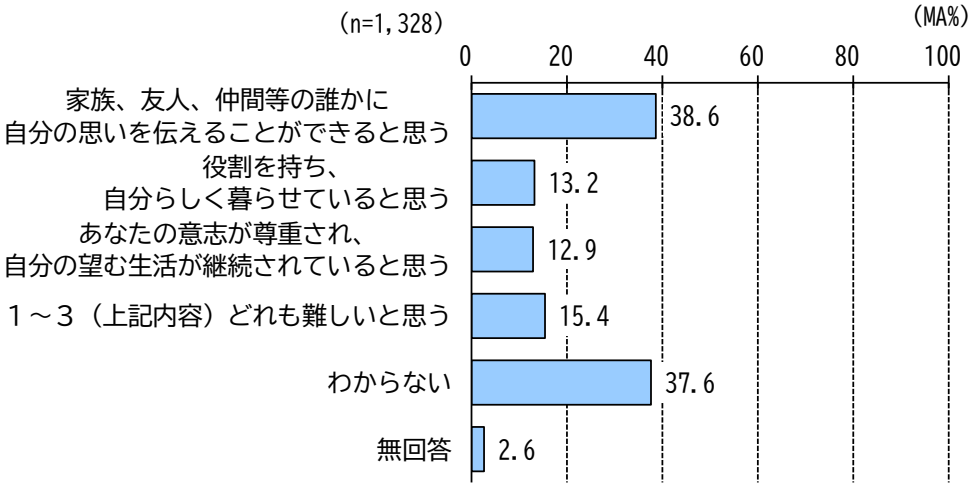
◆ 認知症を自分ごととして思うか

「思う」が 65.9％で最も多く、次いで「わからない」が 22.4％、「思わない」が 8.8％となっています。



◆ 認知症になった場合のイメージ

「家族、友人、仲間等の誰かに自分の思いを伝えることができると思う」が 38.6%で最も多く、次いで「わからない」が 37.6%、「１～３どれも難しいと思う」が 15.4%となっています。

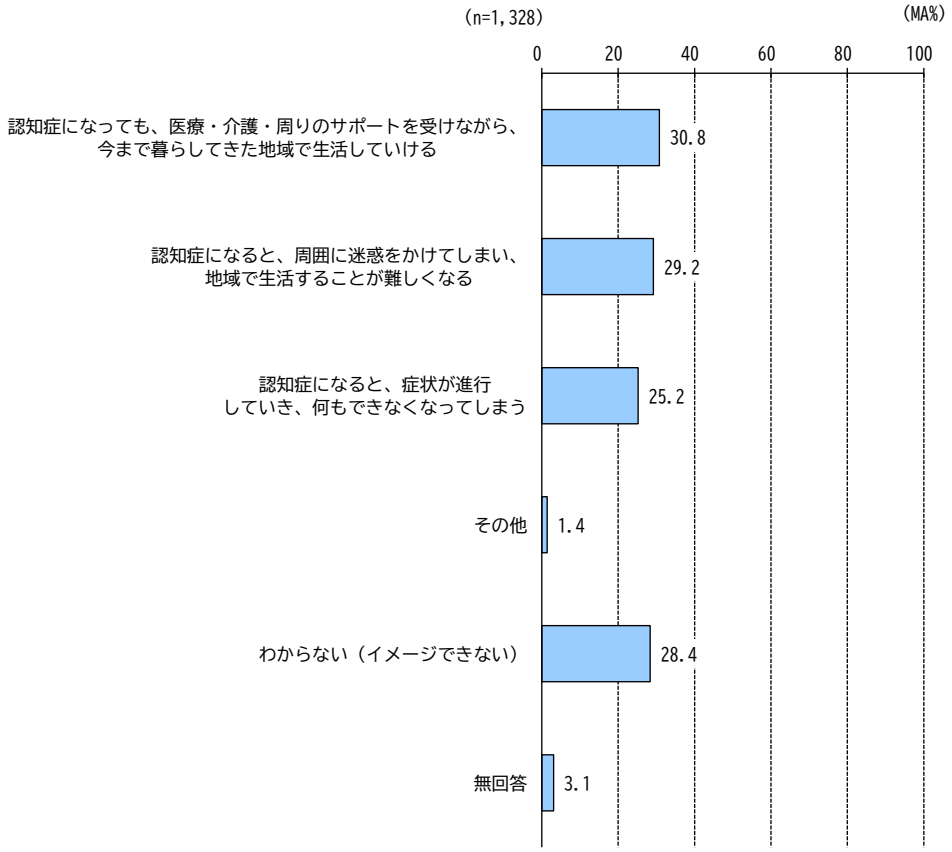


単位：%

		母数(n)	家族、友人、仲間等の誰かに自分の思いを伝えることができると思う	役割を持ち、自分らしく暮らせていると思う	あなたの意志が尊重され、自分の望む生活が継続されていると思う	１～３（上記内容）どれも難しいと思う	わからない	無回答
全体		1,328	38.6	13.2	12.9	15.4	37.6	2.6
性・年齢別	男性　50～64歳	129	30.2	4.7	8.5	21.7	41.9	1.6
	65～74歳	182	34.1	9.9	11.0	14.8	42.3	1.1
	75歳以上	262	39.3	11.1	13.4	16.4	35.1	2.7
	女性　50～64歳	124	▼ 25.0	10.5	4.8	19.4	△ 48.4	1.6
	65～74歳	257	38.5	15.6	16.3	14.8	38.5	2.7
	75歳以上	374	47.9	18.4	15.2	12.0	31.3	4.0
圏域別	安威川以北圏域	687	37.7	12.1	12.8	16.4	37.7	1.9
	安威川以南圏域	641	39.6	14.4	12.9	14.4	37.4	3.4
認定状況別	非認定者	1,266	38.6	12.9	12.8	15.2	37.9	2.4
	要支援者	62	38.7	19.4	14.5	19.4	30.6	6.5

◆ 認知症に対するイメージ

「認知症になっても、医療・介護・周りのサポートを受けながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」が 30.8%で最も多く、次いで「認知症になると、周囲に迷惑をかけてしまい、地域で生活することが難しくなる」が 29.2%、「わからない（イメージできない）」が 28.4%となっています。



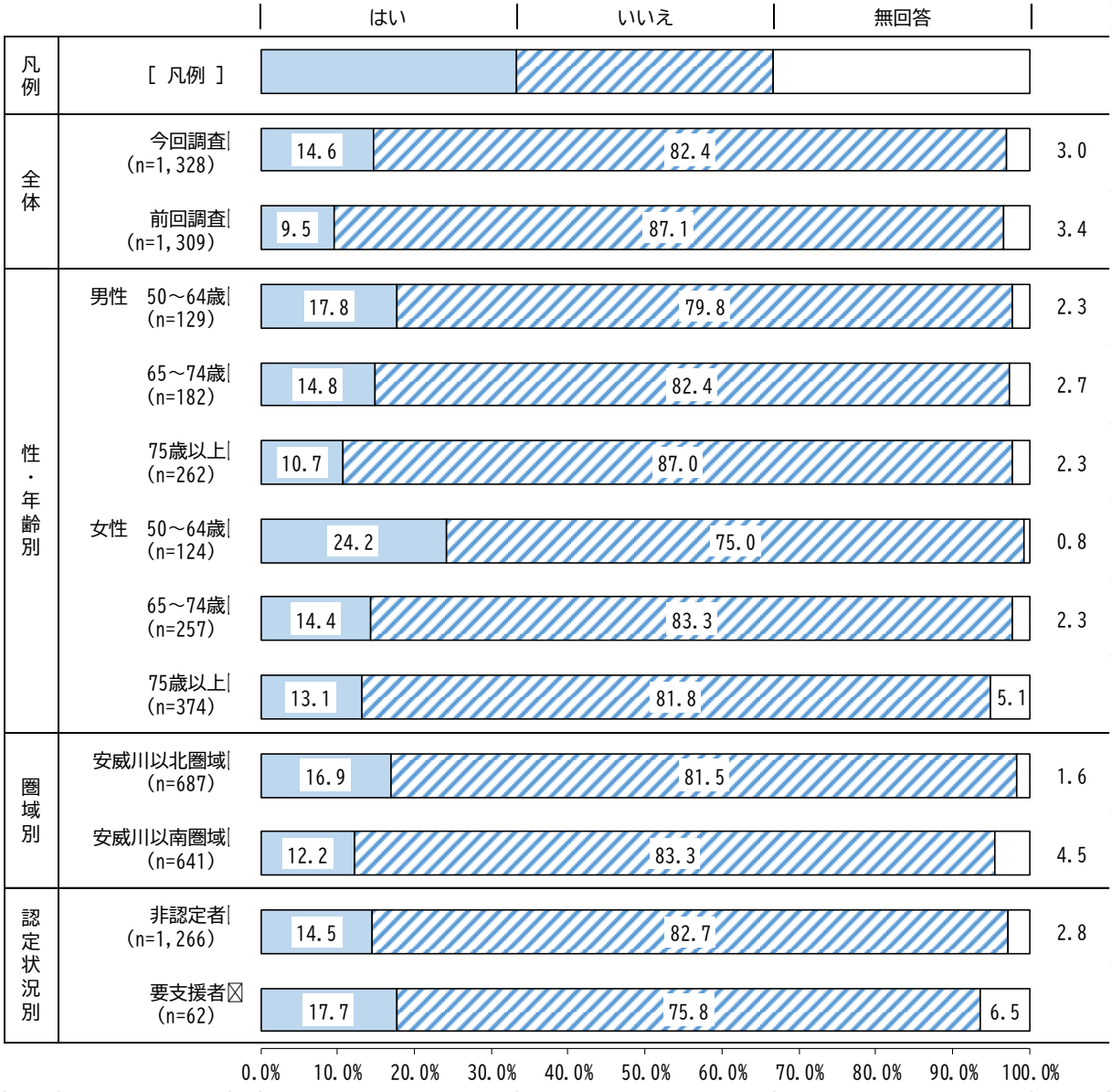
単位：%

		母数(n)	認知症になっても、医療・介護・周りのサポートを受けながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける	認知症になると、周囲に迷惑をかけてしまい、地域で生活することが難しくなる	認知症になると、症状が進行していき、何もできなくなってしまう	その他	わからない（イメージできない）	無回答
全体		1,328	30.8	29.2	25.2	1.4	28.4	3.1
性・年齢別	男性　50～64歳	129	20.9	38.8	33.3	0.8	23.3	1.6
	65～74歳	182	24.2	37.4	32.4	－	27.5	1.1
	75歳以上	262	29.0	▼ 19.1	22.1	1.1	37.4	3.4
	女性　50～64歳	124	27.4	37.9	25.0	4.8	20.2	0.8
	65～74歳	257	32.7	31.5	24.1	0.8	25.7	4.3
	75歳以上	374	38.5	24.6	21.9	1.6	28.9	4.3
圏域別	安威川以北圏域	687	31.9	32.0	22.7	2.0	27.4	1.7
	安威川以南圏域	641	29.6	26.2	27.9	0.6	29.5	4.5
認定状況別	非認定者	1,266	31.2	29.4	25.2	1.3	28.1	2.9
	要支援者	62	22.6	25.8	25.8	1.6	33.9	6.5
まわりの人とのつながり別	とてもつながっている（10点）	402	39.8	25.4	24.4	1.5	25.9	1.5
	７～９点	404	32.9	36.1	26.5	1.5	22.5	2.0
	４～６点	321	26.8	29.0	25.5	1.2	32.1	1.9
	１～３点	120	▼ 15.8	30.0	27.5	－	38.3	3.3
	まったくつながっていない（０点）	20	▼ 10.0	20.0	25.0	－	△ 50.0	5.0

◆ 自身や家族の認知症症状有無

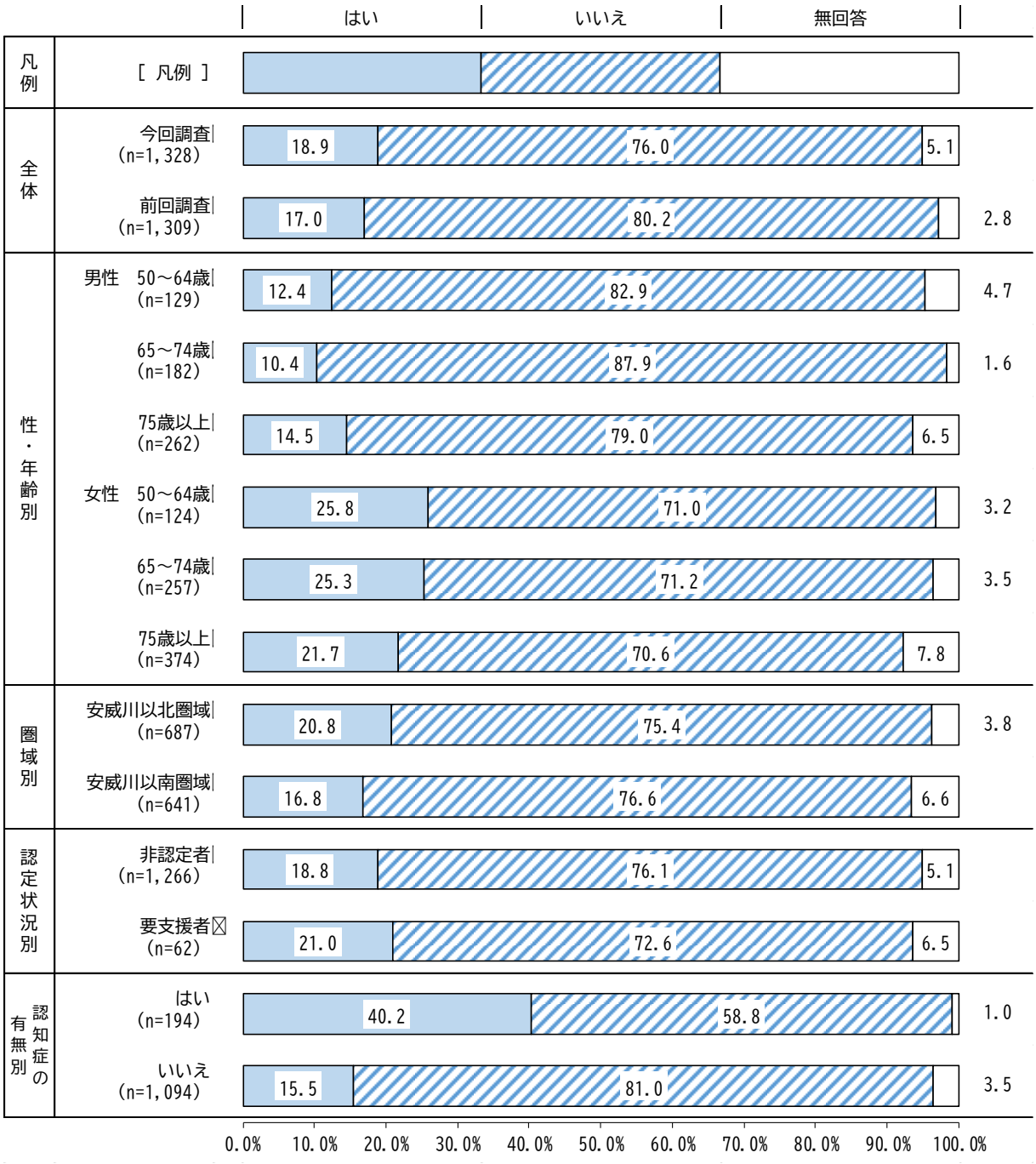
「はい」が 14.6%、「いいえ」が 82.4%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」は 14.6%と、前回（9.5%）から 5.1 ポイント増加しています。



◆ 認知症に関する相談窓口の認知状況の有無

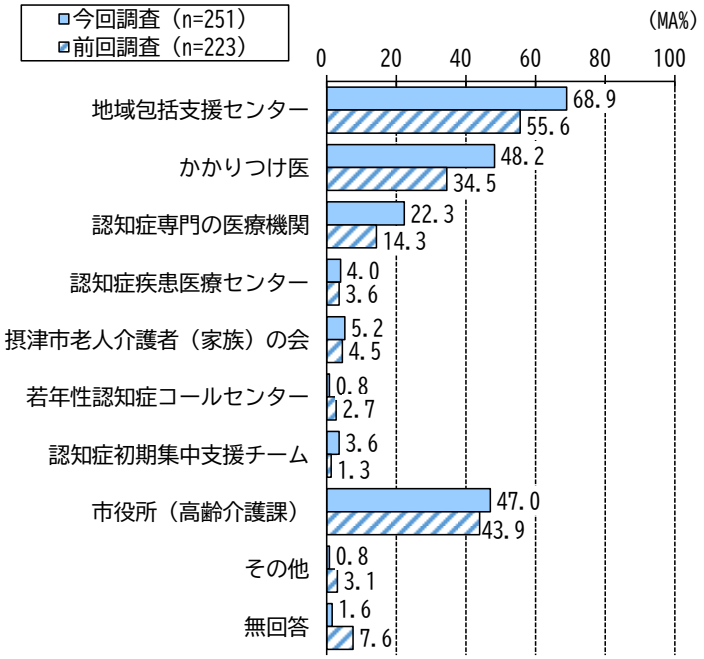
「はい」が 18.9%、「いいえ」が 76.0%となっています。



◆ 知っている認知症相談窓口

「地域包括支援センター」が 68.9%で最も多く、次いで「かかりつけ医」が 48.2%、「市役所（高齢介護課）」が 47.0%となっています。

前回調査と比較すると、「地域包括支援センター」「かかりつけ医」は前回から 13 ポイント以上多くなっています。

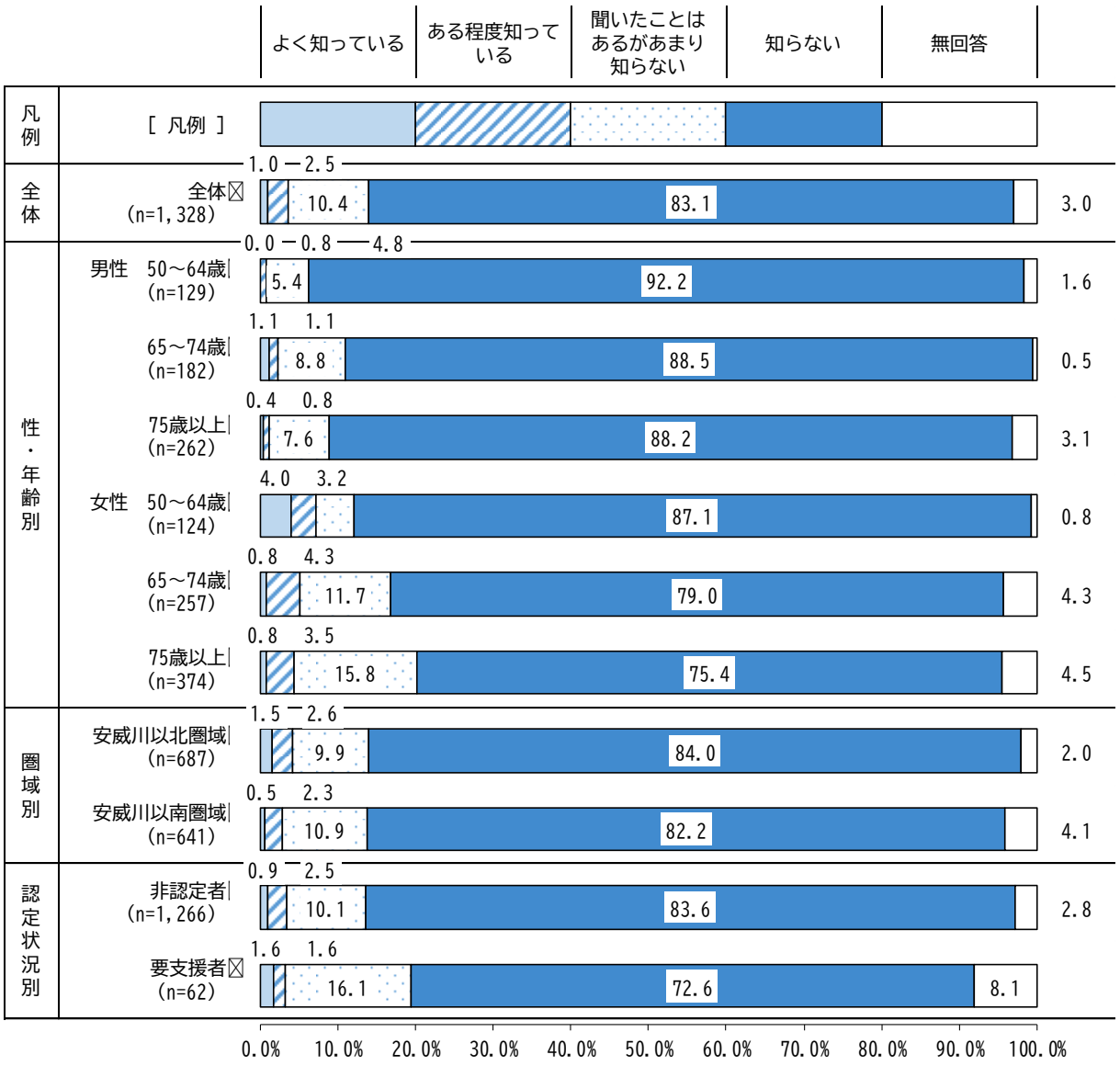


単位：%

		母数(n)	地域包括支援センター	かかりつけ医	認知症専門の医療機関	認知症疾患医療センター	摂津市老人介護者（家族）の会	若年性認知症コールセンター	認知症初期集中支援チーム	市役所（高齢介護課）	その他	無回答
全体		251	68.9	48.2	22.3	4.0	5.2	0.8	3.6	47.0	0.8	1.6
性・年齢別	男性　50～64歳	16	△ 81.3	▼ 18.8	12.5	－	－	－	－	▼ 25.0	－	－
	65～74歳	19	▼ 57.9	47.4	26.3	10.5	5.3	－	－	52.6	－	－
	75歳以上	38	▼ 50.0	△ 60.5	21.1	2.6	5.3	－	2.6	▼ 36.8	－	2.6
	女性　50～64歳	32	71.9	▼ 31.3	25.0	6.3	3.1	3.1	6.3	△ 65.6	3.1	－
	65～74歳	65	73.8	43.1	16.9	4.6	3.1	－	6.2	46.2	1.5	1.5
	75歳以上	81	72.8	△ 59.3	27.2	2.5	8.6	1.2	2.5	48.1	－	2.5
圏域別	安威川以北圏域	143	73.4	42.7	23.1	4.2	4.9	1.4	4.2	51.7	0.7	－
	安威川以南圏域	108	63.0	55.6	21.3	3.7	5.6	－	2.8	40.7	0.9	3.7
認定状況別	非認定者	238	68.5	47.5	22.3	4.2	5.0	0.8	3.8	46.6	0.8	1.7
	要支援者	13	76.9	△ 61.5	23.1	－	7.7	－	－	53.8	－	－

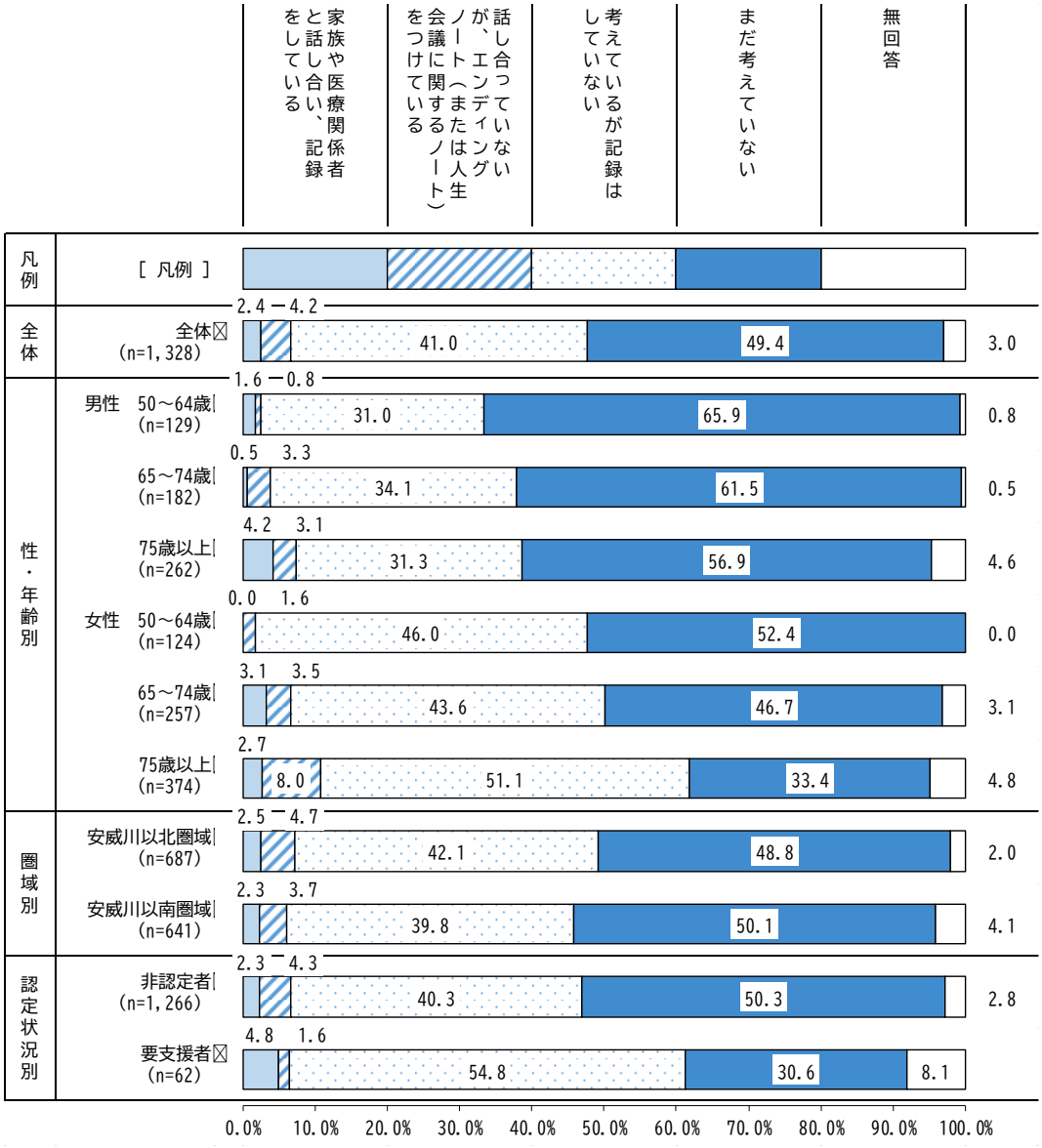
◆ 人生会議またはACPの認知状況

「知らない」が83.1%で最も多く、次いで「聞いたことはあるがあまり知らない」が10.4%、「ある程度知っている」が2.5%となっています。



◆ 医療や介護が必要になったときの生活についての検討・行動状況

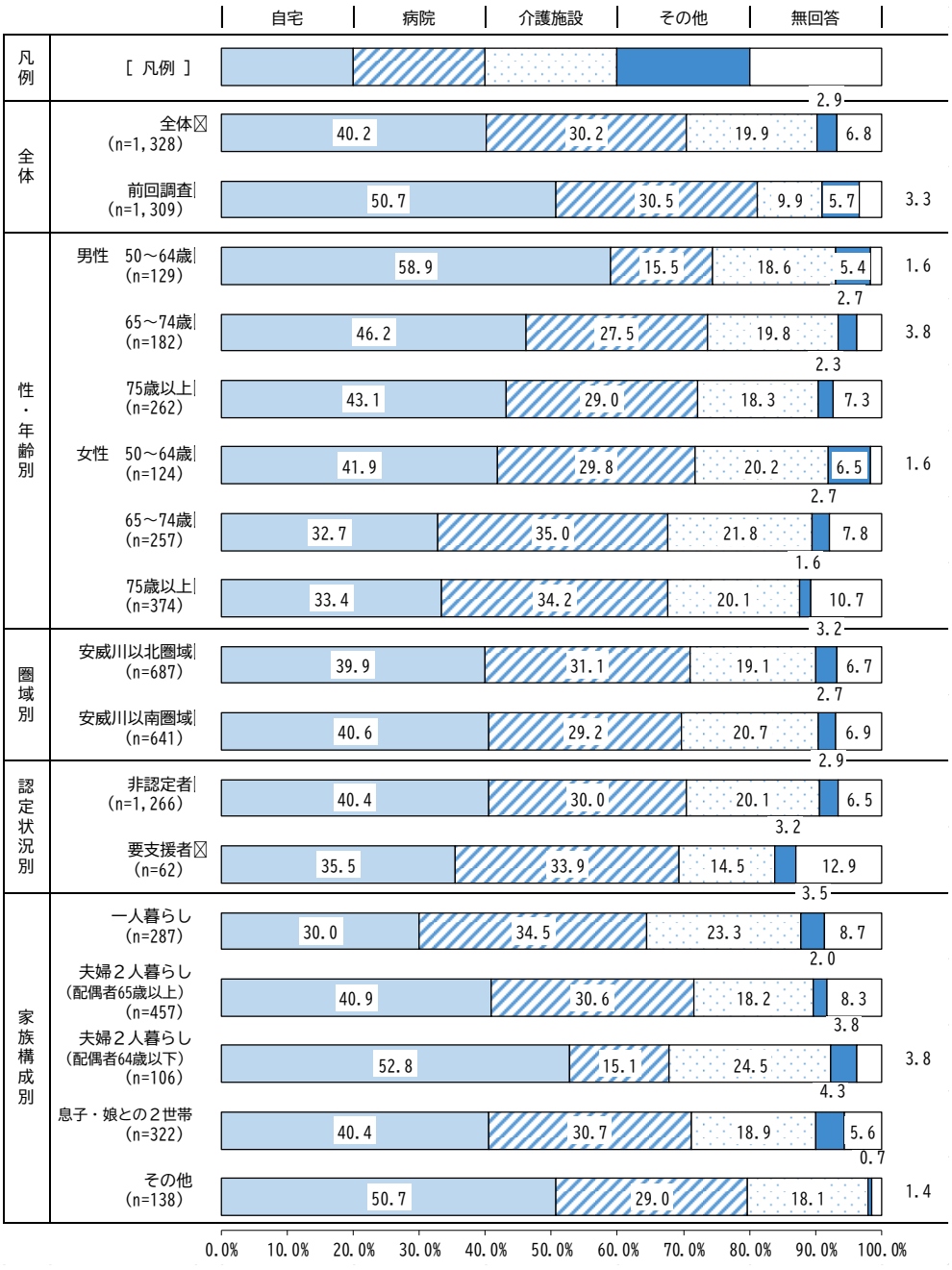
「まだ考えていない」が 49.4%で最も多く、次いで「考えているが記録はしていない」が 41.0%、「話し合っていないが、エンディングノート（または人生会議に関するノート）をつけている」が 4.2%となっています。



◆ 「人生の最終段階」をどこで迎えたいか

「自宅」が 40.2%で最も多く、次いで「病院」が 30.2%、「介護施設」が 19.9%となっています。

前回調査と比較すると、「自宅」は 40.2%と、前回（50.7%）から 10.5 ポイント低下し、「介護施設」は 19.9%と、前回（9.9%）から 10.0 ポイント多くなっています。



◆ 情報機器（スマートフォン、タブレット、パソコン）の使用方法

「電話やＬＩＮＥ、メール等を使用して、家族・友人などと連絡をとる」が82.2%で最も多く、次いで「写真や動画の撮影」が48.0%、「インターネットで情報を集めたり、買い物をしたりする」が35.5%となっています。

単位：%

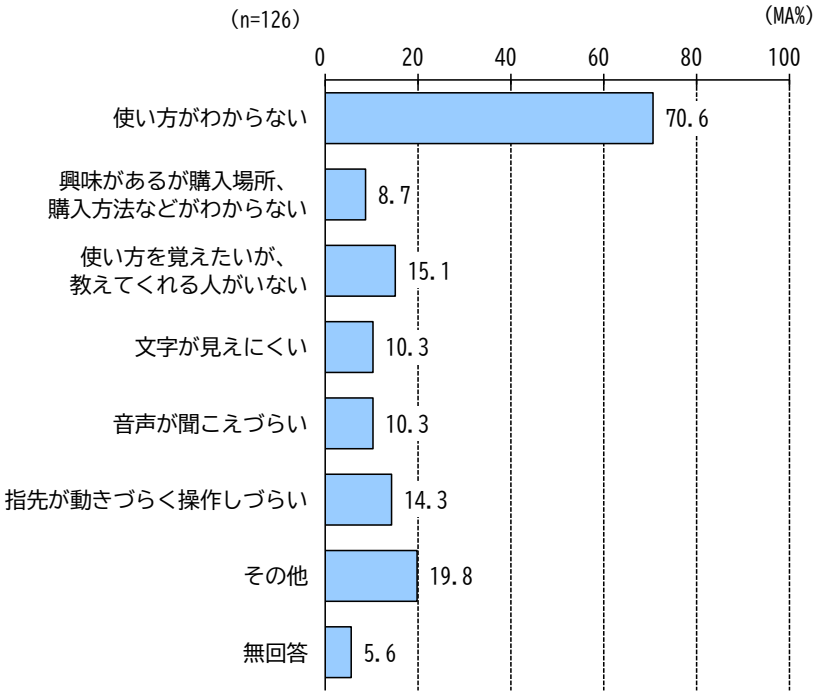
		母数（n）	電話やＬＩＮＥ、メール等を使用して、家族・友人などと連絡をとる	市など行政の手続きをインターネットで行う（電子申請など）	インターネットで情報を集めたり、買い物をしたりする	ＳＮＳ（Ｘ（旧Ｔｗｉｔｔｅｒ）、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ、Ｆａｃｅｂｏｏｋなど）を利用する	ネットバンキングや金融取引（証券・保険取引など）をする	写真や動画の撮影	ビデオ通話（ＬＩＮＥ、ｚｏｏｍなど）を行う
全体		1,328	82.2	12.6	35.5	12.2	13.9	48.0	21.8
性・年齢別	男性　50～64歳	129	△ 93.0	△ 24.0	△ 72.1	△ 30.2	△ 45.0	△ 58.9	27.1
	65～74歳	182	85.7	△ 23.6	△ 50.0	15.4	△ 24.2	54.4	28.6
	75歳以上	262	▼ 68.3	5.3	▼ 19.1	3.1	6.1	▼ 28.6	▼ 8.0
	女性　50～64歳	124	△ 94.4	△ 27.4	△ 71.0	△ 41.1	△ 29.0	△ 75.8	△ 43.5
	65～74歳	257	91.8	14.0	42.8	10.9	9.3	△ 62.6	30.7
	75歳以上	374	75.9	▼ 2.4	▼ 10.4	▼ 2.1	▼ 1.6	▼ 35.6	13.1
圏域別	安威川以北圏域	687	85.0	16.4	44.1	14.3	17.8	52.4	26.2
	安威川以南圏域	641	79.3	8.4	26.2	10.0	9.7	43.4	17.2
認定状況別	非認定者	1,266	82.6	13.2	36.7	12.6	14.4	48.9	22.5
	要支援者	62	74.2	－	▼ 11.3	3.2	▼ 3.2	▼ 30.6	▼ 8.1

単位：%

		母数（n）	ゲームやＹｏｕＴｕｂｅなどのアプリを使用する	キャッシュレス決済（電子マネーやＱＲコード決済）	いずれも使わない	情報機器を持っていない	その他	無回答
全体		1,328	27.6	23.0	6.5	3.6	0.8	5.3
性・年齢別	男性　50～64歳	129	△ 60.5	△ 45.7	0.8	－	0.8	0.8
	65～74歳	182	33.5	△ 33.0	6.0	0.5	－	2.7
	75歳以上	262	▼ 10.7	▼ 10.7	11.5	7.3	1.9	9.2
	女性　50～64歳	124	△ 54.0	△ 52.4	0.8	－	－	3.2
	65～74歳	257	37.4	26.1	2.7	1.6	－	4.3
	75歳以上	374	▼ 9.9	▼ 7.0	9.6	6.4	1.3	6.7
圏域別	安威川以北圏域	687	30.1	26.6	5.1	3.8	0.7	4.5
	安威川以南圏域	641	25.0	19.0	8.0	3.4	0.9	6.1
認定状況別	非認定者	1,266	28.5	23.5	6.4	3.6	0.6	5.1
	要支援者	62	▼ 9.7	▼ 12.9	8.1	4.8	4.8	8.1

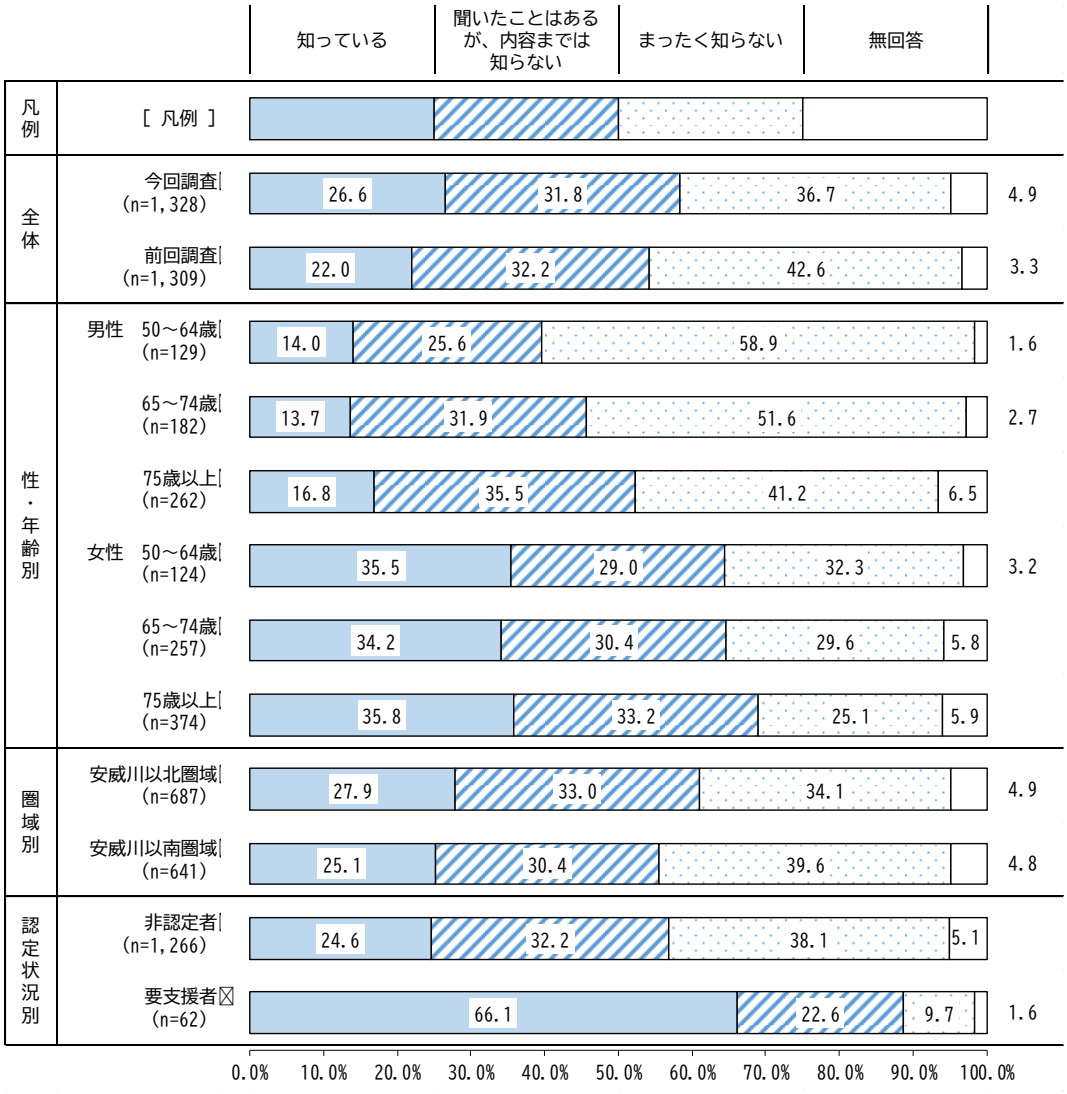
◆ ICT を活用しない理由

「使い方がわからない」が 70.6％で最も多く、次いで「その他」が 19.8％、「使い方を覚えたいが、教えてくれる人がいない」が 15.1％となっています。



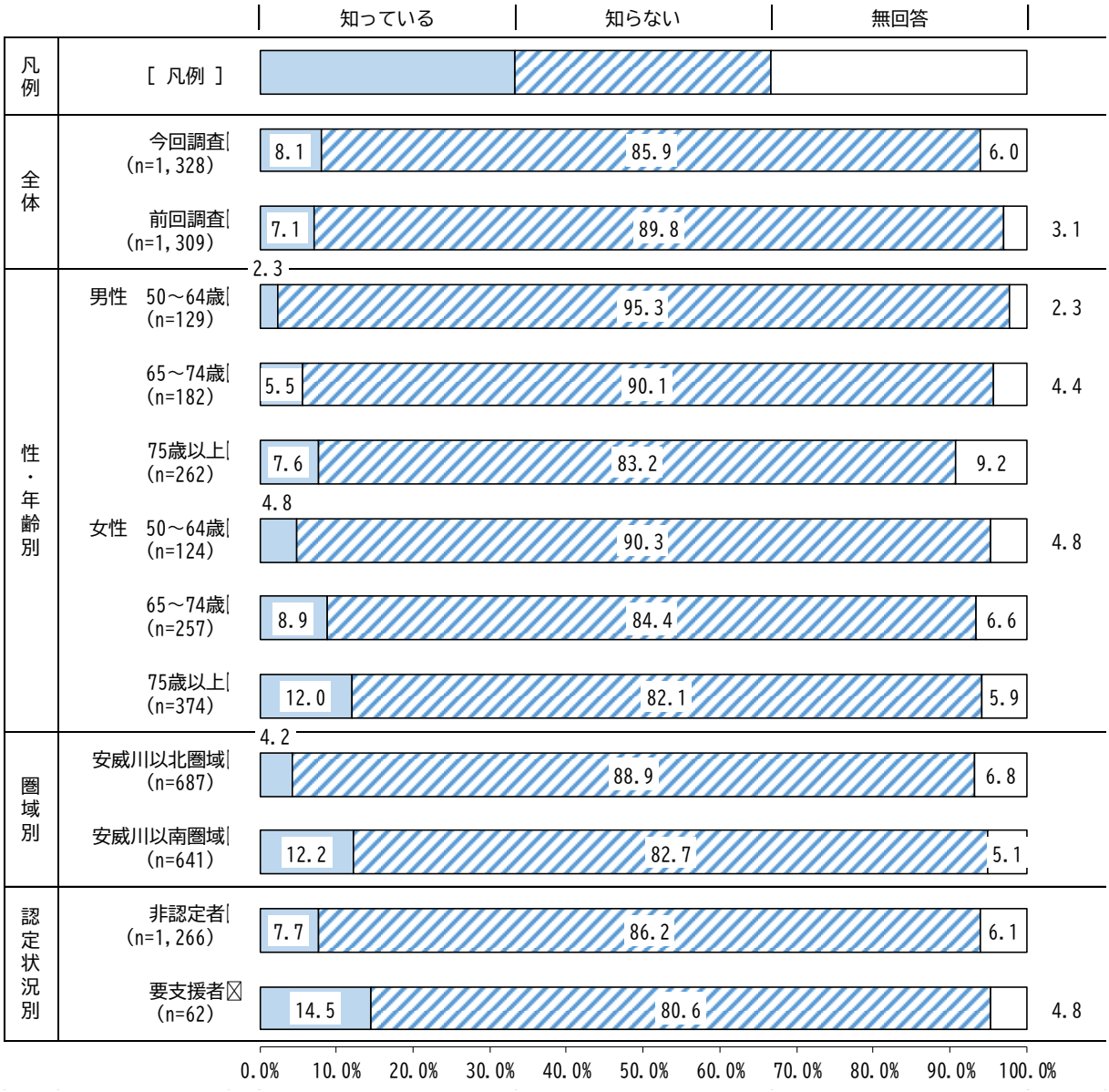
◆ 地域包括支援センターの認知状況

「まったく知らない」が 36.7％で最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 31.8％、「知っている」が 26.6％となっています。



◆ 地域包括支援センター「鳥飼分室」の認知状況

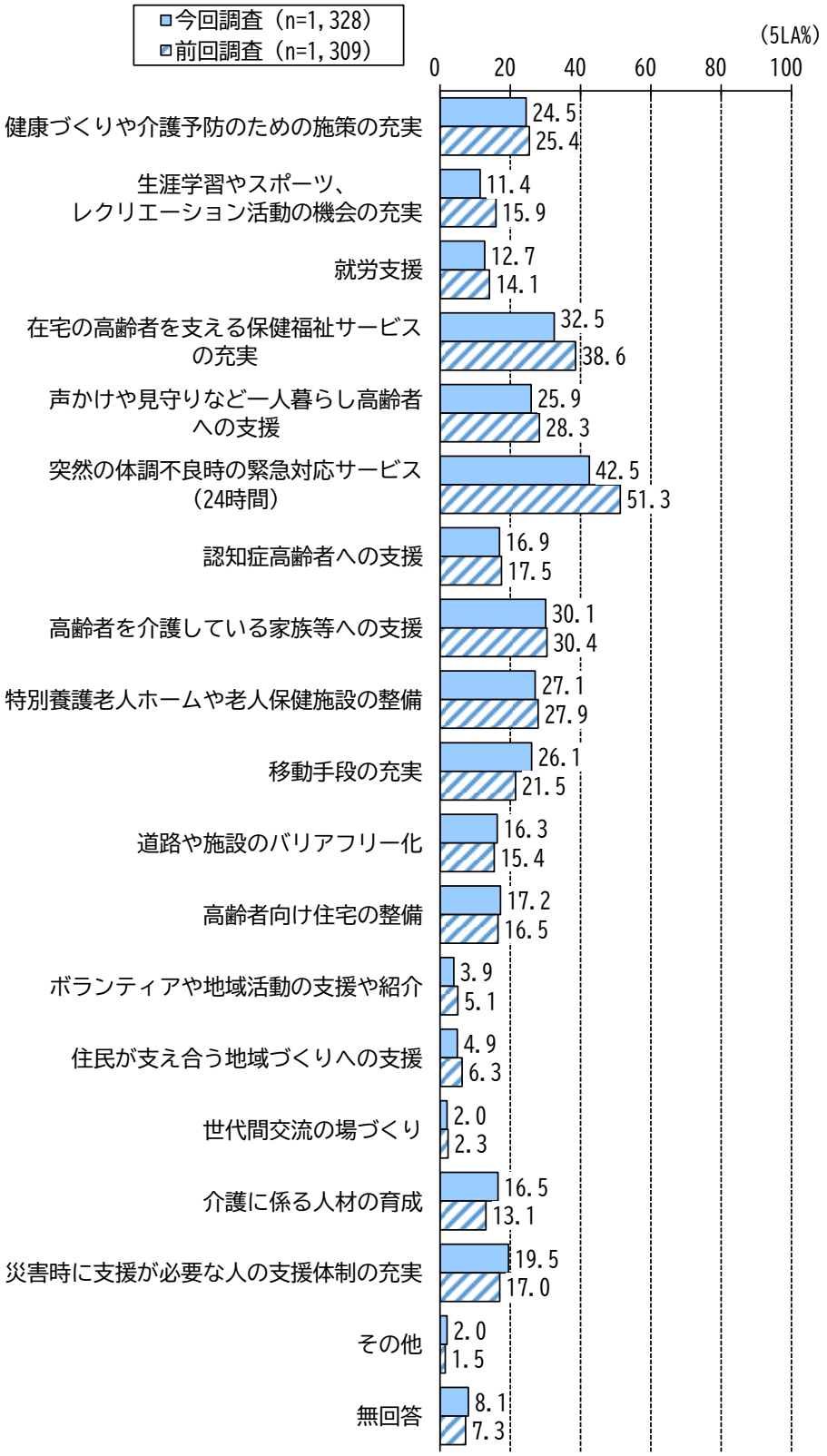
「知っている」が 8.1%、「知らない」が 85.9%となっています。



◆ 特に充実してほしい市の高齢者施策

「突然の体調不良時の緊急対応サービス（24時間）」が42.5%で最も多く、次いで「在宅の高齢者を支える保健福祉サービスの充実」が32.5%、「高齢者を介護している家族等への支援」が30.1%となっています。

前回調査と比較すると、「突然の体調不良時の緊急対応サービス（24時間）」「在宅の高齢者を支える保健福祉サービスの充実」は前回より5ポイント以上少なくなっています。

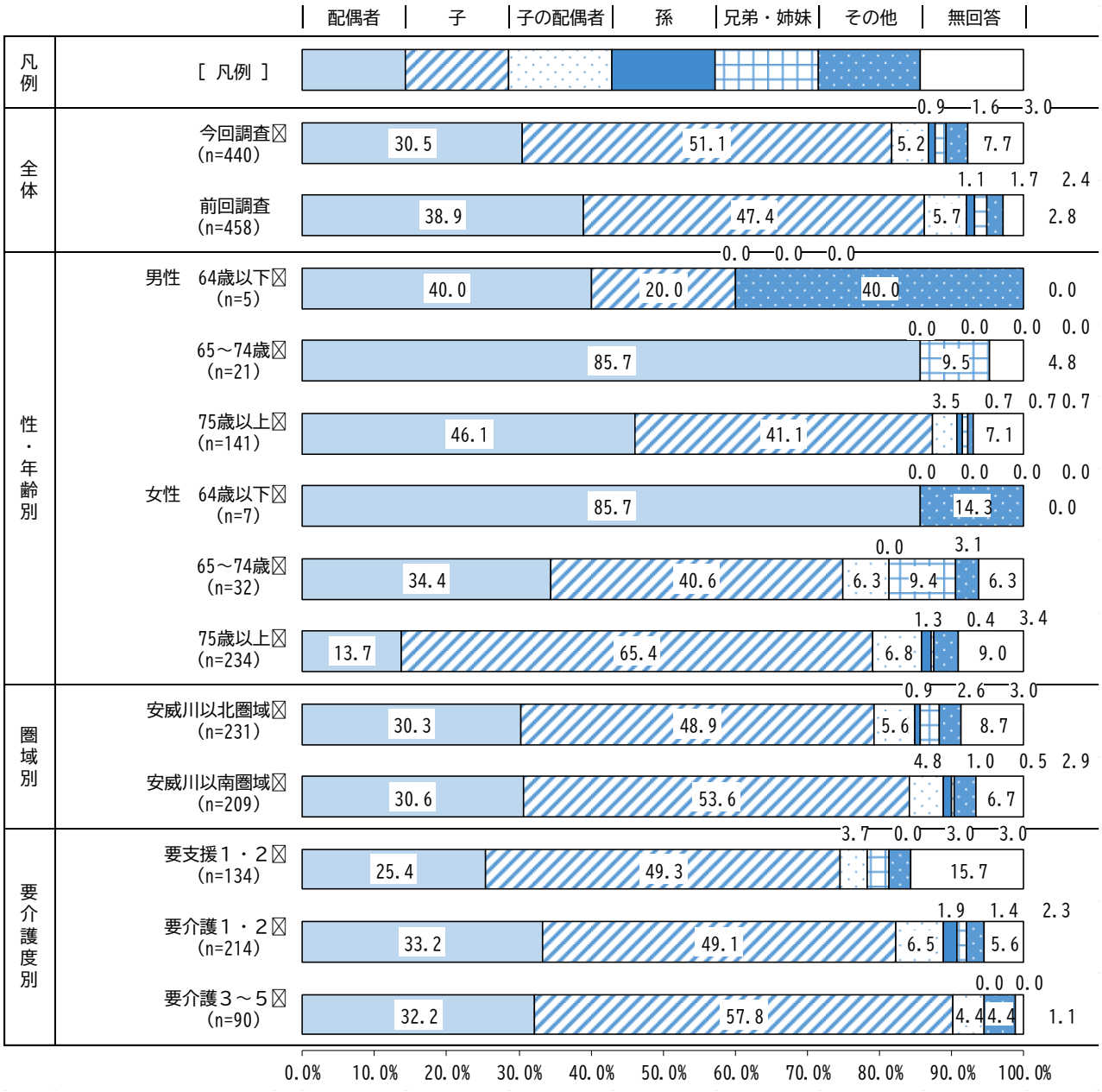


②在宅介護実態調査

◆ 主な介護者の続柄

主な介護者について、「子」が 51.1%で最も多く、次いで「配偶者」が 30.5%、「子の配偶者」が 5.2%となっています。

前回調査と比較すると、「配偶者」は 30.5%と、前回（38.9%）から 8.4 ポイント少なくなっています。



◆ 主な介護者の年齢

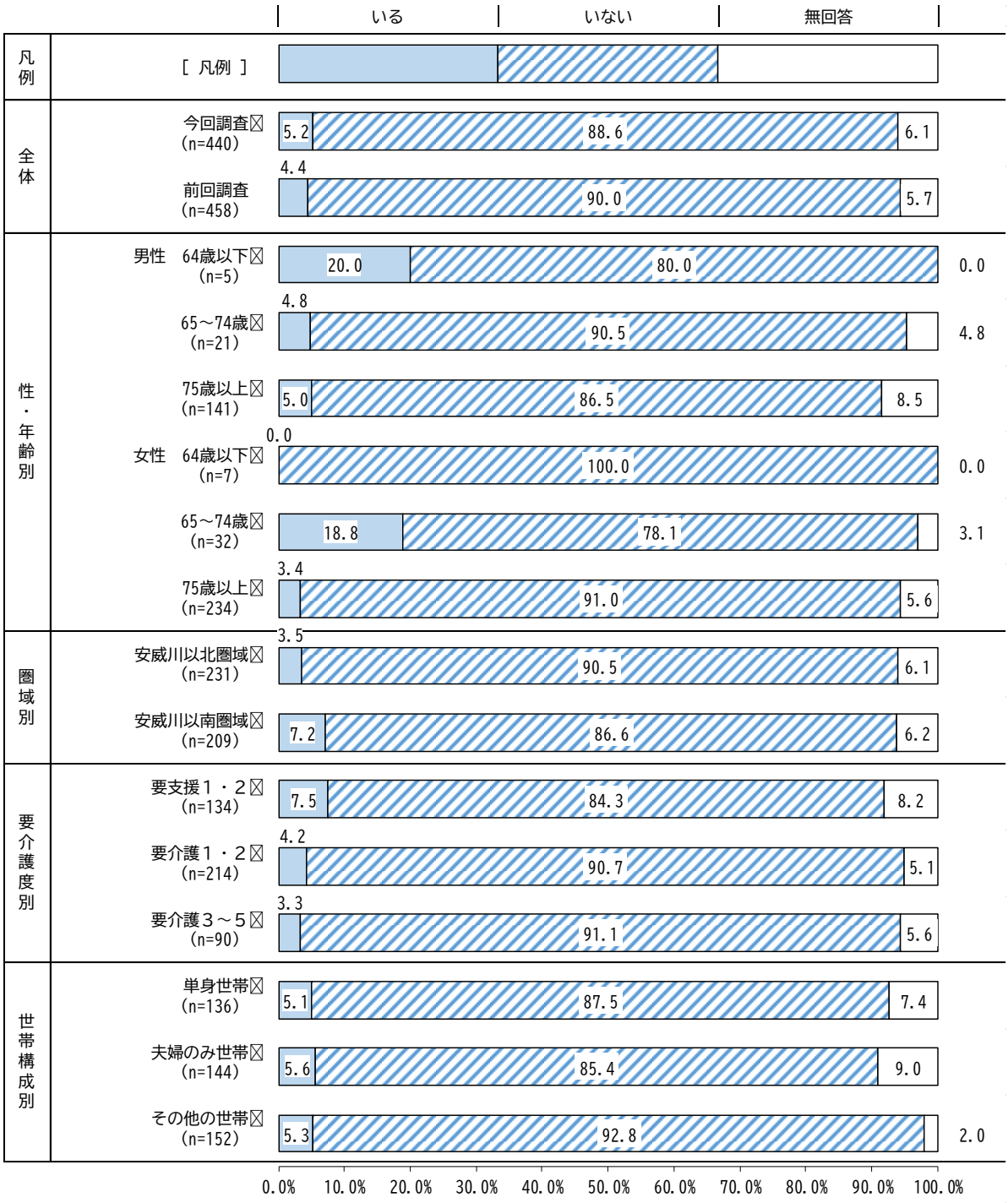
主な介護者の年齢について、「50 歳代」が 29.3%で最も多く、次いで「60 歳代」が 22.7%、「70 歳代」が 18.0%となっています。

単位：%

		母数	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	わからない	無回答
全体		440	－	0.5	1.6	4.1	29.3	22.7	18.0	16.4	1.1	6.4
性・年齢別	男性　64歳以下	5	－	－	△ 20.0	△ 20.0	△ 40.0	－	20.0	－	－	－
	65～74歳	21	－	－	－	－	▼ 4.8	28.6	△ 61.9	－	－	4.8
	75歳以上	141	－	－	0.7	5.0	24.8	▼ 11.3	24.8	26.2	0.7	6.4
	女性　64歳以下	7	－	－	－	－	△ 42.9	△ 42.9	14.3	－	－	－
	65～74歳	32	－	－	9.4	△ 18.8	21.9	▼ 6.3	△ 40.6	－	－	3.1
	75歳以上	234	－	0.9	0.9	1.7	34.6	31.2	▼ 6.8	15.0	1.7	7.3
圏域別	安威川以北圏域	231	－	0.4	2.6	4.3	26.0	24.7	17.7	16.5	1.7	6.1
	安威川以南圏域	209	－	0.5	0.5	3.8	33.0	20.6	18.2	16.3	0.5	6.7
要介護度別	要支援１・２	134	－	－	2.2	6.7	34.3	16.4	11.2	16.4	－	12.7
	要介護１・２	214	－	0.9	1.9	2.3	26.2	25.7	20.6	18.2	1.4	2.8
	要介護３～５	90	－	－	－	4.4	28.9	24.4	22.2	12.2	2.2	5.6

◆ 15 歳未満のこどもの主な介護者の有無

主な介護者の 15 歳未満の子どもの有無について、「いる」が 5.2%、「いない」が 88.6%となっています。



◆ 主な介護者が不安に感じる介護等

主な介護者が不安に感じる介護等について、「外出の付き添い、送迎等」が 33.0%で最も多く、次いで「認知症状への対応」が 31.6%、「入浴・洗身」が 23.4%となっています。

単位：%

		母数	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬
全体		440	14.3	21.8	5.9	23.4	3.9	5.9	9.3	33.0	11.4
性・年齢別	男性　64歳以下	5	－	20.0	－	△ 80.0	－	－	－	40.0	－
	65～74歳	21	△ 47.6	△ 38.1	14.3	△ 38.1	4.8	－	14.3	28.6	－
	75歳以上	141	9.9	19.1	5.0	19.1	8.5	7.8	7.1	31.9	19.1
	女性　64歳以下	7	14.3	－	14.3	△ 42.9	－	14.3	14.3	▼ 14.3	－
	65～74歳	32	▼ 3.1	21.9	3.1	25.0	3.1	3.1	9.4	△ 50.0	15.6
	75歳以上	234	15.8	22.6	6.0	22.6	1.3	5.6	10.3	32.1	7.7
圏域別	安威川以北圏域	231	13.9	22.9	6.5	22.5	4.8	6.5	8.7	32.0	9.5
	安威川以南圏域	209	14.8	20.6	5.3	24.4	2.9	5.3	10.0	34.0	13.4
要介護度別	要支援１・２	134	6.0	11.9	6.0	17.9	0.7	2.2	4.5	38.1	6.7
	要介護１・２	214	14.5	22.0	4.7	26.6	5.6	9.3	10.7	31.3	15.4
	要介護３～５	90	△ 26.7	△ 36.7	8.9	23.3	4.4	3.3	13.3	30.0	7.8

単位：%

		母数	認知症状への対応	医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	不安に感じていることは、特にない	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体		440	31.6	6.6	14.5	13.0	8.6	3.2	6.8	2.7	8.4
性・年齢別	男性　64歳以下	5	－	△ 20.0	△ 40.0	20.0	－	－	－	－	20.0
	65～74歳	21	▼ 19.0	－	4.8	14.3	－	－	－	－	4.8
	75歳以上	141	33.3	11.3	17.0	11.3	9.2	3.5	6.4	2.1	8.5
	女性　64歳以下	7	28.6	－	－	14.3	－	－	14.3	△ 14.3	－
	65～74歳	32	21.9	6.3	9.4	9.4	6.3	3.1	6.3	6.3	9.4
	75歳以上	234	33.8	4.3	14.5	14.1	9.8	3.4	7.7	2.6	8.5
圏域別	安威川以北圏域	231	30.3	8.2	16.9	14.3	7.4	3.9	6.9	3.9	8.2
	安威川以南圏域	209	33.0	4.8	12.0	11.5	10.0	2.4	6.7	1.4	8.6
要介護度別	要支援１・２	134	▼ 20.1	6.0	18.7	20.1	5.2	2.2	9.7	4.5	14.9
	要介護１・２	214	39.3	7.5	13.1	11.7	9.8	3.3	6.5	2.8	5.6
	要介護３～５	90	31.1	5.6	11.1	5.6	11.1	4.4	3.3	－	4.4

◆ 介護離職の状況

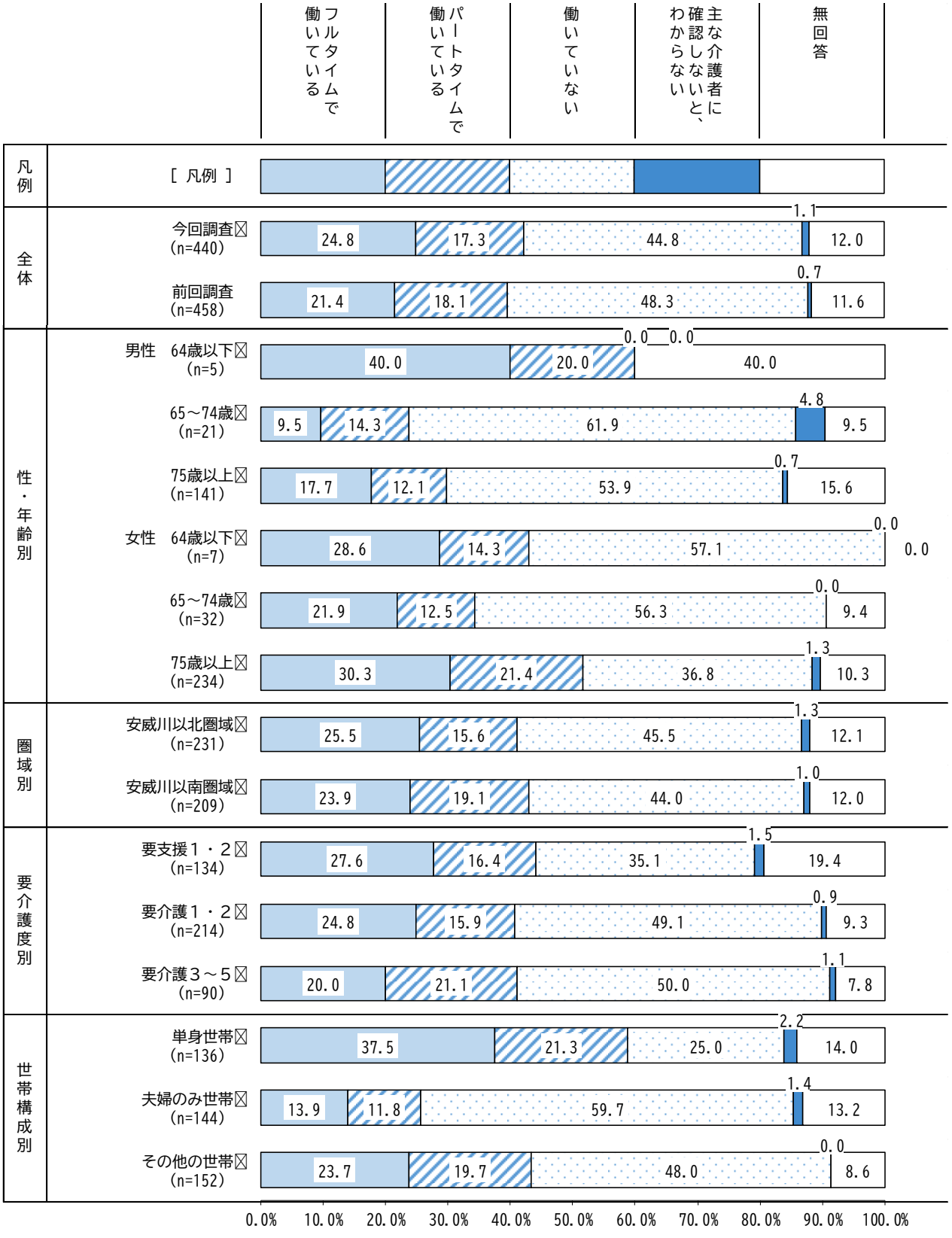
介護離職について、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 63.9%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」「わからない」が 5.7%、「主な介護者が転職した」が 1.6%となっています。

単位：%

		母数	主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者が転職した	主な介護者以外の家族・親族が転職した	介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	わからない	無回答
全体		440	5.7	1.4	1.6	0.5	63.9	5.7	21.6
性・年齢別	男性　64歳以下	5	－	－	－	－	60.0	△ 20.0	20.0
	65～74歳	21	－	4.8	－	－	71.4	9.5	14.3
	75歳以上	141	3.5	1.4	0.7	1.4	59.6	5.7	28.4
	女性　64歳以下	7	14.3	△ 14.3	△ 14.3	－	▼ 42.9	－	14.3
	65～74歳	32	△ 18.8	－	－	－	▼ 50.0	15.6	15.6
	75歳以上	234	5.6	0.9	2.1	－	68.4	3.8	19.2
圏域別	安威川以北圏域	231	6.1	－	1.7	0.4	65.4	5.2	21.2
	安威川以南圏域	209	5.3	2.9	1.4	0.5	62.2	6.2	22.0
要介護度別	要支援１・２	134	3.0	－	2.2	0.7	57.5	6.7	29.9
	要介護１・２	214	6.1	1.4	1.4	0.5	67.8	5.6	17.8
	要介護３～５	90	8.9	3.3	1.1	－	65.6	4.4	16.7

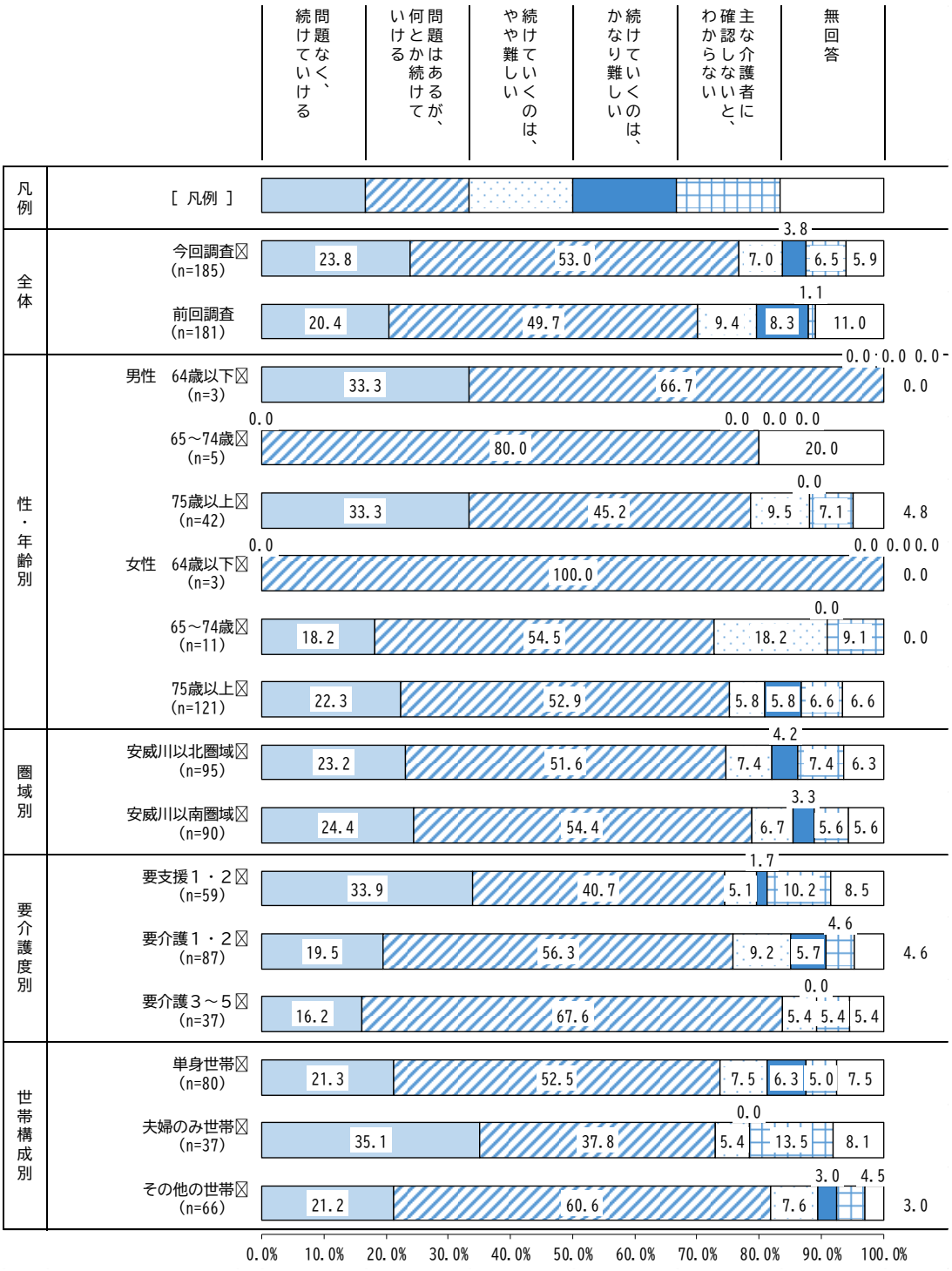
◆ 主な介護者の勤務形態

主な介護者の勤務形態について、「働いていない」が 44.8%で最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が 24.8%、「パートタイムで働いている」が 17.3%となっています。



◆ 今後の仕事と介護の両立

今後の仕事と介護の両立について、「問題はあるが、何とか続けていける」が 53.0%で最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が 23.8%、「続けていくのは、やや難しい」が 7.0%となっています。



◆ 外出する際の移動手段

外出時の移動手段について、「徒歩」が 46.0%で最も多く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」が 43.2%、「タクシー」が 30.3%となっています。

単位：%

		母数	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車	路線バス
全体		778	46.0	10.7	0.5	7.2	43.2	14.1	14.7
性・年齢別	男性　64歳以下	9	44.4	－	－	11.1	44.4	22.2	－
	65～74歳	39	41.0	12.8	－	△ 20.5	▼ 28.2	17.9	15.4
	75歳以上	237	46.0	16.0	0.4	9.7	36.7	11.4	15.6
	女性　64歳以下	11	▼ 18.2	－	－	9.1	36.4	18.2	9.1
	65～74歳	53	37.7	9.4	1.9	7.5	△ 56.6	15.1	9.4
	75歳以上	427	48.0	8.0	0.5	4.4	46.8	15.0	15.2
圏域別	安威川以北圏域	420	49.8	9.3	0.5	5.5	38.8	15.5	8.1
	安威川以南圏域	356	41.3	12.1	0.6	9.3	48.6	12.6	22.5
要介護度別	要支援１・２	353	55.5	12.5	0.8	9.1	38.5	19.5	21.2
	要介護１・２	298	44.0	10.4	0.3	5.4	49.0	10.7	9.7
	要介護３～５	122	▼ 21.3	5.7	－	5.7	42.6	5.7	7.4

単位：%

		母数	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全体		778	16.6	14.0	4.5	19.0	30.3	4.0	1.4
性・年齢別	男性　64歳以下	9	△ 33.3	△ 33.3	11.1	11.1	22.2	11.1	－
	65～74歳	39	10.3	10.3	10.3	10.3	25.6	2.6	2.6
	75歳以上	237	17.7	8.9	5.1	9.7	32.9	2.1	2.1
	女性　64歳以下	11	－	△ 45.5	△ 18.2	－	36.4	－	－
	65～74歳	53	9.4	△ 26.4	7.5	22.6	22.6	5.7	1.9
	75歳以上	427	17.3	14.5	2.8	25.3	30.4	4.9	0.9
圏域別	安威川以北圏域	420	13.1	15.2	4.3	20.2	34.8	5.5	1.4
	安威川以南圏域	356	20.5	12.6	4.8	17.7	25.3	2.2	1.4
要介護度別	要支援１・２	353	15.9	4.2	5.1	24.9	32.9	3.1	1.1
	要介護１・２	298	15.1	15.8	3.0	15.1	28.9	4.4	1.7
	要介護３～５	122	22.1	△ 38.5	6.6	11.5	27.0	5.7	1.6

◆ 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

在宅生活の継続に必要な支援・サービスについて、「特になし」が 27.9%で最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 27.6%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 27.1%となっています。

単位：%

		母数	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ごみ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	特になし	無回答
全体		778	14.0	11.4	17.7	17.2	11.6	27.6	27.1	16.2	12.0	3.7	27.9	13.0
性・年齢別	男性　64歳以下	9	－	△ 22.2	－	－	－	33.3	22.2	－	－	－	△ 66.7	－
	65～74歳	39	5.1	5.1	10.3	7.7	5.1	▼ 15.4	20.5	▼ 5.1	－	2.6	△ 38.5	15.4
	75歳以上	237	11.8	8.9	13.1	15.2	7.2	23.2	24.9	14.8	8.9	4.2	30.0	13.9
	女性　64歳以下	11	9.1	－	18.2	－	－	▼ 9.1	18.2	－	－	－	△ 54.5	18.2
	65～74歳	53	15.1	20.8	22.6	22.6	20.8	26.4	28.3	24.5	△ 22.6	3.8	24.5	15.1
	75歳以上	427	16.4	12.2	20.6	19.4	14.1	31.9	29.0	17.8	14.1	3.7	24.6	12.2
圏域別	安威川以北圏域	420	14.5	11.7	18.6	17.1	11.4	28.1	26.2	16.0	12.1	4.0	27.9	12.1
	安威川以南圏域	356	13.5	11.0	16.6	17.4	11.8	27.2	28.1	16.6	11.8	3.4	27.8	14.0
要介護度別	要支援１・２	353	9.6	7.6	15.6	15.6	9.6	24.6	23.5	14.2	11.9	3.7	28.9	15.3
	要介護１・２	298	19.8	16.8	23.2	22.8	15.4	34.6	31.2	19.8	12.1	4.4	22.8	10.7
	要介護３～５	122	13.1	9.0	10.7	9.0	8.2	20.5	27.9	13.9	11.5	1.6	36.9	12.3

◆ 介護保険サービスの週１回以上の利用状況

介護保険サービスの週１回以上の利用状況について、「通所介護（デイサービス）」が 41.9%で最も多く、次いで「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が 23.0%、「通所リハビリテーション（デイケア）」が 22.8%となっています。

単位：%

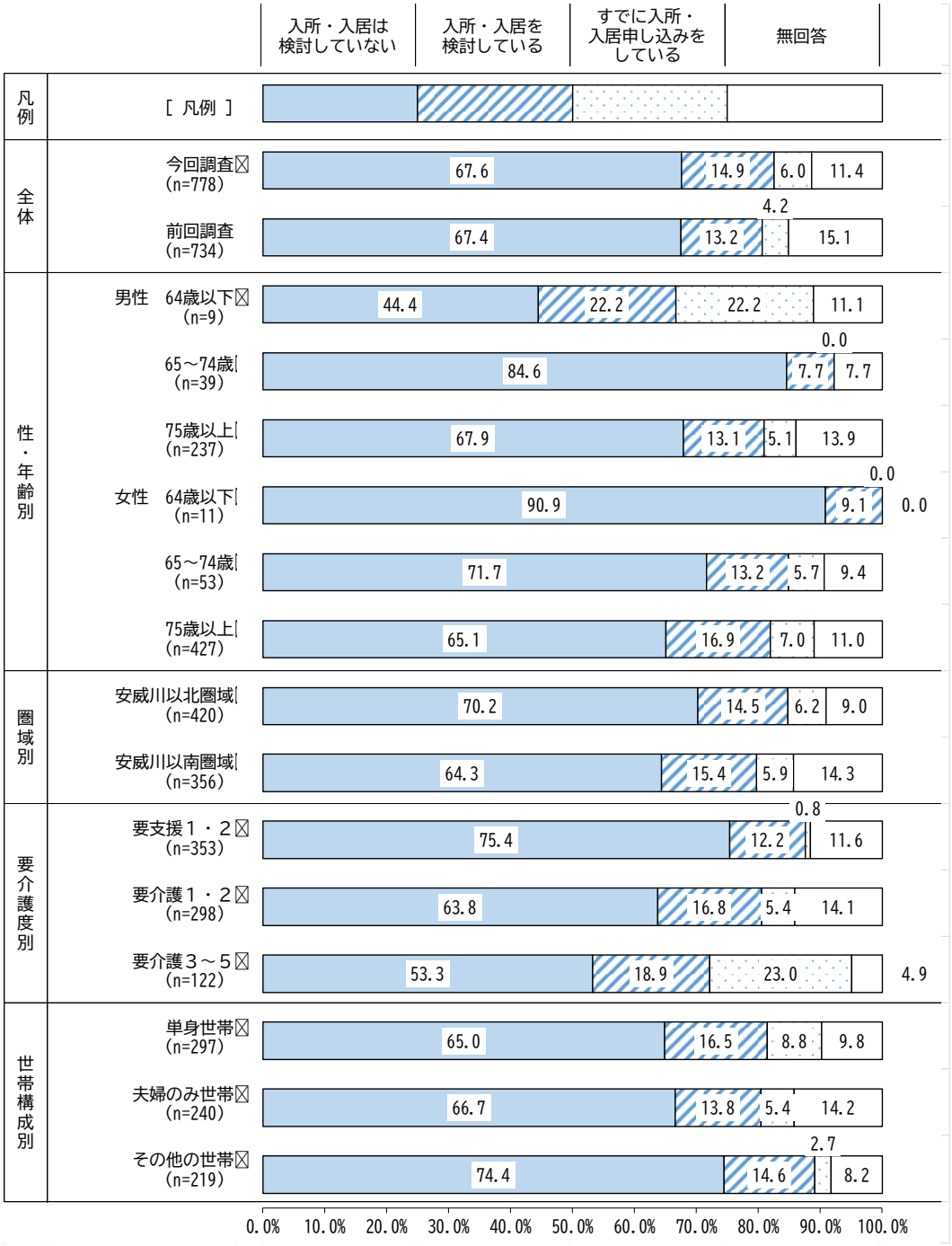
		母数(n)	”１回以上利用した”						
			訪問介護（ホームヘルプサービス）	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護（デイサービス）	通所リハビリテーション（デイケア）	夜間対応型訪問介護
全体		482	23.0	6.4	17.2	20.7	41.9	22.8	0.8
性・年齢別	男性　64歳以下	7	－	14.3	△ 28.6	△ 71.4	▼ 28.6	14.3	－
	65～74歳	28	17.9	7.1	10.7	△ 32.1	32.1	17.9	－
	75歳以上	140	22.9	6.4	15.7	20.0	42.9	18.6	0.7
	女性　64歳以下	9	△ 33.3	－	22.2	△ 77.8	33.3	▼ 11.1	－
	65～74歳	31	22.6	3.2	19.4	16.1	38.7	29.0	－
	75歳以上	265	23.4	6.8	17.7	17.0	43.8	25.7	1.1
圏域別	安威川以北圏域	256	26.6	7.0	19.5	23.0	39.8	22.7	0.4
	安威川以南圏域	224	18.3	5.8	14.3	17.9	44.6	23.2	1.3
要介護度別	要支援１・２	178	21.3	1.7	▼ 6.7	14.0	▼ 22.5	27.5	0.6
	要介護１・２	207	21.7	5.8	18.4	21.3	△ 53.6	22.2	－
	要介護３～５	93	28.0	△ 17.2	△ 33.3	△ 32.3	△ 53.8	15.1	3.2

単位：%

		母数(n)	”１回以上利用した”					
			定期巡回・随時対応型訪問介護看護	小規模多機能型居宅介護	看護小規模多機能型居宅介護	ショートステイ	居宅療養管理指導	無回答
全体		482	7.9	0.6	1.0	11.4	7.7	12.7
性・年齢別	男性　64歳以下	7	△ 28.6	－	－	14.3	14.3	14.3
	65～74歳	28	3.6	－	－	3.6	10.7	7.1
	75歳以上	140	6.4	－	2.1	15.0	10.0	13.6
	女性　64歳以下	9	－	－	－	11.1	11.1	11.1
	65～74歳	31	9.7	3.2	3.2	6.5	6.5	16.1
	75歳以上	265	8.7	0.8	0.4	10.9	6.0	12.5
圏域別	安威川以北圏域	256	8.6	0.8	1.2	10.9	8.6	13.7
	安威川以南圏域	224	7.1	0.4	0.9	12.1	6.7	11.6
要介護度別	要支援１・２	178	4.5	－	－	3.4	7.9	23.0
	要介護１・２	207	8.7	1.4	1.9	8.7	7.7	7.2
	要介護３～５	93	12.9	－	1.1	△ 33.3	7.5	5.4

◆ 入所・入居の検討状況

施設等への入所・入居の検討状況について、「入所・入居は検討していない」が 67.6%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」が 14.9%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 6.0%となっています。



◆ 身近な地域や自宅での生活を続けていくために必要だと思う支援

身近な地域や自宅での生活を続けていくために必要だと思う支援について、「気軽に介護のことなどについて相談できる窓口が身近にあること」が 43.4%で最も多く、次いで「近隣の人がお互いに声かけや見守りを行うこと」が 41.1%、「24 時間体制の安心できるサービスがあること」が 40.0%となっています。

単位：%

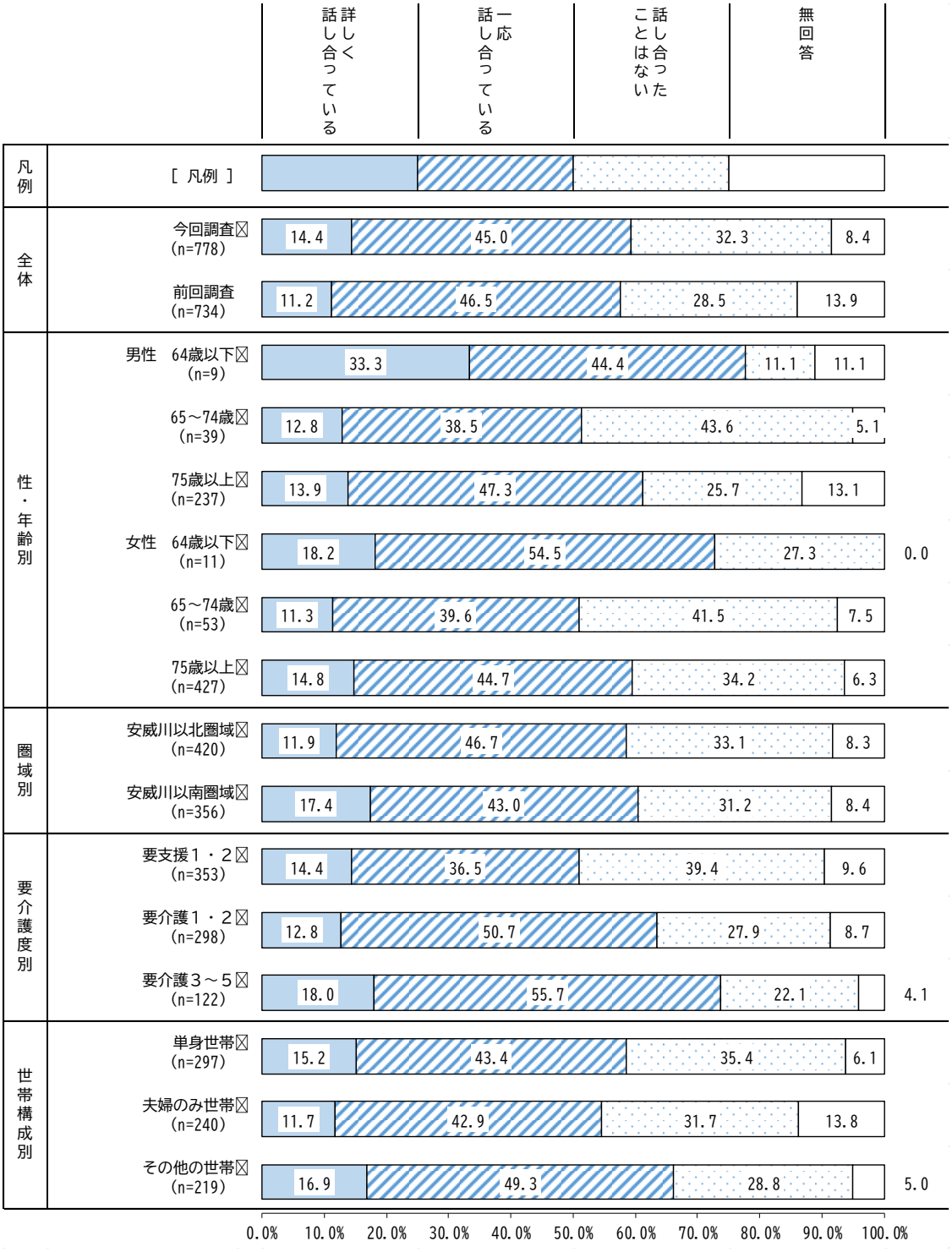
		母数	日中の活動や交流できる場が身近にあること	近隣の人がお互いに声かけや見守りを行うこと	気軽に介護のことなどについて相談できる窓口が身近にあること	24時間体制の安心できるサービスがあること	必要なとき、施設に宿泊できること	災害時にも地域の対応がしっかりしていて、安心して暮らせること	契約や財産管理の手続きを援助してもらえること	手すりの取り付けや段差解消などの住宅改修
全体		778	30.8	41.1	43.4	40.0	32.6	39.7	5.8	18.8
性・年齢別	男性　64歳以下	9	▼ 11.1	▼ 11.1	44.4	33.3	△ 44.4	33.3	－	△ 33.3
	65～74歳	39	▼ 17.9	38.5	35.9	▼ 28.2	35.9	▼ 28.2	2.6	15.4
	75歳以上	237	30.8	42.6	39.7	36.3	30.8	41.4	5.5	18.6
	女性　64歳以下	11	△ 45.5	△ 81.8	△ 63.6	△ 54.5	36.4	36.4	△ 18.2	9.1
	65～74歳	53	34.0	34.0	45.3	43.4	26.4	35.8	5.7	17.0
	75歳以上	427	31.6	41.2	45.7	42.4	34.0	40.7	6.1	19.2
圏域別	安威川以北圏域	420	30.2	38.8	47.4	41.2	33.8	39.0	7.1	17.4
	安威川以南圏域	356	31.5	44.1	39.0	38.5	31.5	40.7	4.2	20.2
中学校区別	第一中学校	233	31.3	40.3	51.5	43.3	32.6	36.5	6.9	18.0
	第二中学校	128	35.2	47.7	38.3	37.5	29.7	43.0	5.5	16.4
	第三中学校	187	28.9	36.9	42.2	38.5	35.3	42.2	7.5	16.6
	第四中学校	147	33.3	44.2	42.9	39.5	34.7	43.5	4.1	21.1
	第五中学校	81	22.2	38.3	▼ 33.3	38.3	28.4	32.1	2.5	24.7
要介護度別	要支援１・２	353	30.6	42.8	43.1	30.9	28.3	42.5	4.5	18.4
	要介護１・２	298	31.2	41.9	46.0	46.3	35.9	37.2	6.7	19.5
	要介護３～５	122	29.5	35.2	39.3	△ 50.0	37.7	37.7	7.4	18.0

単位：%

		母数	在宅や通所でのリハビリテーションが十分できること	訪問介護や通所サービスを利用しながら、医師の訪問診療も利用できること	買い物や通院時などの介助や送迎	簡単な日常生活への支援（電球の交換や窓ふき、ごみ出しなど）	特にない	その他	無回答
全体		778	23.0	30.3	31.7	21.7	3.6	1.4	3.3
性・年齢別	男性　64歳以下	9	△ 33.3	△ 44.4	33.3	22.2	－	△ 22.2	－
	65～74歳	39	28.2	35.9	30.8	20.5	7.7	－	－
	75歳以上	237	18.6	30.4	29.1	16.5	4.6	1.3	4.6
	女性　64歳以下	11	18.2	▼ 18.2	27.3	27.3	－	－	－
	65～74歳	53	26.4	▼ 13.2	39.6	20.8	7.5	－	1.9
	75歳以上	427	24.4	31.9	32.6	24.8	2.1	1.4	3.3
圏域別	安威川以北圏域	420	24.8	30.7	31.9	25.2	3.1	2.1	2.6
	安威川以南圏域	356	20.8	29.8	31.7	17.7	3.9	0.6	4.2
中学校区別	第一中学校	233	27.0	30.0	29.6	24.9	3.0	2.1	1.3
	第二中学校	128	18.0	23.4	28.9	21.1	5.5	－	3.9
	第三中学校	187	21.9	31.6	34.8	25.7	3.2	2.1	4.3
	第四中学校	147	20.4	35.4	33.3	18.4	2.7	0.7	3.4
	第五中学校	81	25.9	29.6	33.3	▼ 11.1	3.7	1.2	6.2
要介護度別	要支援１・２	353	25.2	28.0	31.7	24.6	3.7	2.3	2.8
	要介護１・２	298	22.5	30.5	32.9	19.1	3.0	0.7	4.0
	要介護３～５	122	17.2	35.2	29.5	19.7	4.1	0.8	3.3

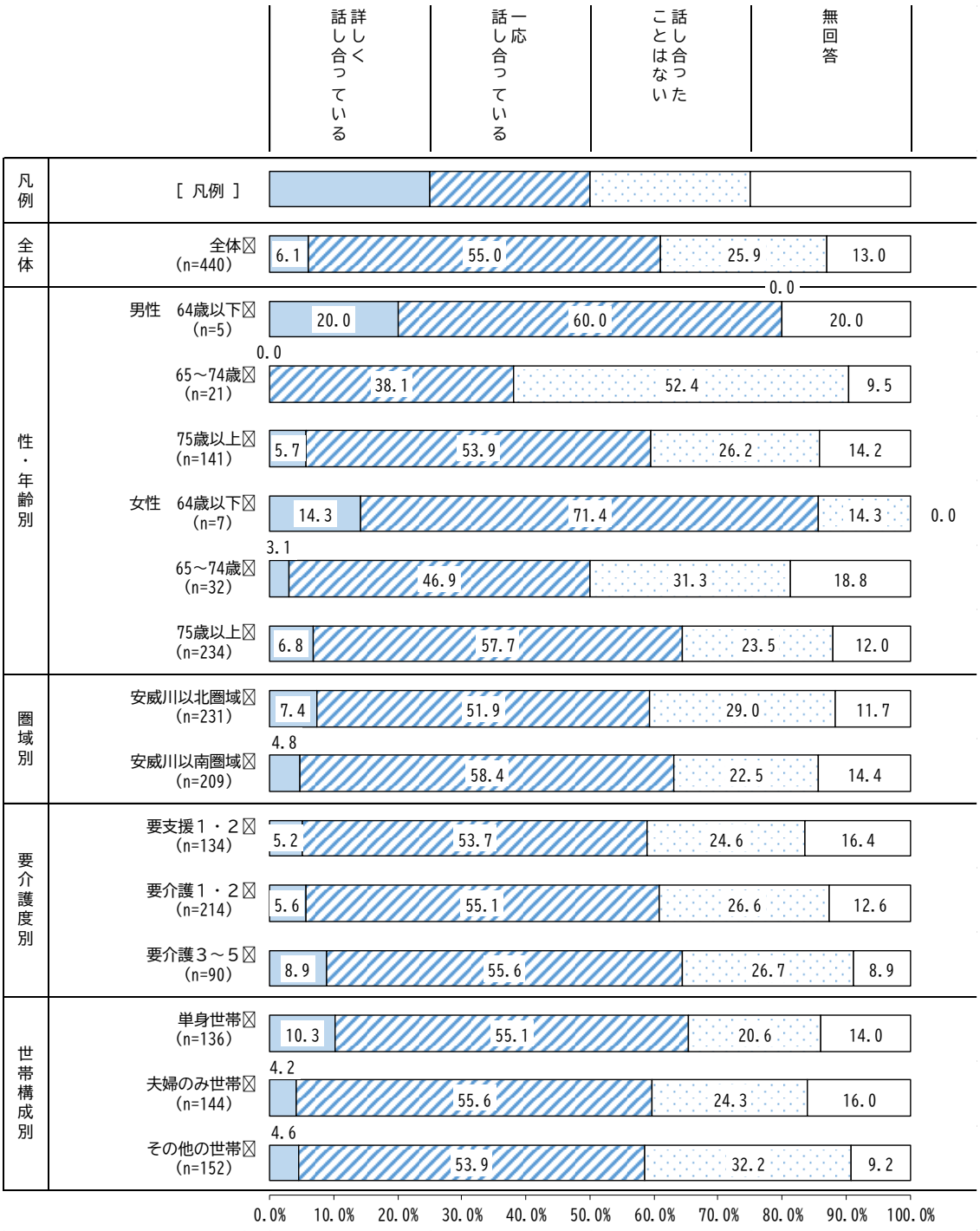
◆ 今後の医療・療養についての家族や医療関係者・介護関係者との話合（調査の対象者本人の回答）

今後の医療・療養についての話し合いの有無について、「一応話し合っている」が 45.0%で最も多く、次いで「話し合ったことはない」が 32.3%、「詳しく話し合っている」が 14.4%となっています。



◆ 今後の医療・療養についての家族や医療関係者・介護関係者との話合（主な介護者）

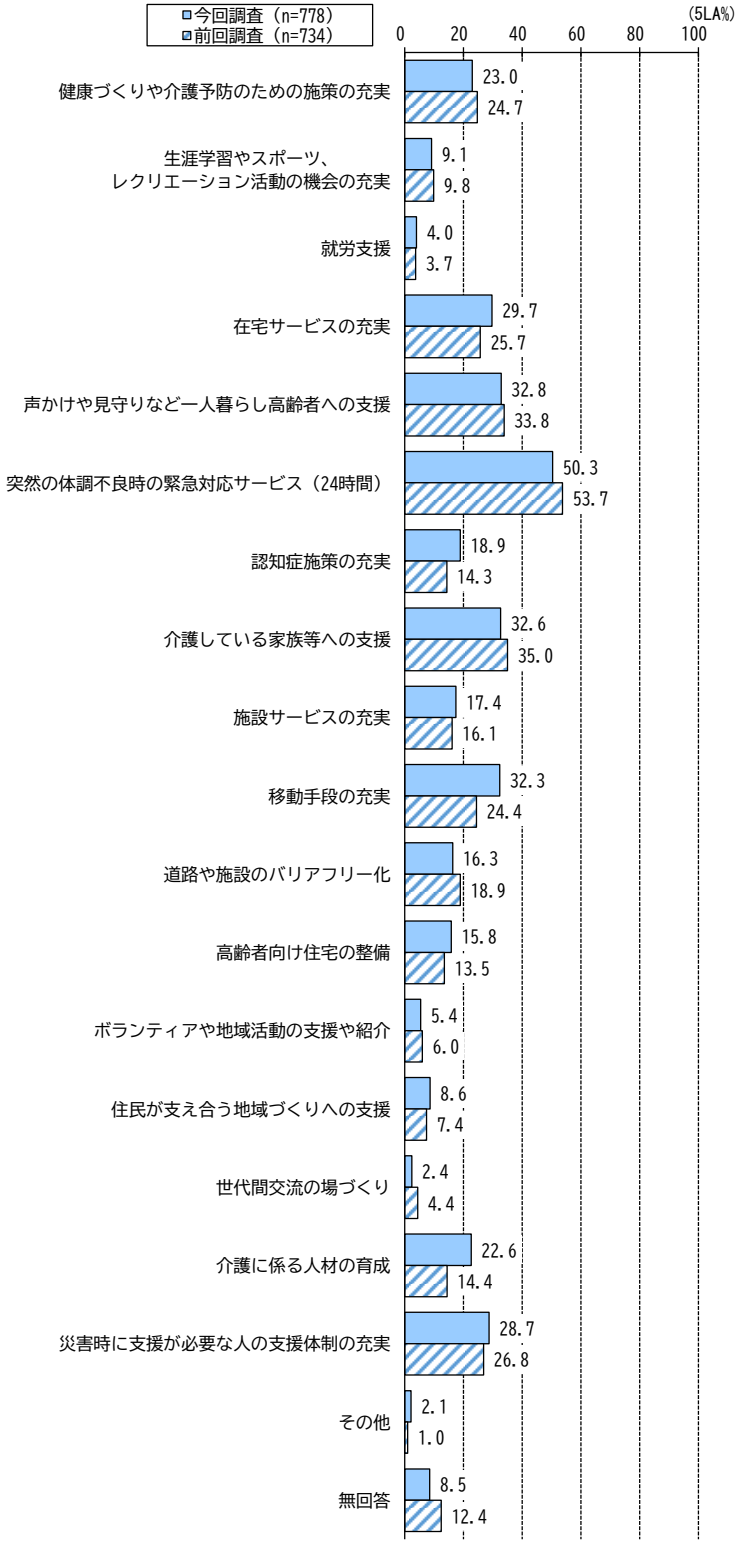
今後の医療・療養について話し合ったことの有無について、「一応話し合っている」が 55.0%で最も多く、次いで「話し合ったことはない」が 25.9%、「詳しく話し合っている」が 6.1%となっています。



◆ 高齢者福祉の施策の拡充

高齢者福祉の施策の拡充について、「突然の体調不良時の緊急対応サービス（24時間）」が50.3%で最も多く、次いで「声かけや見守りなど一人暮らし高齢者への支援」が32.8%、「介護している家族等への支援」が32.6%となっています。

前回調査と比較すると、「移動手段の充実」「介護に係る人材の育成」は前回から7ポイント以上多くなっています。



単位：％

		母数	健康づくりや介護予防のための施策の充実	生涯学習やスポーツ、レクリエーション活動の機会の充実	就労支援	在宅サービスの充実	声かけや見守りなど一人暮らし高齢者への支援	突然の体調不良時の緊急対応サービス（24時間）	認知症施策の充実	介護している家族等への支援	施設サービスの充実	移動手段の充実
全体		778	23.0	9.1	4.0	29.7	32.8	50.3	18.9	32.6	17.4	32.3
性・年齢別	男性　64歳以下	9	△ 44.4	11.1	－	33.3	33.3	▼ 33.3	22.2	△ 66.7	22.2	33.3
	65～74歳	39	20.5	7.7	5.1	35.9	25.6	46.2	▼ 5.1	33.3	15.4	28.2
	75歳以上	237	24.9	8.9	3.4	24.5	30.4	46.0	20.3	32.5	20.7	33.3
	女性　64歳以下	11	－	－	△ 18.2	△ 72.7	27.3	54.5	9.1	△ 45.5	9.1	27.3
	65～74歳	53	22.6	11.3	3.8	30.2	▼ 20.8	50.9	18.9	32.1	22.6	30.2
	75歳以上	427	22.2	9.1	3.7	30.7	36.5	53.4	19.7	31.6	15.2	32.6
圏域別	安威川以北圏域	420	22.4	8.1	4.0	30.7	33.1	54.3	20.5	34.0	19.3	30.5
	安威川以南圏域	356	23.6	10.1	3.7	28.4	32.6	45.8	17.1	30.9	15.2	34.6
要介護度別	要支援１・２	353	28.0	10.5	3.4	26.6	34.6	49.6	12.2	25.2	15.6	32.0
	要介護１・２	298	20.8	8.4	4.7	33.6	30.9	50.3	24.2	34.6	20.1	31.5
	要介護３～５	122	▼ 12.3	4.9	3.3	29.5	32.8	52.5	25.4	△ 48.4	16.4	34.4

単位：％

		母数	道路や施設のバリアフリー化	高齢者向け住宅の整備	ボランティアや地域活動の支援や紹介	住民が支え合う地域づくりへの支援	世代間交流の場づくり	介護に係る人材の育成	災害時に支援が必要な人の支援体制の充実	その他	無回答
全体		778	16.3	15.8	5.4	8.6	2.4	22.6	28.7	2.1	8.5
性・年齢別	男性　64歳以下	9	11.1	△ 44.4	－	11.1	－	－	22.2	－	11.1
	65～74歳	39	23.1	7.7	5.1	7.7	－	20.5	28.2	2.6	7.7
	75歳以上	237	13.1	13.9	5.5	8.0	1.7	22.4	27.0	1.3	11.8
	女性　64歳以下	11	△ 45.5	△ 36.4	9.1	－	－	▼ 9.1	27.3	－	－
	65～74歳	53	15.1	13.2	1.9	5.7	－	22.6	32.1	7.5	9.4
	75歳以上	427	17.1	16.9	5.9	9.6	3.5	23.7	29.5	1.9	6.8
圏域別	安威川以北圏域	420	17.4	17.9	5.2	8.8	3.3	25.0	26.2	2.4	6.9
	安威川以南圏域	356	15.2	13.5	5.6	8.4	1.4	19.7	31.7	1.7	10.4
要介護度別	要支援１・２	353	17.3	17.0	5.4	8.5	2.3	19.8	30.3	2.3	7.9
	要介護１・２	298	15.8	16.8	4.7	10.1	3.4	27.9	27.5	2.3	8.4
	要介護３～５	122	15.6	10.7	7.4	4.9	0.8	18.0	27.9	0.8	10.7

◆ 地震や風水害などの災害時に対し、不安に思うこと

災害時に不安に思うことについて、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が 61.4%で最も多く、次いで「健康面に不安がある（治療の必要な持病がある、服薬など）」が 52.6%、「防災用品や非常食を常備していない」が 35.2%となっています。

単位：%

		母数	災害に関する情報が入手できるかわからない	どこ（誰）に助けをもとめてよいかわからない（身近に頼れる人がいない）	安全な場所まで自力で避難できるかわからない	地域の避難場所がどこなのか知らない	地域の危険な箇所がわからない	防災用品や非常食を常備していない	健康面に不安がある（治療の必要な持病がある、服薬など）	その他	不安は特にない	無回答
全体		778	26.0	23.0	61.4	15.9	18.1	35.2	52.6	5.3	10.4	4.9
性・年齢別	男性　64歳以下	9	▼ 11.1	▼ 11.1	66.7	11.1	11.1	44.4	△ 66.7	11.1	－	11.1
	65～74歳	39	23.1	28.2	53.8	12.8	20.5	35.9	▼ 35.9	2.6	10.3	2.6
	75歳以上	237	25.3	21.5	57.4	13.1	15.2	35.4	50.6	6.3	11.0	7.6
	女性　64歳以下	11	▼ 9.1	18.2	△ 72.7	18.2	9.1	▼ 9.1	45.5	－	－	－
	65～74歳	53	24.5	24.5	58.5	△ 28.3	20.8	35.8	60.4	5.7	7.5	1.9
	75歳以上	427	27.6	23.7	64.6	16.4	19.7	35.6	54.3	4.9	10.5	4.0
圏域別	安威川以北圏域	420	21.0	21.2	58.3	16.9	18.1	36.0	53.3	5.5	12.1	5.2
	安威川以南圏域	356	32.0	25.3	65.4	14.9	18.3	34.6	52.0	5.1	7.9	4.5
要介護度別	要支援１・２	353	26.9	24.4	62.3	14.4	20.7	37.1	54.7	4.5	8.8	4.5
	要介護１・２	298	26.2	22.8	60.4	19.1	16.4	35.9	52.7	6.0	10.4	5.4
	要介護３～５	122	23.8	20.5	63.1	12.3	14.8	27.9	47.5	4.9	13.9	4.9

第3章　計画の基本目標と施策体系

1　基本理念

一人ひとりが自分らしく　安心して健やかに暮らせるよう

みんなで支え合う　つながりのまち

全ての高齢者の人権を尊重し、一人ひとりが住み慣れたまちで自分らしく安心して健やかに暮らせるよう、高齢者を支える地域包括ケアシステムを深化・推進していくことが求められます。そのために、「支える側」「支えられる側」という一方的な関係でなく、市民一人ひとりがその人の希望に応じて地域で役割を持ち、互いに支え合って暮らし続けられるまちをめざし、第９期計画で掲げた基本理念を継承し、取組を展開していきます。

2　基本目標

（１）いつまでも健康で、生きがいを持って暮らせるまちづくり

介護サービスの提供にとどまらず、介護予防からリハビリの充実による機能維持・回復まで一体的に支援します。趣味や生きがいづくりを通じた社会参加で精神的な元気を支えるとともに、関係課と連携した保健・予防事業により心身の健康づくりを推進し、誰もが自分らしく長く自立して暮らせるまちをめざします。

（２）様々な人が連携し、支え合えるまちづくり

高齢の単身・夫婦世帯や認知症の人が増える中、地域での見守りや支え合いの重要性が高まっています。また、医療・介護双方を必要とする高齢者の増加に伴い、専門職同士の連携も不可欠です。本市のコンパクトなまちという強みを活かし、市民や関係機関が無理なくつながり、互いに支え合える関係づくりを推進します。

（３）高齢者が安心してサービスを受けられるまちづくり

75歳以上や85歳以上の高齢者増加に伴い介護需要の拡大が見込まれる一方、支え手となる現役世代については、都市開発などによる一時的な増加は期待されるものの、長期的には減少していく見込みとなっています。必要なサービスを確実に届けるため、介護職員の確保・定着に取り組むとともに、介護補助人材の育成や地域での支え合い活動を推進し、多様な人材が多様な形で高齢者を支え合える体制を整えます。

3　施策体系

基本理念	基本目標		施策の基本的な方向
一人ひとりが自分らしく 安心して健やかに暮らせるよう みんなで支え合う つながりのまち	地域包括ケアシステムの深化・推進	1 いつまでも健康で、生きがいを持って、暮らせるまちづくり【自立支援と重度化防止】	（1）介護予防・健康づくりの推進
			（2）生きがいづくり・社会参加の支援
		2 様々な人が連携し、支えあえるまちづくり【高齢者を支援するネットワークの強化】	（1）地域包括支援センターの機能強化
			（2）生活支援体制整備の推進
			（3）医療と介護の連携の推進
			（4）認知症施策の推進【認知症施策推進基本計画】
			（5）ひとり暮らし高齢者等への支援
			（6）高齢者の権利擁護の推進
		3 高齢者が安心してサービスを受けられるまちづくり【高齢者を支えるサービスの整備】	（1）高齢者・家族介護者への支援
			（2）介護保険制度の適正・円滑な運営
			（3）介護保険サービスの質の向上
			（4）介護人材の確保と生産性の向上